FUJIFILM

DIGITAL CAMERA

FINEPIX S100FS

使用説明書/ソフトウェア取扱ガイド

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。
この説明書には、フジフイルムデジタルカメラ
ファインピックスS100FSおよび付属のソフトウェアの使い方が
まとめられています。
内容をご理解の上、正しくご使用ください。

本製品の関連情報はホームページをご覧ください。
http://fujifilm.jp/personal/digitalcamera/

準備する
使ってみよう
もっと使いこなそう ・撮影編
・再生編
・動画編
カメラの設定を変える
プリンターなどに接続する
ソフトウェアを使う
取扱上の注意など
索引

BL00672-103

まずお確かめください（付属品）

下記の付属品がすべてそろっているかお確かめください。

● 充電式バッテリー NP-140（1個）

● バッテリーチャージャー
BC-140（1式）

● ストラップ（1本）

● レンズキャップ（1個）

● レンズキャップホルダー（1個）

● レンズフード（1個）

● 専用A/V（音声／映像）ケーブル（1本）

● 専用USBケーブル（1本）

● CD-ROM（1枚）
Software for FinePix

● 使用説明書（本書1部）

● お取り扱いにご注意ください（1部）

● 保証書（1部）

カメラの特長

●1110万画素　スーパーCCDハニカムⅧHR
新開発のCCDおよび画像処理エンジン「リアルフォトエンジンⅢ」を搭載し、さらに高画質・高感度（ISO10000）を実現しました。

●レンズシフト式手振れ補正機能付きワイドレンジな14倍ズームレンズ
f＝28mm〜400mm（35mm換算）の広角から超望遠の撮影が可能で、さらに1cm超マクロ撮影が可能です。

●フィルムシミュレーションと多彩なシーンポジション
PROVIA、Velvia、ASTIA、PORTRAITなど4種類のフィルムシミュレーションと14種類のシーンポジションを搭載し、被写体に合わせた撮影が簡単に可能です。

●白トビ、黒つぶれを軽減するワイドダイナミックレンジ
100%、200%、400%のダイナミックレンジをシーンに応じて選択できます。

●多彩なブラケティング機能
AEブラケティングの他、フィルムシミュレーションブラケティング、ダイナミックレンジブラケティング撮影が可能です。

●2.5型マルチアングル液晶モニター
全方向80°視野角、チルト方式液晶モニターを採用し、ハイアングル・ローアングルでのスムーズな撮影が可能です。

●色再現豊かな液晶ビューファインダー
撮影画像に近い色再現を実現。画作りを確認しながらの撮影が可能です。

●秒7コマの高速連写（3M画素時）連続50コマおよび高速再生表示
ダイヤル操作により連写画像を高速に再生表示することができます。

●カスタムモード
設定した撮影条件をC1、C2の2つに保存し、モードダイヤルの選択で簡単に呼び出すことができます。

FINEPIX 基本操作ガイド

シャッターボタン（P.31）

半押しするとピントと明るさが決まります。全押しすると撮影されます。

電源スイッチ（P.25）

電源をON/OFFします。

ホットシュー（P.94）

外部フラッシュを取り付けます。

フラッシュポップアップボタン（P.75）

内蔵フラッシュを使うときに、このボタンを押して、フラッシュをポップアップします。

連写ボタン（P.80）

コマンドダイヤルと併用して、連写モードが設定されます。

ワンプッシュAFボタン（P.70）

いったんAFでピント合わせをします。MFでのみ使用できます。

ブレ防止ボタン（P.36）

光学手ブレ補正を活用して手ブレを軽減します。

フォーカスモード切り換えレバー（P.29、69、70）

C-AF（コンティニュアスAF）、S-AF（シングルAF）、MF（マニュアルフォーカス）を切り換えます。

コマンドダイアル

画像やメニューを選択できます。 また、"ISO"（感度）ボタン、"[露出補正]"露出補正ボタン、"[連写]"連写ボタンと併用して、感度、露出補正、絞り値、連写モードを設定します。

[露出補正] 露出補正ボタン（P.65）

コマンドダイアルと併用して、露出補正の値が設定されます。

ISO（感度）ボタン（P.72）

コマンドダイアルと併用して、感度が設定されます。

シンクロターミナル（P.95）

シンクロコードを必要とするフラッシュを接続するときに使用します。

フォーカスリング（P.70）

マニュアルフォーカス撮影で、ピントの調節をします。

モードダイヤル（P.54）

モードダイヤルを回して撮影モードを切り換えます。

AUTO：オート
FSB：フィルムシミュレーションブラケティング
SP1 / SP2：シーンポジション
P：プログラムオート
S：シャッター優先オート
A：絞り優先オート
M：マニュアル
C1/C2：カスタムモード
[動画]：動画

ズームリング（P.40）

ズームして撮影することができます。

次ページにつづく

視度調節ダイヤル（P.30）
ファインダー内の像を見やすくします。AFフレームが最もシャープに見える位置に合わせてください。

AE-L（AEロック）ボタン（P.68）
露出を固定します。

測光モード切り換えダイヤル（P.67）
カメラが被写体の明るさを判断する方法を変更します。

再生ボタン
撮影モードから再生モードへ切り換えます。

EVF/LCD（ファインダー/モニター切り換え）ボタン（P.30）
”EVF/LCD”ボタンを押すたびにファインダー（EVF）と液晶モニター（LCD）が切り換わります。撮影状況に応じて使用します。

顔キレイナビ/赤目補正ボタン（P.34）
人物を撮影するとき、顔にピントを合わせて撮影することができます。また、フラッシュ発光によってひとみが赤く写った画像（赤目現象）を自動的に補正して記録します。

MENU/OKボタン
撮影メニューや再生メニューを表示したり設定を決定するときなどに使用します。

DISP（表示）/BACK（戻る）ボタン（P.41）
DISP：画面の表示を切り換えます。
BACK：操作を途中でやめるときなどに使用します。

十字（▲▼◀▶）ボタン
撮影時：▲：”Q”デジタルズーム
◀：”🌷”マクロ
▶：”⚡”フラッシュ
▼：”⏲”セルフタイマー
再生時：画像の選択、動画のコマ送り

目次

まずお確かめください（付属品）......2
カメラの特長......3
目次......7
本書について......10
各部の名前......11
画面の表示例......14

準備する

ストラップ、レンズキャップ、レンズフードを取り付ける......15
バッテリーを充電する......17
バッテリーを入れる......19
メモリーカードを入れる......21
電源を入れる／切る......25
　使用する言語と日時を設定する......25
日時を再設定する......28

使ってみよう

静止画を撮影してみましょう（AUTO オート撮影）......29
　顔キレイナビ（顔検出機能）／赤目補正を使用して撮影する......34
　ブレ防止機能を使用して撮影する......36
　ピントと明るさを固定して撮影する......37
　AF補助光について......39
　ズームして撮影する......40
　構図を工夫するために......41
撮影した画像を見る......42
画像／動画を消去する（消去）......48
　ダイレクト消去する......48
　再生メニューで消去する......48

もっと使いこなそう（撮影編）

撮影条件の自動変更について......51
撮影機能を使いこなす一設定の手順......52
撮影モードを設定する......54
　AUTO オート......54
　FSB フィルムシミュレーションブラケティング......54
　SP1、SP2 シーンポジション......55
　P プログラムオート......58
　S シャッタースピード優先オート......59
　A 絞り優先オート......61
　M マニュアル......62
　C1、C2 カスタムモード......64
画像の明るさを変える（露出補正）......65
明るさの測定方法を変える（測光モード）......67
AE-L AEロックを使用する......68
コンティニュアスAFを使用して撮影する......69
マニュアルフォーカスを使用して撮影する......70
感度を変更する（ISO感度）......72
近距離撮影をする（マクロ/スーパーマクロ）......74
フラッシュ撮影する（iフラッシュ）......75
セルフタイマーを使って撮影する......78
連続撮影する......80
　連写......81
　高速連写3M（秒7コマ）......81
　DR ダイナミックレンジブラケティング......82
　AEブラケティング......82
撮影メニューを使う......84
　撮影メニューの設定方法......84
　撮影メニュー一覧......85

次ページにつづく

撮影メニュー 87
フィルムシミュレーションを設定する
（フィルムシミュレーション）.......... 87
ダイナミックレンジを設定する
（ダイナミックレンジ）.......... 87
記録される画像の大きさを変える
（ピクセル）.......... 88
色の濃さを設定する
（カラー）.......... 89
コントラストを設定する
（トーン）.......... 89
画像の輪郭を強調／柔らかくする
（シャープネス）.......... 90
色合いを調節する
（ホワイトバランス）.......... 90
ホワイトバランスを微調整する
（WB微調整）.......... 92
同じ画像を露出を変えて撮影する
（AEブラケティング）.......... 92
フラッシュの発光量を変える
（フラッシュ（光量補正））.......... 93
外部フラッシュの設定をする
（外部フラッシュ）.......... 94
ピント合わせのエリアを変える
（AFモード）.......... 96
ピント合わせを早くする
（クイックショット）.......... 98
お好みの設定を保存する
（カスタムモード保存）.......... 98

もっと使いこなそう（再生編）

再生インフォメーション機能を使用する 99
再生メニューを使う 100
再生メニューの設定方法 100
再生メニュー一覧 100
再生メニュー 101
連続して再生する
（スライドショー）.......... 101
赤目画像を補正する
（赤目補正）.......... 101
画像を回転する
（画像回転）.......... 102
画像を保護する
（プロテクト）.......... 103
画像をコピーする
（画像コピー）.......... 105
画像に音声を入れる
（ボイスメモ）.......... 106
画像を切り抜く
（トリミング）.......... 109
プリントする画像を指定する
（プリント予約）.......... 111

もっと使いこなそう（動画編）

動画を撮影する 116
動画サイズを変更する 118
動画を再生する 119

カメラの設定を変える

カメラの設定を変える—SETセットアップ 121
セットアップメニューの操作 121
セットアップメニュー一覧 122

プリンターなどに接続する

テレビに接続する 132
ACパワーアダプター（別売）を使用する 133
プリンターに接続してプリントする
—PictBridge機能 134

ソフトウェアを使う

パソコンと接続する 139
Windowsにインストールする 140
Mac OS Xにインストールする 143
カメラとパソコンを接続する 146
ソフトウェアを削除する 150
トラブルシューティング 151

システムアップ機器（別売）............................. 152
別売アクセサリーの紹介 153
警告表示 155
困ったときは 160
主な仕様 165
用語の解説 171
索引 172
ソフトウェアのお問い合わせについて 177
アフターサービスについて 179

使用可能なメモリーカードについて

本機では、**xD-ピクチャーカード** とSDメモリーカード、SDHCメモリーカードをお使いになれます。本書では、これらを「メモリーカード」または「SDメモリーカード」と表記します。

本書について

近距離撮影をする（マクロ/スーパーマクロ）

被写体に近づいて大きく撮影したいときに使用します。

使用可能撮影モード：AUTO、FSB、P、S、A、M

“（◀）”ボタンを押して、マクロに設定します。
“（◀）”ボタンを押すたびにマクロの設定が変わります。

チェック！
- マクロ撮影でピントが合う範囲
  広角端：約10cm～約3.0m
  望遠端：約90cm～約3.0m
- スーパーマクロ撮影でピントが合う範囲
  約1cm～約1.0m
  焦点距離：約28mm 固定（35mm フィルム換算）
- マクロ撮影でのフラッシュ撮影可能距離
  （レンズフード未装着時）
  広角端：約30cm～約80cm
  望遠端：約90cm～約1.3m
  広角端で被写体に近づきすぎてフラッシュ撮影すると、レンズの影が映ることがあります。その場合は被写体との距離を少し離し拡大してください。

メモ
- マクロ撮影時は手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
- マクロ撮影は次のとき自動的に解除されます。

この操作が行えるモードを示しています。

注意

カメラを使用するときに、故障などを防ぐために注意していただきたいことを記載しています。

チェック！

実際に操作するときに確認していただきたいことを記載しています。

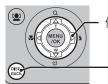
メモ

カメラを使用するにあたって知っておくと便利なこと、参考になることを記載しています。

■ 使用可能なメモリーカードについて

本機では、**xD-ピクチャーカード** とSDメモリーカード、SDHCメモリーカードをお使いになれます。本書では、これらを「メモリーカード」または「SDメモリーカード」と表記します。

■ ボタンのイラストについて

本書ではボタンを図のように説明しています。

例：▶ ボタンを押すとき

DISP/BACKボタンを押すとき

■ コマンドダイヤルについて

▲▼◀▶の代わりに、コマンドダイヤルを左右に回すことによって、再生する画像やメニューをより簡単に選ぶことができます。本書では、▲▼◀▶で説明しています。

各部の名前

＊（　　）内のページに詳しい説明があります。

AF補助光ランプ（P. 39）／
セルフタイマーランプ（P. 79）
フラッシュ（P. 29、75）
ホットシュー（P. 94）
フラッシュポップアップ
ボタン（P. 29、75）
連写ボタン（P. 80）
ブレ防止ボタン（P. 36）
端子カバー
フォーカスモード
切り換えレバー
（P.29、69、70）
ワンプッシュ
AFボタン（P. 70）
スピーカー
USB端子
A/V OUT（音声／映像出力）
端子（P. 132）
DC IN 8V（電源入力）
端子（P. 133）
DC IN 8V
A/V
OUT

液晶ファインダー（EVF）
EVF/LCD（ファインダー／モニター
切り換え）ボタン（P. 30）
液晶モニター（LCD）
DISP（表示）／BACK（戻る）
ボタン（P. 41、43）
三脚用ねじ穴
バッテリーカバー（P. 19）
AE-Lボタン（P.68）
測光モード切り換えダイヤル（P.67）
（再生）ボタン（P.42）
インジケーターランプ（P.34）
顔キレイナビ（P. 34、47）
／赤目補正ボタン（P. 34）
十字（▲▼◀▶）ボタン
MENU（メニュー）／OKボタン
スロットカバー（P. 21）
PUSH TO EJECT
メモリーカード用
スロット（P. 22）
EVF
LCD
DISP/
BACK
MENU
/OK

画面の表示例

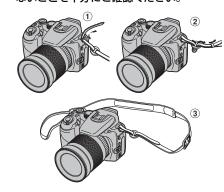
■ 静止画撮影時

■ 再生時

本機は メモリーカード がなくても、カメラの内蔵メモリーにより、撮影できます。内蔵メモリーを使用しているときは、画面に“IN”が表示されます。

ストラップ、レンズキャップ、レンズフードを取り付ける

ストラップ、レンズキャップを取り付ける

❶ストラップをレンズキャップホルダーに通してから、ストラップ取り付け部に取り付けます。両端を取り付けたら、ストラップが外れないことを十分にご確認ください。

メモ

撮影時はレンズキャップの写り込みを防ぐため、レンズキャップをレンズキャップホルダーに取り付けます。

❷レンズキャップのヒモをストラップに通して取り付けます。

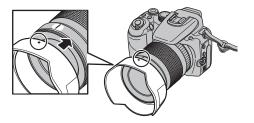
❸レンズキャップを取り付けます。

注意

- ストラップの取り付けかたを間違えると、カメラが落下するおそれがありますので、しっかり取り付けてください。
- レンズキャップをなくさないように、ヒモの取り付けをおすすめします。

レンズフードを取り付ける

レンズフードを取り付けると、逆光時にゴーストやフレアを軽減し、きれいに撮影できます。

❶ カメラとレンズフードの指標を合わせて押し込みます。

❷ カチっと音がするまで時計回りに回して取り付けます。

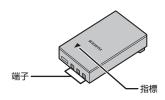
メモ

レンズフードはソフトケースへ収納するときなどのために逆向きに取り付けることができます。

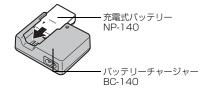
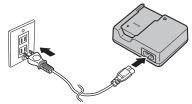
バッテリーを充電する

お買い上げ時にバッテリーは充電されていません。カメラをお使いになる前に必ず充電してください。

■ 使用するバッテリー

充電式バッテリー NP-140（1個）

> **注意**
>
> - 工場出荷時にバッテリーはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。
> - バッテリーにラベルなどをはらないでください。カメラから取り出せなくなることがあります。
> - バッテリーの端子間を短絡させないでください。発熱して危険です。
> - バッテリーについてのご注意は別紙の「お取り扱いにご注意ください」をご参照ください。
> - 必ず専用の充電式バッテリー NP-140をお使いください。弊社専用品以外の充電式バッテリーをお使いになると故障の原因になることがあります。
> - 外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。

❶ 充電式バッテリー NP-140をバッテリーチャージャー BC-140に取り付けます。

表示に従って正しくセットしてください。

❷ バッテリーチャージャー（BC-140）と電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

❸ 充電ランプが橙色に点滅して充電を開始します。
充電が終了すると、充電ランプは橙色に点灯します。
約130分で充電が完了します。

次ページにつづく

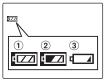
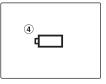
■ 充電ランプと状態

充電ランプ	状態	対処
消灯	バッテリー未装着	充電するバッテリーを装着してください
	充電中にバッテリーが異常状態になった	電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外してください
橙色点灯	フル充電（充電終了）	バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外してください
橙色点滅	充電中	—

注意

- 使用しないときは電源コンセントから抜いてください。
- 電極に汚れがあると充電できない場合があります。充電前にバッテリーの電極、充電器の端子を乾いたきれいな布などで清掃することをおすすめします。
- 低温時は充電時間が長くなることがあります。
- NP-140は使わなくても、少しずつ放電しています。撮影の直前（1〜2日前）にはNP-140を充電してください。

バッテリー残量について

電源を入れ、液晶モニターでバッテリー残量を確認します。

①バッテリーの残量は十分にあります（白点灯）。
②バッテリーの残量は約半分以下です（白点灯）。
③バッテリーの残量が不足しています。まもなく電源が切れますので、バッテリーを交換するか充電をおすすめします（赤点灯）。
④バッテリー残量がありません。ただちに表示が消えて動作を終了します。バッテリーを交換するか充電をしてください（赤点滅）。

注意

- 温度が低いところで使用したとき、バッテリーの特性上バッテリー残量不足の表示（、、）が早く出る場合があります。バッテリーをポケットなどで温めて使用することをおすすめします。
- 残量のないバッテリー（赤点滅）は、故障の原因になるため、必ず充電をしてから使用してください。
- モードによっては“”から“”になるまでの時間が短くなることがあります。

バッテリーを入れる

デジタルカメラには、動かすためのバッテリーが必要です。まずはバッテリーをカメラに入れましょう。

❶バッテリーカバーを開けます。

チェック！

バッテリーカバーを開けるときは、必ず電源が切れていることを確認してください。

注意

- バッテリーカバーは、絶対に電源を入れたまま開けないでください。メモリーカードまたは画像ファイルなどが壊れることがあります。
- バッテリーカバーに無理な力を加えないでください。

❷バッテリーを入れます。

指標の位置が合うように確認してから、バッテリーを入れます。バッテリーがきちんと固定されたことを確認します。

注意

バッテリーの向きに気を付けて入れてください。

❸バッテリーカバーを閉めます。

チェック！

カチッと音がするまで、バッテリーカバーを完全に押し込んでください。

次ページにつづく

バッテリーを取り出すには

バッテリーカバーを開け、バッテリー取り外しつまみを指で動かしてロックを外してください。

注意

バッテリーを取り出すときは必ず電源を切ってください。

メモ

AC駆動したいときは、別売のACパワーアダプター AC-84Vが必要です。使い方については、付属の使用説明書をご参照ください。

メモリーカードを入れる

本機では内蔵メモリーで撮影できますが、メモリーカード（別売）を使うとよりたくさんの写真を撮影できます。本機では、**xD-ピクチャーカード**とSDメモリーカードをお使いになれます。本書では、これらを「メモリーカード」と表記します。

■ 使用可能な xD-ピクチャーカード™

- DPC-16（16MB）
- DPC-32（32MB）
- DPC-64（64MB）
- DPC-128（128MB）
- DPC-256（256MB）
- DPC-M256（256MB）
- DPC-512（512MB）
- DPC-M512（512MB）
- DPC-M1GB（1GB）
- DPC-M2GB（2GB）

表

裏

メモ

xD-ピクチャーカード には従来品と、「DPC-M1GB」など、「M」が付いているType Mがあります。
本機はType Mに対応していますが、使用する機器（カードリーダーなど）によって非対応の場合があります。また、Type Hは海外のみの販売となります。Type Hの互換性はType Mと同じです。Type Hは **xD-ピクチャーカード** USBドライブDPC-UD1ではご使用になれません。

■ 使用可能なSD/SDHCメモリーカード

SD/SDHCメモリーカードは、弊社にて動作確認したものをおすすめします。

- メーカー：SanDisk製

メモ

- 今後の対応メモリーカードについては、ホームページに掲載します。詳しくはhttp://fujifilm.jp/personal/digitalcamera/をご覧ください。
- SDメモリーカードの種類によっては、動画の記録が途中で止まる場合があります。左記SDメモリーカードのご使用をおすすめします。
- マルチメディアカードには対応しておりません。

❶スロットカバーを開けます。

注意

スロットカバーは、絶対に電源を入れたまま開けないでください。メモリーカードまたは画像ファイルなどが壊れることがあります。

準備する

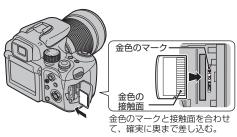
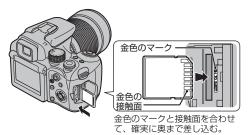
次ページにつづく

❷ メモリーカードを入れます。

（xD-ピクチャーカードの場合）

金色のマークと接触面を合わせて、確実に奥まで差し込む。

（SDメモリーカードの場合）

金色のマークと接触面を合わせて、確実に奥まで差し込む。

注意

SDメモリーカードをカメラに入れるときは、書き込み禁止スイッチのロックを解除してください。書き込み禁止スイッチを“LOCK”側へスライドさせせると、画像の記録や消去・フォーマットができなくなります。スイッチを元に戻すと、通常どおり使用できるようになります。

注意

- 未使用のSDメモリーカード、パソコンやカメラ以外の機器で使用したSDメモリーカードは、必ずカメラでフォーマット(→129ページ)してからご使用ください。
- miniSDアダプターやmicroSDアダプターの中には、アダプター裏面に金属端子が露出しているものがあります。このようなアダプターをお使いになると、異常接触となる恐れがあり、動作不良や故障の原因となりますので、絶対に使用しないでください。
  また、外形寸法がSDメモリーカード規格からはずれているminiSDアダプターやmicroSDアダプターでは、まれに抜けなくなることがあります。無理に抜こうとするとカメラ故障に繋がりますので、富士フイルムサービスステーションに修理をご依頼ください。

❸スロットカバーを閉めます。

メモリーカードを取り出すには

カードを押し込んだあと静かに指を戻すと、ロックが外れて取り出せます。

準備する

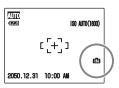
次ページにつづく

注意

- メモリーカードは、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
- メモリーカードの向きが間違っていると奥まで入りません。無理な力を加えないでください。
- ロックが外れた直後にメモリーカードから急に指をはなすと、メモリーカードが飛び出す場合がありますのでご注意ください。
- 本機での動作保証は弊社製 **xD-ピクチャーカード** と動作確認済みのSDメモリーカード(→21ページ)となります。
- 「 **xD-ピクチャーカード** ™、SDメモリーカード、内蔵メモリーについてのご注意」→別紙の「お取り扱いにご注意ください」

メモ

- 被写体によって記録されるデータ量が一定ではないため、実際に記録可能な枚数が多くなることや少なくなることがあります。
- 標準撮影枚数については、170ページをご参照ください。

■ 内蔵メモリーについて

本機はメモリーカードが入っていなくても、カメラの内蔵メモリーにより、撮影できます。内蔵メモリーを使用しているときは、画面に“IN”が表示されます。

メモリーカード(別売)が挿入されているとき
[撮影した画像]： メモリーカードに記録されます。
[再生画像]： メモリーカード内の画像を再生します。

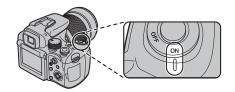
メモリーカード(別売)が挿入されていないとき
[撮影した画像]： 内蔵メモリーに記録されます。
[再生画像]： 内蔵メモリーの画像を再生します。

■ 内蔵メモリー内の画像について

内蔵メモリー内の画像は、カメラ本体の故障などによりデータが壊れたり、消失することがあります。大切なファイルは別のメディア(ハードディスク、CD-R、CD-RW、DVD-Rなど)にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。
また、内蔵メモリーへ保存した画像は、メモリーカードへコピーできます(→105ページ)。

電源を入れる／切る

電源を入れる

電源スイッチを“ON”に合わせると、撮影モードで電源が入ります。
電源を切るには“OFF”に合わせます。

メモ　撮影と再生の切り換え

撮影中に“▶”（再生）ボタンを押すと再生モードになります。シャッターボタンを押すと撮影モードに戻ります。

使用する言語と日時を設定する

ご購入後初めて電源を入れたときは、使用する言語と日時が設定されていません。確認画面が表示されますので、使用する言語と日時を設定しましょう。

❶ 電源を入れると言語設定画面が表示されます。

① 使用する言語を選びます。

② “MENU/OK”ボタンを押すと、設定が完了します。

次ページにつづく

❷ 日時を設定します。

①設定したい項目（年、月、日、時、分）を選びます。

②▲▼を押して日時設定を変更します。

メモ

・設定中に▲または▼を押し続けると数字が連続して変わります。
・時設定で12を越えると自動的にAM（午前）/PM（午後）が切り換わります。

❸ 日付の並び順を変更します。

①“日付の並び順”を選びます。

②並び順を設定します。

③“MENU/OK”ボタンを押すと、設定が完了します。

日付の並び順について

例）2008年12月1日
年. 月. 日：2008.12.1
月/日/年：12/1/2008
日. 月. 年：1.12.2008

メモ

バッテリーを取り外して長期間保管したときも言語設定と日時設定がクリアされ確認画面が表示されます。ACパワーアダプターを接続またはバッテリーを入れて約10時間以上経過していれば、カメラから両方とも取り外しても、約7日間保持されます。

自動電源OFF機能

自動電源OFF機能を有効にすると、2分間（5分間）操作しないと自動的に電源が切れます（→130ページ）。
電源を入れ直すには、いったん電源スイッチを“OFF”に合わせ、再度“ON”に合わせます。
再生するときは“▶”（再生）ボタンを約1秒間押します。

日時を再設定する

❶セットアップメニューを表示します。

① “MENU/OK”ボタンを押して、メニューを表示します。

② “SET セットアップ”を選びます。

③ セットアップ画面を表示します。

❷日時設定の画面を表示します。

① “1”を選びます。

② 項目選択へ移ります。

③ “日時設定”を選びます。

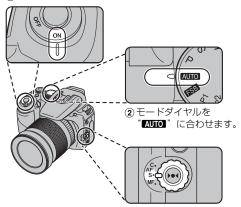
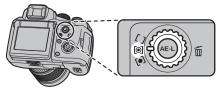
④ 日時設定の画面を表示します。➡「使用する言語と日時を設定する」（➝25ページ）をご参照ください。

静止画を撮影してみましょう（AUTO オート撮影）

ここでは撮影の基本的な流れを説明します。ピント合わせなど、どんな状況でも必要な操作ばかりなので、まずはここをしっかりおさえておきましょう。

❶ 電源を入れます。

① 電源スイッチを“ON”に合わせます。

② モードダイヤルを“AUTO”に合わせます。

③ フォーカスモード切り換えレバーを“S-AF”に合わせます。

④ 測光モード切り換えダイヤルを“[⊙]”マルチ（分割測光）に合わせます。

チェック！

- ピントの合う範囲
  広角端：約50cm～無限遠(∞)
  望遠端：約2.5m～無限遠(∞)
- 近くのものを大きく撮影したいときは“🌷”近距離撮影に設定してください(→74ページ)。

❷ フラッシュポップアップボタンを押して、フラッシュをポップアップします。

使ってみよう

次ページにつづく

❸ 使用する画面を切り換えます。

“EVF/LCD”ボタンを押すたびに、ファインダー(EVF)と液晶モニター (LCD)のどちらを使用するか切り換えられます。
ファインダー（EVF）内のAFフレームが見にくいときは、視度調節ダイヤルで調整してください。

メモ

EVF/LCDの切り換え設定は、モード切り換え、電源OFFでも保持されます。

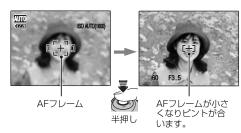
カメラの上手な構えかた

両手で構えて脇を締めます。
ファインダー (EVF)を使用すると自然に脇が締まり、ブレにくくなります。

指がレンズやフラッシュにかかっている。

注意

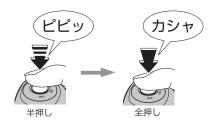
- 撮影するときにカメラが動くとブレた画像になってしまいます。しっかりと構えて撮影しましょう。
- レンズやフラッシュに指やストラップがかかったまま撮影するとピントが合わなかったり、適正な明るさ（露出）で撮影できないことがあります。

❹ 被写体にAFフレームを合わせて、シャッターボタンを半押しします。

チェック！

- **ピントが合ったとき**
  ピピッと音が鳴る、インジケーターランプが点灯[緑]
- **ピントが合わなかったとき**
  音が鳴らない、AFフレームが赤点灯したあとに“**!AF**”が表示される、インジケーターランプが点滅[緑]

メモ

- シャッターボタンを軽く押すと途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを半押しといいます。半押ししたときにピントと明るさが決まります。
- シャッターボタンを半押しにすると、そのときレンズ動作音が発生します。

❺ 半押しの状態からさらに押し込んで（全押し）、撮影しましょう。

注意

フラッシュ撮影をした場合、フラッシュを充電するために映像が消えて黒い画面になることがあります。このときインジケーターランプが橙色に点滅します。

メモ

- 被写体がAFフレームから外れてしまう場合は、AF/AEロック撮影を行ってください（→38ページ）。
- シャッターボタンをいっきに全押しするとAFフレームは変化せず、そのまま撮影されます。

次ページにつづく

フラッシュ撮影について

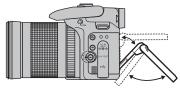
フラッシュが発光する場合、半押ししたときに画面に“⚡”が表示されます。

フラッシュの設定を変更する場合は75ページをご参照ください。

注意

- 撮影前に画面で見る画像と実際に記録される画像は、明るさや色などが異なる場合があります。必要に応じて、再生してご確認ください（→42ページ）。
- シャッタースピードが遅く、手ブレしやすい状態のときは、画面に“!📷”が表示されます。表示された場合はフラッシュ撮影をするか三脚を使用してください。
- 警告表示については155〜159ページをご参照ください。その他疑問に感じたことなどがありましたら、「困ったときは」（→160〜164ページ）をご参照ください。

■ 液晶モニターを使用して撮影する

液晶モニターの角度を自由に調節できます。高い位置や低い位置の被写体を撮影するときに便利です。

破線の範囲で角度を自由に変えることができます。

■ フィルターについて

φ67mmの薄枠タイプPL（偏光）フィルターがご使用いただけます。標準タイプはケラレが生じる可能性がありますので、薄枠タイプをお使いください。

① レンズフードを外してPLフィルターを回して取り付けます。

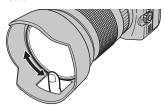
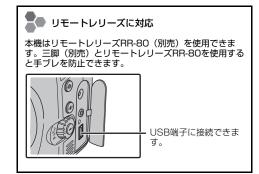
② レンズフードのPLフィルター操作窓カバーをスライドさせて外し、レンズにレンズフードを取り付けます（→16ページ）。

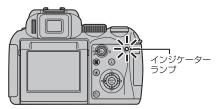
③ 撮影時にPLフィルター操作窓から指を入れて、PLフィルターを操作することができます。

リモートレリーズに対応

本機はリモートレリーズRR-80（別売）を使用できます。三脚（別売）とリモートレリーズRR-80を使用すると手ブレを防止できます。

USB端子に接続できます。

次ページにつづく

■ インジケーターランプ表示について

シャッターボタンを押したときなどに、点灯または点滅して状態をお知らせします。

表示	状態
緑点灯	AFロック中
緑点滅	手ブレ警告、AF警告、AE警告（撮影可能）
緑、橙の交互点滅	メモリーカードまたは内蔵メモリーに記録中（撮影可能）
橙点灯	メモリーカードまたは内蔵メモリーに記録中（撮影不可）
橙点滅	フラッシュ充電中（フラッシュ発光しません）
赤点滅	• メモリーカード、内蔵メモリーについての警告 未フォーマット、フォーマット異常、空き容量がない、メモリーカード/内蔵メモリー異常 • レンズ動作異常

メモ

画面にも警告表示が表示されます。
（→155～159ページ）

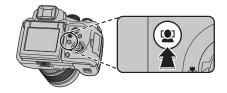
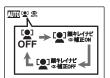
顔キレイナビ（顔検出機能）／赤目補正を使用して撮影する

人物を撮影するとき、簡単に人物の顔にピントを合わせ、さらに顔を適正な明るさにして撮影することができます。縦位置での撮影も顔の検出は可能です。

使用可能撮影モード：AUTO、FSB、SP2（、、、、、、、、）、P、S、A、M

使用可能AFモード：MF（マニュアルフォーカス）以外

❶ 顔キレイナビを設定します。

顔キレイナビボタンを押します。押すたびに設定が切り換わります。

“顔キレイナビ補正ON”で撮影すると、フラッシュ発光によってひとみが赤く写った画像（赤目現象）を自動的に補正して記録します。

注意

- 顔検出できないときは、赤目補正できないまたは十分に補正できない場合があります。また、横顔では赤目補正できません。
- シーンによっては赤目が補正できなかったり、補正した結果に差が生じる場合があります。
- 撮影人数が多い場合は、処理に時間がかかる場合があります。
- セットアップメニューの“RAW CCD-RAW”が“ON”に設定されているときは赤目補正機能が無効になります。

❷ 被写体に合わせて構図を決めます。

複数の顔を検出したときは、中央付近の顔を優先して緑色の枠が設定され、ピントを合わせます。

緑色

❸ シャッターボタンを押し込んで撮影します。

チェック！

■“顔キレイナビ👁補正ON”の場合

“顔キレイナビ👁補正ON”で撮影したときは、画像の赤目が自動的に検出され、補正後に記録されます。
“顔キレイナビ👁補正OFF”で撮影したときは、赤目は補正されずに記録されます。

①撮影後に赤目が検出されます。

②赤目が補正されて記録されます。赤目が検出できなかった場合は、「補正中」の画面は表示されずに終了します。

使ってみよう

次ページにつづく

顔キレイナビ（顔検出機能）の苦手な被写体

顔キレイナビでは、人物の顔にピントを合わせることができますが、次のような被写体についてはピントが合いにくいことがあります。

- サングラス、メガネ、帽子や前髪などで顔の一部がさえぎられているとき
- 撮影する人物の顔が横向き、または斜めに傾いているとき
- 撮影する人物との距離が遠すぎて、顔が小さすぎるとき

逆立ちした人物や、人物以外（ペットなど）の顔は検出しません。また、カメラを正しく構えていないときも検出しません。

このようなときに有効なのがAF/AEロック撮影です。(→38ページ)

注意

- 撮影の直前にカメラまたは被写体が動いたとき、撮影された顔の位置と顔枠の位置がずれて表示される場合があります。
- 複数の顔を検出した場合、中央付近の顔を優先して緑色の枠が設定されますので、ご希望の顔にピントを合わせたいときは、合わせたい顔が画面中央にくるように、カメラを動かしてください。
  それでもピントが合わないときは、顔キレイナビボタンを押して、顔キレイナビをOFFにしてから、AF/AEロック機能(→38ページ)を使用して撮影してください。
  ただし、白色の枠でも緑色の枠の顔と撮影距離が同じであればピントは合います。
- 顔が検出されていないときにシャッターボタンを半押しすると、画面中央付近でピントが合います。

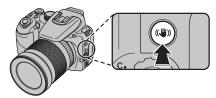
ブレ防止機能を使用して撮影する

ブレ防止機能を使うと、光学手ブレ補正を活用して手ブレを軽減することができます。

メモ

撮影モードがAUTOのときは、手ブレと被写体ブレの両方を軽減できます。

使用可能撮影モード： すべての撮影モード

① ブレ防止ボタンを押します。押すたびにON/OFFが切り換わります。

ONのときは“1”または“2”が表示されます。

②シャッターを押し込んで撮影します。

注意

シーンによっては、ブレが残る場合があります。

チェック！

ONのときの設定を変えることができます。セットアップメニューの“ブレ防止モード”で“1常時”か“2 撮影時”を選びます（→126ページ）。

ピントと明るさを固定して撮影する

上のような構図では被写体がAFフレームから外れているため、半押ししても被写体にピントは合いません。

このようなときに有効なのがAF/AEロック撮影です。

また、AF/AEロックはオートフォーカスの苦手な被写体（→39ページ）にも有効です。

注意

AF/AEロック撮影をするときは、“ ”顔キレイナビを解除してください。

使ってみよう

次ページにつづく

AF/AEロック撮影のやりかた

① 被写体がAFフレームに入るようカメラを少し動かします。

② 半押ししてピントを合わせます。

半押し

③ 半押しのまま、撮りたい構図にカメラを動かしてシャッターボタンを押し込みます。

全押し

メモ

- AF/AEロックの操作はシャッターを切る前なら何度でもやり直せます。
- カメラが自動的にピントを合わせることを「AF」、カメラが自動的に明るさを決めることを「AE」といいます。

オートフォーカスの苦手な被写体

このカメラは正確なオートフォーカス機構を採用していますが、次のような条件、被写体についてはピントが合いにくいことがあります。

鏡、車のボディなど
光沢のあるもの

高速で移動する被写体

その他に、
- ガラス越しの被写体
- 髪の毛や毛皮のように光を反射しにくいもの
- 煙や炎のような実体のないもの
- 被写体が暗いとき
- 被写体の明暗差がはっきりしないとき（背景と同色の服を着ている人物など）
- 画面の中央付近に被写体の他に明暗差がはっきりしたものがあるとき（コントラストの強い背景の前の人物など）

このような場合はAF/AEロック（→38ページ）または“MF”マニュアルフォーカス（→70ページ）をお使いください。

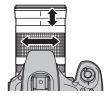
AF補助光について

薄暗い場所でピントを合わせるための補助光です。
シャッターボタンを半押しするとピントが合うまでの間、ランプが白色に発光します。

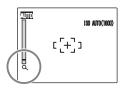
メモ

- 発光しても撮影状況によってはピントが合いづらい場合があります。
- AF補助光の有効距離は、広角側で約5.5m、望遠側で約2.5mです。
- 安全上の問題はありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにしてください。
- マクロ撮影など被写体に近づいた撮影ではAF補助光の効果がないことがあります。
- AF補助光をオフにするには、121、122ページをご参照ください。
- “▲、▲S、▲V、✲、🌅、🏃、◎”ではAF補助光は発光しません。

ズームして撮影する

ズームリングを回すと、ズームで撮影することができます。ズーム操作しているとき、画面にズームバーが表示されます。

チェック！

光学ズーム焦点距離(35mmフィルム換算)
　約28mm～約400mm相当
　最大ズーム倍率 14.3倍

“🔍（▲）”デジタルズームボタン（→6ページ）を押すと、デジタルズーム(2倍)に切り換わります。

チェック！

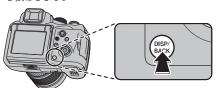
デジタルズームをしているとき、画面の左下に“🔍”が表示され、ズームバーの色が変わります。

 メモ

もう一度、“🔍（▲）”ボタンを押すと、デジタルズームは解除されます。

構図を工夫するために

画面表示を切り換える

“DISP/BACK” ボタンを押すごとに画面表示が切り換わります。

文字表示あり

文字表示なし

フレーミングガイド表示

フレーミングガイド表示

被写体を縦横の交点に配置したり、横のラインに地平線や水平線を合わせると、被写体の大きさやバランスを見ながら、意図的な構図で撮影できます。

 メモ

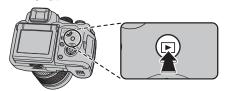
必ずAF/AEロックを使って構図を決めてください。AF/AEロックをしないとピントが合わないことがあります。

撮影した画像を見る

思っていたとおりに撮影できているかどうか、再生して見てみましょう。
特に大切な撮影の時には試し撮りをして、確認してください。

再生モードに切り換える

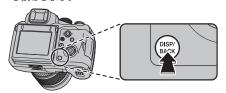
撮影中に“▶”（再生）ボタンを押すと、再生モードに切り換わります。

メモ

- “▶”（再生）ボタンを押したときは、最後に撮影した画像が表示されます。
- 工場出荷時は、セットアップメニューの“縦横自動回転再生”が“ON”に設定されています（→128ページ）。縦位置で撮影された画像は、自動的に正しい位置で表示されます。
- 本機以外のカメラで撮影した画像を再生した場合、画面に“🎁”プレゼントアイコンが表示されます。

注意　再生できる静止画について

本機で記録した静止画、または **xD-ピクチャーカード**、SDメモリーカード対応の弊社製デジタルカメラで記録した静止画（一部非圧縮画像を除く）が再生できます。
なお、本機以外のカメラで撮影した静止画はきれいに再生できない場合や、再生ズームができない場合があります。

画面表示を切り換える

"DISP/BACK" ボタンを押すごとに画面表示が切り換わります。

1コマ再生する

見たい画像を選びます。
◀：前の画像が表示されます。
▶：次の画像が表示されます。

メモ

◀▶の代わりに、コマンドダイヤルを左右に回すことによって画像を選ぶことができます。

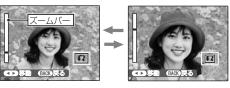
高速コマサーチ

1コマ再生中に◀または▶を約1秒間押し続けると、高速でコマを送ることができます。ボタンをはなすと1コマ再生に戻ります。

再生ズーム

❶拡大／縮小する

1コマ再生時に画像をズーム（拡大）できます。

▼ボタン（縮小）　▲ボタン（拡大）

拡大、縮小します。

❷表示範囲を移動する

ナビゲーション画面（現在の表示位置）

① 表示を切り換えます。

②見える範囲を移動します。

メモ

再生ズームを解除するには、“DISP/BACK”ボタンを押します。

■ ズーム倍率

ピクセル	最大ズーム倍率
11M（3840×2880ピクセル）	約6倍
3:2（4032×2688ピクセル）	約6.3倍
6M（2816×2112ピクセル）	約4.4倍
3M（2048×1536ピクセル）	約3.2倍
2M（1600×1200ピクセル）	約2.5倍

※ 03Mでは再生ズームはできません。

マルチ再生する

２コマ、９コマ、または100コマ（マイクロサムネイル）表示し、画像を比較したり、見たい画像を選ぶことができます。

**2コマ再生/9コマ再生/
100コマ再生（マイクロサムネイル）**

①見たい画像を選びます。
▲か▼を押すと次のページが表示されます。

②“MENU/OK”ボタンを押すと、選んだ画像が大きく表示されます。

日付再生する

日付再生画面では、画像を撮影日ごとに見ることができます。

① 見たい画像を選びます。

② “MENU/OK”ボタンを押すと、選んだ画像が大きく表示されます。

日付を切り換える

① カーソル（枠）を左上の“⇦”まで移動させます。

② 日付選択に移ります。

③ 日付を選びます。
数回▲か▼を押すと次の日付ページが表示されます。

④ 画像選択に戻ります。

顔キレイナビ（顔検出機能）

顔キレイナビ（→34ページ）で撮影した画像（画面に“ ”が表示されます）は、 顔キレイナビボタンを押すたびに表示される顔が切り換わります。▲か▼を押すと、大きさを変えられます。◀か▶を押すと、移動画面となり、▲▼◀▶で見える範囲を移動できます。

注意

03Mの画像では拡大表示されません。

メモ

再生に戻るには“DISP/BACK”ボタンを押してください。

画像／動画を消去する（🗑消去）

▶再生モードにする
(→42ページ)

失敗写真などの不要な画像や動画を削除できます。
メモリーカードや内蔵メモリーに空きを作りたいときや、整理したいときに使いましょう。

ダイレクト消去する

🗑（AE-L）ボタンを使用して、簡単に画像を削除することができます。

① 消去するコマ（ファイル）を選びます。

② 消去確認画面を表示します。

③ “実行”を選びます。

④ “MENU/OK”ボタンを押すと消去されます。

再生メニューで消去する

① “MENU/OK”ボタンを押して、再生メニューを表示します。

② “🗑消去”を選びます。

③ 設定の変更に移ります。

④ “1コマ”か“全コマ”を選びます。

⑤ “MENU/OK”ボタンを押して決定します。

1コマ消去する（1コマ）

このコマを消去 OK?
OK 実行　BACK やめる

① 消去するコマ（ファイル）を選びます。

② “MENU/OK”ボタンを押すと、表示中のコマ（ファイル）が消去されます。

メモ

続けて消去するには上の操作を繰り返します。
消去を終えるには“DISP/BACK”ボタンを押します。

注意

“MENU/OK”ボタンを繰り返し押すと連続して消去されます。誤って消去しないよう注意してください。

すべてのコマを消去する（全コマ）

① “実行”を選びます。

② “MENU/OK”ボタンを押すと、すべてのコマ（ファイル）が消去されます。

メモ

全コマ消去中に“DISP/BACK”ボタンを押すと中止でき、いくつかのコマ（ファイル）が消去されずに残ります。

使ってみよう

次ページにつづく

メモ

- メモリーカードを使用中は、メモリーカード内の画像が消去され、メモリーカードが挿入されていないときは、内蔵メモリーの画像が消去されます。
- プロテクトされたコマ（ファイル）は消去できません。プロテクトを解除してから消去してください（→103ページ）。
- 消去するコマ（ファイル）にプリント予約を設定していると“プリント予約があります”と表示されます。

注意

誤ってコマ（ファイル）を消去するともとに戻せません。消去したくないコマ（ファイル）は、パソコンなどにコピーしてください。

撮影条件の自動変更について

このカメラでは設定できる撮影条件に制限がある場合があります。
例えば、撮影メニューの“フィルムシミュレーション”では“PROVIA”以外のモードでは“D-Rng ダイナミックレンジ、Color カラー、Tone トーン、S シャープネス”が設定できません。
“STD PROVIA”モードで“D-Rng ダイナミックレンジ、Color カラー、Tone トーン、S シャープネス”の設定を変更した後に“V Velvia、S ASTIA”など他のモードを選択した場合には、自動的に“D-Rng ダイナミックレンジ”が“AUTO”に、“Color カラー、Tone トーン、S シャープネス”が“標準”あるいは“スタンダード”に設定されます。
このとき、以下の画面表示で設定が変更されたことをお知らせします。

撮影機能を使いこなす—設定の手順

撮影シーンや仕上がりのイメージを思いうかべながら、次のような流れで設定します。

❶ 撮影モードを選ぶ

まず、モードダイヤルで撮影モードの設定をしましょう。撮影モードを変えることによって多彩な表現ができます。

撮影モード	ページ
AUTO オート	54
FSB フィルムシミュレーションブラケティング	54
SP1、SP2 シーンポジション	55
P プログラムオート	58
S シャッタースピード優先オート	59
A 絞り優先オート	61
M マニュアル	62
C1、C2 カスタムモード	64
動画	116

注意

高温下で長時間の連続使用をすると、画質が劣化し、スジ状のノイズが出る場合があります。その場合は、できるだけこまめに電源を切り、カメラ本体の温度が上がらないようにご注意ください。

❷ 機能を設定する

ボタン操作やメニューで撮影機能を設定することで、写真の仕上がりイメージを変えられます。

■ ボタンで設定する機能

機能	ページ
ISO（感度）	72
露出補正	65
AE-L（AEロック）	68
測光	67
顔キレイナビ／赤目補正	34
マクロ	74
フラッシュ	75
セルフタイマー	78
連写	80
ブレ防止	36
フォーカスモード切り換えレバー	29、69、70

■ 撮影メニュー（“MENU/OK” ボタン）で設定する機能

撮影モードの設定により設定できる機能が異なります。

撮影メニュー	撮影モード			ページ
	AUTO	SP1 SP2	FSB P S A M	
シーン選択	×	○	×	55
フィルムシミュレーション	×	×	○	87
D-Rng ダイナミックレンジ	×	×	○	87
ピクセル	○	○	○	88
Color カラー	×	×	○	89
Tone トーン	×	×	○	89
シャープネス	×	×	○	90
WB ホワイトバランス	×	×	○	90
WB微調整	×	×	○	92
AEブラケティング	×	×	○	92
フラッシュ（光量補正）	×	×	○	93
外部フラッシュ	×	×	○	94
AFモード	×	×	○	96
クイックショット	○	○	○	98
カスタムモード保存	×	×	○	98

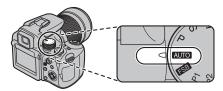
撮影モードを設定する

撮影モードを切り換えることで、撮影目的に応じた設定を行うことができます。

AUTO オート

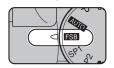
最も簡単な操作できれいな写真が撮れます。
一般的なスナップ撮影に適しています。

“ピクセル”と“クイックショット”以外の設定をすべてカメラに任せます。

モードダイヤルを“AUTO”に合わせます。

チェック！

- 使用可能なフラッシュモードについては、76〜77ページをご参照ください。
- ISO感度設定はAUTO(400)、AUTO(800)、AUTO(1600)から選べます（→73ページ）。

FSB フィルムシミュレーションブラケティング

同じ被写体などを、発色や階調を変えて連続撮影できるモードです。3種類のフィルムを再現した設定（“STD PROVIA”、“V Velvia”、“S ASTIA”）で連続撮影できます。各フィルム設定の特色については87ページをご参照ください。

モードダイヤルを“FSB”に合わせます。

チェック！

使用可能なフラッシュモードについては、76〜77ページをご参照ください。

注意

- セットアップメニューの“RAW CCD-RAW”を“ON”に設定すると、シャッターボタンを押してもブラケット撮影はされません。“P”プログラムオート（工場出荷時）で1コマ撮影されます。
- 撮影メニューの“D-Rng ダイナミックレンジ、Color カラー、Tone トーン、S シャープネス”の設定を変更すると、ブラケット撮影はされません。この場合、電源をいったん切って、もう一度入れ直すとブラケット撮影に復帰します。
- フォーカスモード、測光モード、EVF/LCD切り換え以外の機能は、電源をいったん切って、もう一度入れ直すと工場出荷時の状態に戻ります（→85〜86ページ）。

SP1、SP2 シーンポジション

場面に応じて14種類から選べます。シーン選択は撮影メニューで行います。

モードダイヤルを“SP1”または“SP2”に合わせます。

モードダイヤルのSP1とSP2ついて

“SP1”と“SP2”では設定できるシーンが異なります。“SP1”では自然写真に適した4つのシーンを選ぶことができます。被写体に応じて“SP1”と“SP2”を使い分けてください。

メモ

- 工場出荷時は“SP1”が“▲V”、“SP2”が“●”に設定されています。
- 使用可能なフラッシュモードについては、76〜77ページをご参照ください。
- ISO感度設定はAUTOのみとなります。
- “▲、▲S、▲V、❋、🌅、🏃、◎”ではAF補助光は発光しません。

■ シーン選択をする

①“MENU/OK”ボタンを押して、撮影メニューを表示します。

②“📷 シーン選択”を選びます。

③設定の選択に移ります。

④シーンを選びます。

⑤“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

次ページにつづく

■ シーンポジション一覧

	シーン	機能
SP1	ネイチャー	標準的な発色と階調で幅広く風景撮影などに向きます。
	ネイチャーソフト	風景などをしっとりと表現したいときに適します。
	ネイチャービビッド	高彩度な発色とメリハリある階調表現で風景、自然写真に最適です。
	花の接写	近接撮影で花の質感を豊かに描写できます。ピントが合う範囲は、広角端：約10cm〜約3.0m、望遠端：約90cm〜約3.0mです。
SP2	ポートレート	肌色再現を重視したポートレートモードで人物撮影に適します。
	ポートレートソフト	滑らかな肌色と青空の鮮やかさを両立できます。屋外ポートレート向きです。
	ベビー	フラッシュがオフになり、赤ちゃんの肌を自然に撮影できます。また、AF補助光をオフにすることをおすすめします（→121、122ページ）。
	美肌	人の肌を滑らかにしたソフト調の表現になります。

メモ

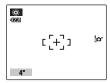
SP1、SP2はフィルムシミュレーションをもとに画作りされています。
このためカメラを再生モードにして再生インフォメーションを表示したとき、フィルムシミュレーションの項目には、もとになるフィルムシミュレーションのアイコンが表示されます。また、“▲、▲S、▲V、●、●S”はFinePixViewerの「ファイル/フォルダ情報」では、以下の表のとおり表示されます。

シーン	FinePixViewerの「ファイル/フォルダ情報」	
	撮影モード	フィルムシミュレーション
ネイチャー	風景	PROVIA
ネイチャーソフト	風景	ASTIA
ネイチャービビッド	風景	Velvia
ポートレート	人物（ポートレート）	PORTRAIT
ポートレートソフト	人物（ポートレート）	ASTIA

	シーン	機能
SP2	夜景	夕景や夜景の撮影に適しています。最長1/4秒のスローシャッターでの撮影が行われます。
	夕焼け	夕焼けを赤く鮮やかに撮影できます。
	スノー	画面全体が白くなる雪景色などで、画像が暗くなるのを防ぎ、明るくくっきりと撮影できます。
	ビーチ	日差しの強い浜辺で、画像が暗くなるのを防ぎ、明るくくっきりと撮影できます。
	スポーツ	動いている被写体の撮影に適しています。高速シャッターでの撮影が行われます。" "に設定すると自動的にクイックショット（→98ページ）に設定されます。
	花火	打ち上げ花火の撮影に適しています。スローシャッターで花火を色鮮やかに撮影できます。シャッタースピードの設定は1/2秒〜4秒です。露光時間の設定については58ページをご参照ください。

チェック！

" "、" "は手ブレ防止のため三脚のご使用をおすすめします。

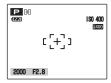
■ 花火の露光時間の設定

①コマンドダイヤルを回して、露光時間を設定します。

P プログラムオート

シャッタースピード／絞り以外の各種設定ができるオートモードです。
比較的簡単に"S"シャッタースピード優先オートや"A"絞り優先オートのように撮影できます(プログラムシフト)。

チェック！

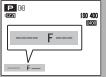
- 設定可能な撮影メニューについては53ページをご参照ください。
- 使用可能なフラッシュモードについては、76〜77ページをご参照ください。

■ プログラムシフトの設定

①コマンドダイヤルを回して、露出値を変えずにシャッタースピード、絞り値の組み合わせを切り換えることできます。

②通常どおり撮影します。

メモ

- プログラムシフトは、フラッシュの設定がフラッシュ発光禁止(→76ページ)のときにのみ、使用できます。
- プログラムシフト中は、シャッタースピード、絞り値が黄色で表示されます。
- プログラムシフトは、次のとき自動的に解除されます。
  - 撮影モードを切り換えたとき
  - 再生モードに切り換えたとき
  - 電源が切れたとき
  - フラッシュをポップアップしたとき

注意

被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、画面内のシャッタースピードおよび絞り値が「---」と表示されます。

また、“D-Rng ダイナミックレンジ”が“AUTO”に設定され“ISO感度”が“AUTO(400)、AUTO(800)、AUTO(1600)”に設定されているときは、プログラムシフトは使用できません。

S シャッタースピード優先オート

シャッタースピードを設定できるオートモードです。動きの一瞬をとらえる（高速）、動きを表現する（低速）などの撮影ができます。

チェック！

- 設定可能な撮影メニューについては53ページをご参照ください。
- 使用可能なフラッシュモードについては、76〜77ページをご参照ください。

■ シャッタースピードの設定

①コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを設定します。

②通常どおり撮影します。

次ページにつづく

チェック！

シャッタースピードの設定
　4秒〜1/4000秒　1/3EVステップ

注意

設定したシャッタースピードで適正な明るさにならない場合は、絞り値が「赤色」で表示されます。そのときはシャッタースピードを設定し直してください。

被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、絞り値が「F---」と表示されます。そのときはシャッターボタンを半押しして測光し直してください。

また、“D-Rng ダイナミックレンジ”が“AUTO”に設定されているときは、シャッターを半押しするまで絞り値は表示されません。

シャッタースピードについて

シャッタースピードを調節することで、動きのある被写体の写りかたが変わります。
シャッタースピードを速くすると動きの一瞬をとらえることができ、シャッタースピードを遅くすると動きの軌跡を写すことができます。

被写体が止まったように撮影されます。

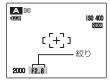
被写体の軌跡が撮影されます。

A 絞り優先オート

絞り値を設定できるオートモードです。
被写体の前後をぼかす（開放）、遠くまでピントを合わせる（絞る）撮影ができます。

チェック！

- 設定可能な撮影メニューについては53ページをご参照ください。
- 使用可能なフラッシュモードについては、76～77ページをご参照ください。

■ 絞り値の設定

①コマンドダイヤルを回して、絞り値を設定します。

②通常どおり撮影します。

チェック！

絞り値の設定
　広角端：F2.8－F8　1/3EVステップ
　望遠端：F5.3－F8　1/3EVステップ

注意

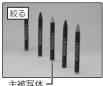
設定した絞り値で適正な明るさにならない場合は、シャッタースピードが「赤色」で表示されます。そのときは絞り値を設定し直してください。
ただし、フラッシュ強制発光に設定したときは最長シャッタースピードが1/45秒までになります。

被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、シャッタースピードが「----」と表示されます。

また、“D-Rng ダイナミックレンジ”が“AUTO”に設定されているときは、シャッターを半押しするまでシャッタースピードは表示されません。

次ページにつづく

絞りについて

絞り値を調節することで、ピントの合う範囲（被写界深度）が変わります。
絞り値を大きくする（絞る）とピントの合う範囲が広くなり、絞り値を小さくする（開く）と被写体の前後をぼかすことができます。

被写体の前後にもピントが合って撮影されます。

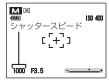
被写体の前後がぼやけて撮影されます。

M マニュアル

シャッタースピードや絞り値を含めた各種設定ができる撮影モードです。
撮影機能を自由に設定することで、多彩な表現ができます。

チェック！

- 設定可能な撮影メニューについては53ページをご参照ください。
- 使用可能なフラッシュモードについては、76〜77ページをご参照ください。

■ シャッタースピード、絞り値の設定

① コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを設定します。

チェック！

シャッタースピードの設定
30秒〜1/4000秒　1/3EVステップ

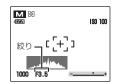
メモ

- 手ブレ防止のため、三脚の使用をおすすめします。
- 長時間露光したときは、画像に点状のノイズが発生することがあります。

注意

1/1000秒の高速なシャッタースピードを設定して撮影すると、スミア（→171ページ）が写ることがあります。

バルブ撮影について

シャッタースピードを30秒より低速にして“B（バルブ）”に設定すると、バルブ撮影が可能になります。バルブ撮影ではシャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになります（最長30秒まで）ので、三脚やリモートレリーズRR-80（別売）などを使用し、カメラを安定させてから撮影してください。

②露出補正ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して、絞り値を設定します。

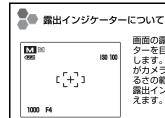
③通常どおり撮影します。

チェック！

絞り値の設定
広角端：F2.8−F11　1/3EVステップ
望遠端：F5.3−F11　1/3EVステップ

メモ

用語解説「EV」(→171ページ)。

次ページにつづく

露出インジケーターについて

画面の露出インジケーターを目安に露出を決定します。被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、露出インジケーターが消えます。

C1、C2 カスタムモード

あらかじめ、撮影モードが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに、お好みの撮影設定を“C1”もしくは“C2”に保存しておき、いつでも呼び出すことができます。設定の保存方法については98ページをご参照ください。

モードダイヤルを“C1”または“C2”に合わせます。

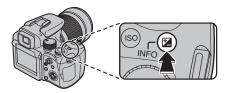
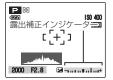
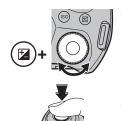
メモ

- 設定可能な撮影メニューについては53ページをご参照ください。
- 工場出荷時は、“C1”が“高速連写3M”、“C2”が“DR ダイナミックレンジブラケティング”に設定されていますが、セットアップメニューの“RAW CCD-RAW”を“ON”に設定すると“高速連写3M”と“DR ダイナミックレンジブラケティング”は解除されます。

画像の明るさを変える（露出補正）

被写体と背景のコントラスト（明暗の差）がきわめて大きい場合など、適正な明るさ（露出）にならない場合に使用します。
使用可能撮影モード：FSB、P、S、A

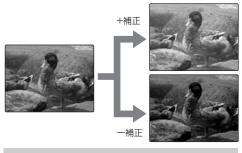
画像の明るさを変える

① “” 露出補正ボタンを押して露出補正の設定画面を表示します。

> **注意**
>
> “P、S、A”以外の撮影モードでは使用できません。ただし“C1、C2”で“P、S、A”の撮影モードを選択していれば可能です。

② 露出補正ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して、露出を変更します。“” 露出補正ボタンから指をはなすと設定されます。

③ 通常どおり撮影します。

次ページにつづく

チェック！

- 補正した側の“－”または“＋”が黄色で表示されます。
- 露出補正の設定をしているときは“”が黄色で表示され、設定が完了すると、青色で表示されます。
- 露出補正に応じて、画面でも明るさの確認ができます。

チェック！

- 補正範囲：–2EV〜+2EV
（13段階：約1/3EVステップ）
- 用語解説「EV」（→171ページ）

メモ

- 露出補正の設定は、電源をOFFにしてもモードを切り換えても保持されます（“”点灯）。必要のないときは設定値を“0”にしてください。
- 次のような状態では、露出補正は無効になります。
  - AUTOまたは“”赤目軽減オートでフラッシュが発光したとき
  - “”強制発光または“”強制発光で撮影シーンが暗いとき

露出補正の目安

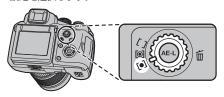
- 逆光の人物撮影：
+2目盛〜+4目盛
(+$^2/_3$EV〜+1$^1/_3$EV)

- スキー場などの明るい場面や反射の強い場合：
+3目盛（+1EV）

- 画像の大部分を空が占める場合：
+3目盛（+1EV）
- スポットライトを浴びた人物、特にバックが暗い場合：
−2目盛（–$^2/_3$EV）
- 常緑樹または色の濃い葉など反射率が低い場合：
−2目盛（–$^2/_3$EV）

明るさの測定方法を変える（測光モード）

撮影条件によって使用している測光方法では適正な明るさ（露出）にならないときに使用します。
使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

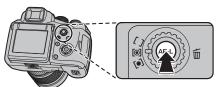
測光モード切り換えダイヤルを切り換えて、測光の設定を選択します。

[⊙]マルチ（分割測光）：自動で場面を判別し露出が最適になるよう測光します。
[•]スポット：画面中央部の露出が最適になるように測光します。
[　]アベレージ：画面全体を平均して測光します。

測光モードを効果的に使うために

- マルチ
  シーン自動認識により被写体を分析し、幅広い条件で適正な露出が得られます。
- スポット
  逆光時など被写体と背景の明るさが大きく異なる条件で、被写体に正しく露出を合わせます。
- アベレージ
  構図や被写体により露出が変化しにくい特長があり、白や黒の服を着た人や風景の撮影などに有効です。

AE-L AEロックを使用する

特定の被写体に露出を固定して撮影したいときに使用します。
使用可能撮影モード：🅢、M以外の撮影モード

① 被写体を画面中央にとらえ、“AE-L”ボタンを押します。“AE-L”ボタンを押している間、露出が固定されます。

② “AE-L”ボタンを押したまま、通常どおり撮影します。

注意

- AEロック中にズーム操作をすると、AEロックが解除されます。
- シャッターボタンを半押しすれば、“AE-L”ボタンを離しても露出は固定されています。
- AEロック時のシャッターボタン半押しは、ピント合わせのみ可能です。
- 顔キレイナビを使用しているときは、AEロックは無効となります。

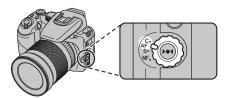
チェック！

工場出荷時は、“AE-L”ボタンを押している間のみ、AEロックされますが、“AE-L”ボタンを離してもAEロックが解除されないように設定することができます。セットアップメニューの“AE-L AE-LOCK設定”で設定してください（→122ページ）。

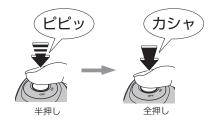
コンティニュアスAFを使用して撮影する

動いている被写体を撮影するときに使用します。コンティニュアスAFを使用すると、ピントを合わせる時間を短くすることができます。

使用可能撮影モード：以外の撮影モード

① フォーカスモード切り換えレバーを“C-AF”に合わせます。

② 被写体にAFフレームを合わせます。コンティニュアスAFでは、AFフレーム内の主被写体にピントを合わせ続けます。

③ シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせてから、そのまま押し込んで(全押し)、撮影します。

半押し　全押し

顔キレイナビ（顔検出機能）を使用しているときでもコンティニュアスAFを使うことができます。

注意

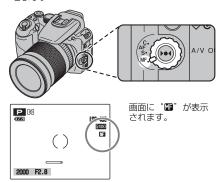
・コンティニュアスAFはシャッターボタンを押さなくても常にピントを合わせ続けるため、次のことにご注意ください。
- 他のフォーカスモード(S-AF、MF)より消費電力が増加するので、バッテリーの残量に注意してください。
- 自動電源OFFを“OFF”に設定しているときは、特にバッテリーの残量に注意が必要です。

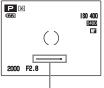
・コンティニュアスAFに設定すると、自動的に撮影メニューの“AFモード”が“センター固定”に設定されます。

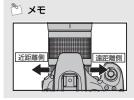
マニュアルフォーカスを使用して撮影する

ピントを固定して撮影したいときに使用します。
使用可能撮影モード：以外の撮影モード

① フォーカスモード切り換えレバーを“MF”に合わせます。

画面に“MF”が表示されます。

> **注意**
>
> - “”動画撮影モードでは使用できません。
> - 撮影メニューのAFモード（→96ページ）は設定できません。

② “▶●◀”ワンプッシュ AFボタンを押して、フォーカスフレーム内の被写体にピントを合わせます。

フォーカスインジケーター

画面にフォーカスインジケーターが表示され、合焦具合により変化します。

> **メモ**
>
>
>
>
> フォーカスインジケーターの白線ができるだけ右側にいくようにフォーカスリングを回して調節します。

■ フォーカスインジケーターについて

表示されるフォーカスインジケーターは合焦率に合わせて変化します。右側にいくほど合焦率が高い状態を示します。

(長いバー)	合焦率が高い状態を表します。
(短いバー)	合焦率が低い状態を表します。

メモ

- マニュアルフォーカスを使用して無限遠にピントを合わせるときは、無限遠に近い被写体に“( )”ターゲットを合わせてください。フォーカスリングを回し続けると無限遠を超えたフォーカス位置になり、ピントが合いません。
- カメラが動くとピントがずれてしまうので、マニュアルフォーカスを使いこなすためには三脚を使用してください。

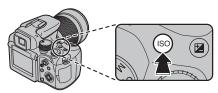
ワンプッシュ AF機能について

素早くピントを合わせるときに使用します。“▶●◀”ワンプッシュ AFボタンを押すと、オートフォーカスでピントが合います。

感度を変更する（ISO感度）

光に対する感度を変更することができます。感度の設定値が大きいほど高感度になり、暗い場所での撮影が可能になります。

使用可能撮影モード：SP1、SP2以外の撮影モード

① “ISO”（感度）ボタンを押して感度の設定画面を表示します。

② “ISO”（感度）ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して感度の設定値を選択します。“ISO”（感度）ボタンから指をはなすと設定されます。

チェック！

■ 感度の設定値

100、200、400、800、1600、3200、6400、10000、AUTO、AUTO（400）、AUTO（800）、AUTO（1600）

AUTO、AUTO（400）、AUTO（800）、AUTO（1600）は被写体の明るさに応じて、感度が自動的に設定されます。

AUTO以外のときは設定値が表示されます。

■ AUTO（400）、AUTO（800）、AUTO（1600）について

撮影モードが、“AUTO、FSB、P”のときに設定できます。AUTOと同じく、感度が自動的に設定されますが、最高感度が制限されます。シーンに応じて使い分けてください。

■ 感度、ピクセル、撮影モード、撮影メニューの関係

高感度に設定すると画像の大きさ（ピクセル）が制限されます。また、撮影モードや撮影設定によって設定できる感度が異なります。

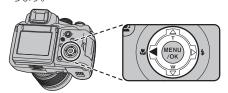
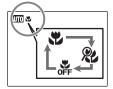
	ピクセル			撮影モード				連写				フィルムシミュレーション			ダイナミックレンジ		
感度	03M 2M 3M	6M	3:2 11M N 11M F	AUTO	SP1 SP2	FSB P	S A M		H	DR		STD	V	S P	AUTO 100%	200%	400%
100	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×	×	○	○	×	○	×	×
200	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×
400	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
800	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1600	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3200	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×
6400	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×
10000	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	○	×	×	○	×	×
AUTO	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
AUTO (400)	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AUTO (800)	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AUTO (1600)	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

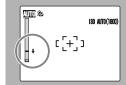
注意

- 高感度、またはダイナミックレンジが広くなるほど、画像に粒子状のノイズが増えます。状況に応じて感度設定を使い分けてください。
- “ISO感度”を3200、6400または10000に設定すると、“ISO感度”を1600以下で撮影した画像よりも解像感が劣ります。

近距離撮影をする（マクロ/スーパーマクロ）

被写体に近づいて大きく撮影したいときに使用します。
使用可能撮影モード：AUTO、FSB、、、P、S、A、M

“（◀）”ボタンを押して、マクロに設定します。
“（◀）”ボタンを押すたびにマクロの設定が変わります。

マクロ設定中は“”または“”が表示されます。

注意

スーパーマクロは広角端のみでご使用ください。それ以外では、“↓”が表示されますので、“↓”に従ってズームリングを回してください。
また、スーパーマクロ撮影時は、フラッシュは使用できません。

チェック！

- マクロ撮影でピントが合う範囲
  広角端：約10cm〜約3.0m
  望遠端：約90cm〜約3.0m
- スーパーマクロ撮影でピントが合う範囲
  約1cm〜約1.0m
  焦点距離：約28mm固定（35mmフィルム換算）
- マクロ撮影でのフラッシュ撮影可能距離
  （レンズフード未装着時）
  広角端：約30cm〜約80cm
  望遠端：約90cm〜約1.3m
  広角端で被写体に近づきすぎてフラッシュ撮影すると、レンズの影が映ることがあります。その場合は被写体との距離を少し離し拡大してください。

メモ

- マクロ撮影時は手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
- マクロ撮影は次のとき自動的に解除されます。
  - モードダイヤルを“SP1(SP2)”、“”に切り換えたとき
  - 電源が切れたとき
- フラッシュが明るすぎる場合は、フラッシュの光量補正を行ってください（→93ページ）。
- “AFモード”を“ オートエリア”（→96ページ）に設定しても、中央付近でピントが合います。
- マクロ撮影など被写体に近づいた撮影ではAF補助光の効果がないことがあります。

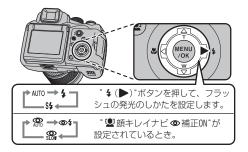
フラッシュ撮影する（iフラッシュ）

夜や暗い室内で撮影をするときはフラッシュを使うことが有効です。撮影の目的に合わせて6種類のフラッシュ設定ができます。使用可能な撮影モードについては76〜77ページを参照してください。

メモ　iフラッシュとは

被写体の位置とカメラとの距離、明るさなどを瞬時に判断し、シーンに最適なフラッシュの発光量と感度を自動調整します。薄暗い室内などでも、人物の白とびや背景の黒つぶれを防ぎ、目で見たままに美しく撮影することができます。
フラッシュ撮影するときは、常にiフラッシュで撮影されます。

① フラッシュポップアップボタンを押して、フラッシュをポップアップします。

② フラッシュの設定を選びます。

メモ

フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを半押しにすると、画面に“ ”が表示されます。

AUTO オートフラッシュ（表示なし）

一般的な撮影で使用します。
カメラが暗いと判断したときに自動的に発光します。

赤目軽減フラッシュ

暗い場所で人物を撮影するのに適しています。ひとみが赤く写る（赤目現象）のを軽減します。

メモ

人物を暗いところでフラッシュ撮影したとき、フラッシュの光が目の中で反射することにより、目が赤く写る現象を「赤目現象」といいます。

次ページにつづく

⚡強制発光フラッシュ、👁⚡強制発光フラッシュ

逆光で被写体が暗くなっている場合などに適しています。周囲の明るさに関係なくフラッシュが発光します。
“👁⚡”では同時に赤目も軽減できます。

S⚡ スローシンクロ、👁SLOW 赤目スロー

夜景と人物の両方をきれいに撮影できます。必ず三脚をご使用ください。“👁SLOW”では同時に赤目を軽減できます。
“☾★”で最長1/4秒のスローシャッターになります。

注意

明るい撮影シーンでは露出オーバーになることがあります。

フラッシュ発光禁止

フラッシュを閉めると発光禁止になります。フラッシュ撮影禁止の場所などで撮影するときに適しています。暗いときは三脚の使用をおすすめします。

■ 撮影モード別のフラッシュ設定

撮影モードにより、使用できるフラッシュ設定が変わります。
“顔キレイナビ👁補正OFF”に設定されているとき

	AUTO	⚡	S⚡
AUTO	○	○	×
FSB	×	×	×
▲	×	×	×
▲S	×	×	×
▲V	×	×	×
✿	×	×	×
👤	○	○	○
👤S	○	○	○
☺	×	×	×
👤★	○	○	○
☾★	×	×	○
🌅	×	○	×
☃	○	○	×
🏖	○	○	×
🏃	○	○	×
✺	×	×	×
P	○	○	○
S	×	○	×
A	×	○	○
M	×	○	×

“顔キレイナビ補正ON”に設定されているとき

	AUTO		SLOW
AUTO	○	○	×
FSB	×	×	×
	○	○	○
S	○	○	○
	×	×	×
	○	○	○
	×	×	○
	×	○	×
	○	○	×
	○	○	×
P	○	○	○
S	×	○	×
A	×	○	○
M	×	○	×

チェック！

■ フラッシュ撮影可能距離（“ISO”：AUTO時）
広角端：約60cm〜約7.2m
望遠端：約2.5m〜約3.8m
これよりも遠くなるとフラッシュを使用しても暗くなってしまいます。

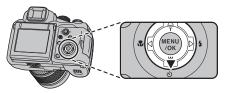
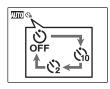
注意　フラッシュ使用時の注意

- 1/1000秒より高速なシャッタースピードのときは、フラッシュが発光しても暗くなることがあります。
- フラッシュ充電中（インジケーターランプが橙点滅）にシャッターボタンを押すとフラッシュ発光せずに撮影されます（AUTO、AUTO のとき）。
- バッテリーの残量が少ない場合、フラッシュ充電時間が長くなることがあります。
- フラッシュ撮影をした場合、フラッシュを充電するために映像が消えて黒い画面になることがあります。このときインジケーターランプが橙色に点滅します。
- フラッシュは数回発光します（予備発光、本発光）。撮影が完了するまでカメラを動かさないでください。

⏲セルフタイマーを使って撮影する

撮影者を含めた集合写真などを撮影するときに使用します。
使用可能撮影モード：すべての撮影モード

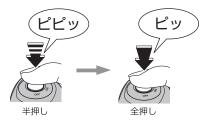
セルフタイマーを設定する

"⏲（▼）"ボタンを押してセルフタイマーを設定します。
押すたびに設定が切り換わります。

設定されたセルフタイマーが表示されます。

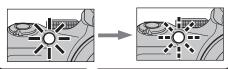
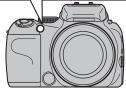
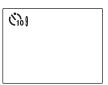
⏲10：10秒後撮影
⏲2：2秒後撮影

セルフタイマーで撮影する

❶ 半押しで被写体にピントを合わせて、全押しします。

半押し　全押し

シャッターボタンを半押しして、被写体にピントを合わせます。
半押しからそのまま押し込むとセルフタイマーが開始されます。

❷設定した時間で撮影されます。

セルフタイマーランプが点灯から点滅に変わり、撮影されます（2秒後撮影は点滅のみ）。

撮影されるまでの間、液晶モニターにカウントダウン（秒読み）表示されます。

 2秒後撮影について

三脚などでカメラを固定している場合でも、シャッター操作でカメラが動いてしまうことがあります。
そのような場合に2秒後撮影が有効です。

メモ

- 開始したセルフタイマー撮影は“DISP/BACK”ボタンで中止できます。
- セルフタイマーは次のとき自動的に解除されます。
  - 撮影が完了したとき
  - モードダイヤルを切り換えたとき
  - 再生モードに切り換えたとき
  - 電源が切れたとき
- レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピンボケになったり、適正な明るさにならないことがあります。

顔キレイナビを使用して、セルフタイマー撮影をする

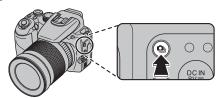
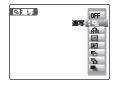
使用可能撮影モード：AUTO、FSB、SP2（、s、、、、、、）、P、S、A、M

“顔キレイナビ（顔検出機能）”

顔キレイナビを使用してセルフタイマー撮影すると、ピント合わせをしなくても、撮影する人物の顔を検出し、顔にピントを合わせて撮影することができます。
自分撮りのときなどに便利です(セルフポートレート)。

連続撮影する

動いている被写体などを続けて撮影するのに適しています。

① “” 連写ボタンを押して連写の設定画面を表示します。

② “” 連写ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して使用する連写モードを選びます。“” 連写ボタンから指をはなすと設定されます。

：連写
：高速連写3M
：ダイナミックレンジブラケティング
：フィルムシミュレーションブラケティング
：AEブラケティング
：サイクル連写
：エンドレス連写

連写時の注意

- シャッターボタンを押し続けている間撮影されます。ただし、ダイナミックレンジブラケティング、フィルムシミュレーションブラケティング、AEブラケティングを設定しているときは、一度シャッターを切ると自動的に3コマ撮影されます。
- 内蔵メモリー、メモリーカードの容量が不足すると、記録可能な枚数分まで記録されます。ただし、ダイナミックレンジブラケティング、フィルムシミュレーションブラケティング、AEブラケティングは、内蔵メモリーやメモリーカードに3コマ分の空き容量がないときは撮影できません。
- ピントは1コマ目を撮影したときに決定され、途中で変えられません（エンドレス連写を除く）。
- 露出は1コマ目を撮影したときに決定されますが、エンドレス連写ではシーンに応じて自動的に変わります。
- シャッタースピードにより連写速度は変わります。
- フラッシュは発光禁止になり使用できません。ただし、通常の撮影に設定し直すと、連写に設定する前に使用していたフラッシュに再設定されます。
- 連写、高速連写3M、ダイナミックレンジブラケティング、フィルムシミュレーションブラケティング、AEブラケティング、サイクル連写では、撮影後、必ず撮影結果が表示されます（ただし、エンドレス連写は撮影結果が表示されずに、自動的に記録されます）。
- サイクル連写、エンドレス連写では、セルフタイマーと併用すると1コマしか撮影されません。
- 連写、高速連写3M、ダイナミックレンジブラケティング、フィルムシミュレーションブラケティング、AEブラケティング、サイクル連写で撮影したファイルは記録時間が長くなることがあります。

連写

使用可能撮影モード：すべての撮影モード

シャッターボタンを押している間、約3コマ/秒で最大7コマ連写できます。

注意

セットアップメニューの“RAW CCD-RAW”が“ON”に設定されているときは最大3コマまでになります。

高速連写3M（秒7コマ）

使用可能撮影モード：SP1、SP2以外の撮影モード

シャッターボタンを押し続けている間、約7コマ/秒で最大50コマ撮影できます。速度を優先して連写するときに適しています。

注意

- “フィルムシミュレーション”は“STD PROVIA”に設定されます。
- “D-Rng ダイナミックレンジ”は“AUTO”に設定されます。
- “ピクセル”（→88ページ）は選択できません。6M以上に設定されていたときは、3M以下に制限されます。撮影モードを“高速連写3M”以外に設定すると制限は解除されます。
- セットアップメニューの“RAW CCD-RAW”が“ON”に設定されているときは使用できません。

次ページにつづく

ダイナミックレンジブラケティング

使用可能撮影モード：FSB、P、S、A

自動的にダイナミックレンジの設定を100%、200%、400%の順に3コマ連続して撮影されます。

注意

- 感度が制限されます。詳しくは73ページをご参照ください。
- セットアップメニューの“CCD-RAW”が“ON”に設定されているときは使用できません。

フィルムシミュレーションブラケティング

使用可能撮影モード：FSB、P、S、A

自動的に“フィルムシミュレーション”の設定を“PROVIA”、“Velvia”、“ASTIA”の順に3コマ連続して撮影されます。

注意

- 感度が制限されます。詳しくは73ページをご参照ください。
- セットアップメニューの“CCD-RAW”が“ON”に設定されているときは使用できません。

AEブラケティング

使用可能撮影モード：FSB、P、S、A、M

自動的に設定値きざみで
Ⓐ 適正、Ⓑ オーバー、
Ⓒ アンダーの露出で3コマ連続して撮影されます。設定値(露出幅)は撮影メニューのAEブラケティングで変更できます。

チェック！

AEブラケティング設定値(3種類)
±1/3EV、±2/3EV、±1EV

注意

- アンダーまたはオーバーの露出がカメラの露出制御範囲を超えるときは、設定値きざみで撮影されません。
- 撮影モードが、AUTO、SP1、SP2のときは使用できません。

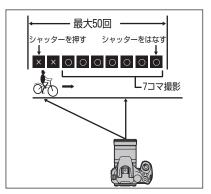
メモ　設定値(露出幅)の変更

“MENU/OK”ボタンを押して撮影メニューを表示し、“AEブラケティング”(→92ページ)の項目で設定を変更します。

サイクル連写

使用可能撮影モード：すべての撮影モード

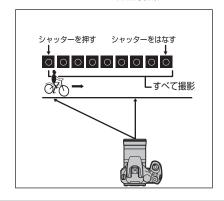
シャッターボタンを押し続けている間、最大50回（約3コマ/秒）シャッターが切れます。
シャッターボタンから指をはなすと、直前の7コマが記録されます。

注意

セットアップメニューの“RAW CCD-RAW”が“ON”に設定されているときは3コマが記録されます。

エンドレス連写

使用可能撮影モード：すべての撮影モード

シャッターボタンを押し続けている間、内蔵メモリーまたは メモリーカード の空き容量分撮影します。

注意

セットアップメニューの“RAW CCD-RAW”が“ON”に設定されているときは使用できません。

撮影メニューを使う

メニューの設定方法
(→84ページ)

画質調節やピント合わせの方法などを設定でき、撮影の幅が広がります。

撮影メニューの設定方法

① “MENU/OK” ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

② 変更する項目を選びます。

③ 設定の変更に移ります。

④ 設定を変更します。

⑤ “MENU/OK” ボタンを押して決定します。

■ 撮影メニュー一覧

メニュー	機能	設定	工場出荷時
シーン選択（→55ページ）	モードダイヤルが“SP1”または“SP2”のときに設定できます。撮影場面に応じたシーン設定ができます。	/ / / / / / / / / / / / /	SP1： SP2：
フィルムシミュレーション（→87ページ）	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。撮影する画像の発色や階調を変更できます。	STD / V / S / P	STD
D-Rng ダイナミックレンジ（→87ページ）	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。撮影する画像のダイナミックレンジを変更できます。	AUTO/R100/R200/R400	AUTO
ピクセル（→88ページ）	記録される画像の大きさを変更できます。大きいほど画質が良く、小さいほど多くの枚数を撮影できます。	11M F/11M N/3:2/6M/3M/2M/03M	11M N
Color カラー（→89ページ）	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。画像を撮影するときの、色の濃さを変更できます。	濃い/標準/薄い/B&W	標準
Tone トーン（→89ページ）	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。画像を撮影するときの、コントラストを変更できます。	HARD/STD/SOFT	STD
S シャープネス（→90ページ）	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。輪郭をソフトにしたいときや、強調したいときに使用します。また、撮影画質を調節するときに使用します。	HARD/STD/SOFT	STD

次ページにつづく

メニュー	機能	設定	工場出荷時
ホワイトバランス(→90ページ)	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。撮影時の光源によって色合いが変わるのを、適正な色にできます。	AUTO/ / / / / / / /	AUTO
WB微調整(→92ページ)	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。ホワイトバランスで設定した色合いをさらに細かく調整します。	-3/-2/-1/0/+1/+2/+3	0
AEブラケティング（→92ページ）	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。同じ画像を明るさ(露出)を変えて撮影できます。	±1/3EV/±2/3EV/±1EV	±1/3EV
フラッシュ（光量補正）(→93ページ)	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。撮影目的や撮影条件に合わせて、フラッシュの発光量を調節するときに使用します。	−2/3EV〜+2/3EV(約1/3EVステップ)	0
外部フラッシュ(→94ページ)	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。外部フラッシュを使用するときに設定します。	ON/OFF	OFF
AFモード(→96ページ)	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。ピントの合わせるエリアを変更できます。	/ /	
クイックショット(→98ページ)	“ ”に設定すると自動的に クイックショットが設定されます。ピント合わせのスピードを速くできます。	ON/OFF	OFF
カスタムモード保存(→98ページ)	モードダイヤルが“AUTO、SP1、SP2”以外のときに設定できます。お好みの撮影設定を保存することができます。	C1/C2	—

その他の工場出荷時設定
ISO感度：“AUTO”時にAUTO(800)、“FSB、P、S、A、M”時に200
ブレ防止機能：ON 1
顔キレイナビ：OFF

撮影メニュー

メニューの設定方法
(→84ページ)

フィルムシミュレーションを設定する
(フィルムシミュレーション)

使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

記録される画像の発色や階調を変更できます。被写体に応じて、4種類のフィルムを再現した設定から選択できます。

STD PROVIA　：標準的な発色と階調で人物、風景など幅広い被写体に適します。
Velvia　：高彩度な発色とメリハリある階調表現で風景、自然写真に最適です。
ASTIA　：落ち着いた発色とソフトな階調で、しっとりとした表現に適します。
PORTRAIT：肌色再現を重視したポートレイトモードで人物撮影に適します。

注意

感度が制限されます。詳しくは73ページをご参照ください。

ダイナミックレンジを設定する
(D-Rng ダイナミックレンジ)

使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

撮影する画像のダイナミックレンジを設定します。

AUTO　：カメラが撮影シーンに応じて自動的にダイナミックレンジを100%〜400%に可変させて撮影します。コントラストの強いシーンでは、白トビ、黒つぶれを抑え、広いダイナミックレンジを必要としない曇天や室内での撮影でもコントラストのある画像が得られます。

R100 100%、R200 200%、R400 400%：
どのような撮影シーンでも、指定したダイナミックレンジで撮影します。

注意

- 感度が制限されます。詳しくは73ページをご参照ください。
- ダイナミックレンジが広くなるほど、画像に粒子状のノイズが増えます。状況に応じてダイナミックレンジ設定を使い分けてください。
- “フィルムシミュレーション”が“STD PROVIA”のときのみ設定できます。

記録される画像の大きさを変える（ピクセル）

記録される画像の大きさを変更できます。
画質重視か枚数重視か目的に応じて使い分けましょう。

■ ピクセル設定と用途例

ピクセル	用途例
11M F（3840×2880） 11M N（3840×2880）	A3、六切、四切、A4サイズ程度でプリントする場合。 画質を優先する場合は“11M F”を選んでください。
3:2（4032×2688）	
6M（2816×2112）	DSCW、2L、HV、A5サイズ程度でプリントする場合。
3M（2048×1536）	
2M（1600×1200）	DSC、L、ハガキ、A6サイズ程度でプリントする場合。
03M（640×480）	電子メールへの画像添付やホームページで利用する場合。

■ プリントサイズ早見表

A3	297mm×420mm	DSCW	127mm×169mm
四切	254mm×305mm	A6	105mm×148mm
A4	210mm×297mm	ハガキ	102mm×152mm
六切	203mm×254mm	HV	89mm×158mm
A5	148mm×210mm	L	89mm×127mm
2L	127mm×178mm	DSC	89mm×119mm

写せる範囲とピクセルについて

通常

3:2

“3:2”は、他の記録画素数が画像比率4：3で記録されるのに対して、3：2の比率（フィルム・ポストカードと同じ比率）で撮影されます。

メモ

- ピクセルが大きいほど画質が良くなり、小さいほど1枚のメモリーカードにより多くの枚数を記録することができます。
- ピクセルは、電源をOFFにしてもモードを切り換えても保持されます。
- ピクセルを変更すると撮影可能枚数（→170ページ）が変わります。設定の右側の数字が撮影可能枚数です。
- ピクセルの設定によっては。“ISO感度”が制限されます。感度とピクセルの関係については73ページをご参照ください。

注意

CCD-RAW（→127ページ）を設定しているときは、“ピクセル”の設定ができません。

色の濃さを設定する（Color カラー）

使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

画像を撮影するときの、色の濃さを設定します。

濃い　　　　　　：色の濃さを標準よりも濃くするときに設定します。
標準　　　　　　：色の濃さを標準に設定します。
薄い　　　　　　：色の濃さを標準よりも薄くするときに設定します。
モノクロ（B&W）：撮影した画像の色を黒白にするときに設定します。

注意

“フィルムシミュレーション”が“STD PROVIA”のときのみ設定できます。

コントラストを設定する（Tone トーン）

使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

画像を撮影するときの、コントラストについて設定します。

ハード(HARD)　　　：画像のコントラストを標準より高くし、メリハリのある画像にするときに設定します。
スタンダード(STD)：撮影された画像のコントラストを標準に設定します。
ソフト(SOFT)　　　：標準よりもコントラストを低く設定します。

注意

“フィルムシミュレーション”が“STD PROVIA”のときのみ設定できます。

画像の輪郭を強調／柔らかくする（S シャープネス）

使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

輪郭をソフトにしたいときや、強調したいときに使用します。また、撮影画質を調節するときに使用します。

ハード(HARD)　：輪郭を強調します。建物、文字などを鮮明にしたい撮影に最適です。

スタンダード(STD)：通常の撮影に最適なシャープネス処理をします。

ソフト(SOFT)　：輪郭をソフトにします。人物などソフトにしたい撮影に最適です。

注意

“フィルムシミュレーション”が“STD PROVIA”のときのみ設定できます。

色合いを調節する（WB ホワイトバランス）

使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

太陽光や照明など撮影時の光源によって白色の色合いが変わるのを、見た目に近い白色に調節することができます。

AUTO：
　カメラが自動的にホワイトバランスを設定します。

カスタム1、カスタム2：
　白紙などを使って、撮影状況に対して最適なホワイトバランスを設定します。

晴れ：
　晴天の屋外での撮影用です。

日陰：
　曇天や日陰などでの撮影用です。

蛍光灯1：
　昼光色蛍光灯の下での撮影用です。

蛍光灯2：
　昼白色蛍光灯の下での撮影用です。

蛍光灯3：
　白色蛍光灯の下での撮影用です。

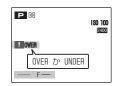
電球：
　電球、白熱灯の下での撮影用です。

カスタムホワイトバランスを設定する

① メニューで“カスタム1”または“カスタム2”を選びます（➞84ページ）。
② 白い紙などを画面内の枠いっぱいに表示してシャッターボタンを押し、白の基準を設定します。

メモ

前回設定したホワイトバランスを使用するには、シャッターボタンは押さずに“MENU/OK”ボタンを押してください。

③ “GOOD!”と表示されたら、“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

［OVER］が表示された場合は“－（マイナス）”側に、［UNDER］が表示された場合は“＋”側に露出補正してください（➞65ページ）。

カスタムホワイトバランスの使用例

白い紙の代わりに色のついたものを使用すると、それを白の基準にするので、色味を意図的に変更することができます。

メモ

- ホワイトバランスがAUTO時は、人物の顔アップや特殊な光源下では、正しい色味にならない場合があります。その場合は光源に合わせたホワイトバランスに設定してください。
- フラッシュ発光時のホワイトバランス（カスタムホワイトバランスを除く）はフラッシュ用の設定になります。光源の雰囲気を残したい場合は、フラッシュを発光禁止（➞76ページ）に設定してください。
- 設定したカスタムホワイトバランスは、再設定するまで保持されます（バッテリーを取り出しても保持されます）。
- 撮影環境(光源など)によって多少色味が変わる場合があります。
- 撮影後、再生して画像の色味(ホワイトバランス)を確認することをおすすめします。
- 用語解説「ホワイトバランス」（➞171ページ）。
- カスタムホワイトバランス設定時と撮影時で感度を合わせてください。

ホワイトバランスを微調整する（WB微調整）

使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

ホワイトバランスの微調整を行うことができます。調節範囲は1段ステップで±3段です。

R（赤）-Cy：
+にすると画像が赤味がかります。また、－にすると画像がシアン味がかります。
B（青）-Ye：
+にすると画像が青味がかります。また、－にすると画像が黄色味がかります。
R-Cy、B-Yeを共に＋にすると画像がマゼンタ味がかります。R-Cy、B-Yeを共に－にすると画像が緑味がかります。

① 調整したい微調整値を-3〜+3の範囲で設定します。

② “MENU/OK” ボタンを押して決定します。

注意

ホワイトバランス微調整の設定は電源をOFFにしてもリセットされません。

同じ画像を露出を変えて撮影する（AEブラケティング）

使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

同じ被写体を露出を変えて撮影したいときに使用します。自動的に設定値きざみで適正、オーバー、アンダーの露出で3コマ連続して撮影します。

チェック！

- 設定値：3種類(±1/3EV、±2/3EV、±1EV)
- 用語解説「EV」(→171ページ)

注意

- アンダーまたはオーバーの露出がカメラの露出制御範囲を超えるときは、設定値きざみで撮影されません。
- フラッシュは使用できません。
- 必ず3コマの画像が撮影されます。ただし、メモリーカードや内蔵メモリーに3コマ分の空き容量がない場合は撮影できません。

メモ　AEブラケティング

“ ブラケティング”の露出値を設定後、“ 連写”ボタンを押して“ AEブラケティング”を選びます。

フラッシュの発光量を変える（フラッシュ（光量補正））

使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

撮影目的や撮影条件に合わせてフラッシュの発光量のみを変えることができます。

チェック！

- 補正範囲
  −2/3EV～+2/3EV（5段階：約1/3EVステップ）
- 用語解説「EV」（→171ページ）

注意

- 被写体条件および撮影距離などによっては、光量補正の効果が得られない場合があります。
- 1/1000秒より高速なシャッタースピードを設定したときは、暗く撮影されることがあります。

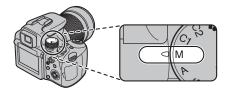
外部フラッシュの設定をする（外部フラッシュ）

使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

外部フラッシュを使用するときに設定します。同調シャッタースピードは1/4000秒までです。

① メニューで“ON”を選びます（➞84ページ）。

② 内蔵フラッシュを閉めて、外部フラッシュをカメラのホットシューに取り付け、固定ねじを締めます。

③ 撮影モードを選択します。“P、S、A、M、C1、C2”に設定できますが、“M”での使用をおすすめします。

④ 外部フラッシュを設定します。

* 市販の外部フラッシュの表示部のイメージ図です。外部フラッシュの設定は、フラッシュの説明書を参照して次の項目を設定してください。
- 外部調光モードに設定します（TTLモードは使用できません）。
- カメラの絞り値と、設定を合わせます。カメラが測定した絞り値に合わせてください。
- カメラの感度（➞72ページ）と、設定を合わせます。

注意

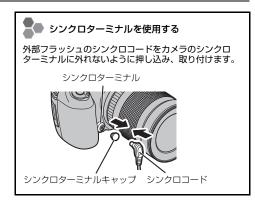
- 1/1000秒より高速なシャッタースピードを設定したときは、暗く撮影されることがあります。
- “WBホワイトバランス”（→90ページ）を“AUTO”またはカスタムホワイトバランス（→91ページ）に設定します。
- 外部フラッシュが“ON”のとき、内蔵フラッシュをポップアップすると、外部フラッシュを発光させるための信号として、内蔵フラッシュが1回発光されます。このとき、ホットシューやシンクロターミナルからは信号が出ません。
- “連写”（→80ページ）設定時はフラッシュ撮影できません。

チェック！

- 一般の外部フラッシュが使用できます。ただし、一部のカメラ専用フラッシュでは使用できない場合があります。
- 使用可能なフラッシュは次の3条件を満たすものです。
  - 絞り値設定が可能
  - 外部調光が可能
  - 感度設定が可能
- ホワイトバランスが合わない場合は、撮影メニューの“WBホワイトバランス”の“カスタム1”もしくは“カスタム2”を選択して調節してください（→91ページ）。

シンクロターミナルを使用する

外部フラッシュのシンクロコードをカメラのシンクロターミナルに外れないように押し込み、取り付けます。

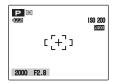
もっと使いこなそう（撮影編）

ピント合わせのエリアを変える（AFモード）

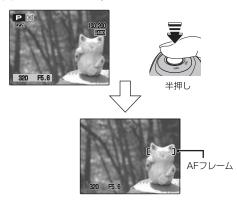
使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード（顔キレイナビがONのときは選べません。）

被写体に応じてピント合わせのエリアを変更できます。

: センター固定
: オートエリア
: エリア選択

センター固定

画面中央でピントを合わせます。
AF/AEロック撮影（→38ページ）を併用するとより効果的です。

オートエリア

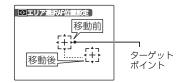
シャッターボタンを半押しすると、画面中央付近のコントラストが高い被写体を自動認識し、ピントを合わせた位置にAFフレームが表示されます。

注意

マクロ撮影時は中央付近でピントが合います。

メモ

ピントを合わせたい位置にAFフレームが表示されない場合は、AFモードを“センター固定”にしてAF/AEロック機能（→38ページ）をお使いください。

エリア選択

画面内でピントを合わせる位置を変えることができます。三脚に固定して構図を決めてから、ピントを合わせる位置を変えるときなどに使用します。

① 設定画面を表示します。

② “▶●◀” ワンプッシュ AFボタンを押しながら、“⊡”（ターゲットポイント）を“▲▼◀▶”でピントを合わせたい位置に移動します。

③ “▶●◀” ワンプッシュ AFボタンから指をはなすと、ターゲットポイントを移動した位置にAFフレームが表示されます。

④ 通常どおり撮影します。

メモ

- AFフレームを再度移動するときは、手順①からやり直してください。
- AFフレームの位置にかかわらず、露出合わせは常に画面中央付近で行われます。被写体に露出を合わせるときは、AF/AEロック(→38ページ)の使用をおすすめします。

ピント合わせを早くする（クイックショット）

使用可能撮影モード：すべての撮影モード

シャッターボタンを半押しにしたときのピント合わせの時間が短くなり、すばやく撮影できます。シャッターチャンスを逃したくないときなどに有効です。

注意

セットアップメニューの“EVF/LCD表示”のフレームレート設定は“30fps”に固定されます(フレームレート→171ページ)。

メモ

- クイックショットが“OFF”時のピントの合う範囲
  広角端：約50cm～無限大（∞）
  望遠端：約2.5m～無限大（∞）
- クイックショットが“ON”時のピントの合う範囲
  広角端：約2m～無限大（∞）
  望遠端：約5m～無限大（∞）
- クイックショットをONにして撮影すると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 撮影モードが“”のときは自動的に設定されます。

お好みの設定を保存する（カスタムモード保存）

使用可能撮影モード：AUTO、SP1、SP2以外の撮影モード

撮影モード、感度、ピクセル、セットアップメニューの一部項目などの撮影条件をあらかじめ設定し、保存するときに使用します。

C1：
設定をC1に保存する場合
C2：
設定をC2に保存する場合

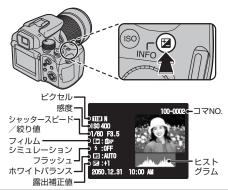
“カスタムモード保存”で保存できる撮影メニュー

- フィルムシミュレーション
- ダイナミックレンジ
- ピクセル
- カラー
- トーン
- シャープネス
- ホワイトバランス
- WB微調整
- AEブラケティング
- フラッシュ（光量補正）
- 外部フラッシュ
- AFモード
- クイックショット

“カスタムモード保存”で保存できるセットアップメニュー

- AF補助光
- CCD-RAW

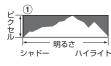
再生インフォメーション機能を使用する

1コマ再生時に、撮影時の情報を確認することができます。
"⊠" 露出補正ボタンを押している間情報が表示されて確認できます。ボタンから指をはなすと表示が消えます。

注意

・高輝度警告

露出オーバーして、白トビした箇所を黒く点滅させて表示します。

ヒストグラム表示について

ヒストグラムとは明るさの分布をグラフ(横軸：明るさ／縦軸：ピクセルの数)に表したものです。

① 適正露出の場合：
全体的にピクセルの数が多く、山なりに分布します。

② 露出オーバーの場合：
ハイライトのピクセルの数が多く、右に偏ります。

③ 露出アンダーの場合：
シャドーのピクセルの数が多く、左に偏ります。

注意

被写体によってグラフ形状は異なります。

再生メニューを使う

撮影した画像を再生するときの機能です。

再生メニューの設定方法

①カメラを再生モードにします（→42ページ）。

②“MENU/OK”ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

③変更する項目を選びます。

④設定の変更に移ります。

⑤設定を変更します。

⑥“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

■ 再生メニュー一覧

メニュー	ページ
消去	48
スライドショー	101
赤目補正	101
画像回転	102
プロテクト	103
画像コピー	105
ボイスメモ	106
トリミング	109
プリント予約	111

メニューの設定方法
(→100ページ)

連続して再生する (スライドショー)

撮影した画像を順番に再生します。画像の切り換えかたなどを設定できます。

メモ

- 途中でやめる場合は“MENU/OK”ボタンを押してください。
- “ノーマル”、“フェード”のときは◀▶でコマ送りできます。
- スライドショー中は自動電源OFF(→130ページ)しません。
- 動画は自動的に再生が始まり、再生が終わると自動的に次のコマに進みます。
- “DISP/BACK”ボタンを1回押すと、画面にガイダンスが表示されます。
- 1コマ再生中に日付を表示した場合は、スライドショーでも日付が表示されます(“マルチ”は除く)。
- “ノーマル ”、“フェード ”のとき、顔キレイナビ(→34ページ)で撮影した画像は、検出した顔を拡大しながら再生します。

赤目画像を補正する (赤目補正)

顔キレイナビ(→34ページ)で撮影した画像(液晶モニターに が表示されます)の赤目を補正することができます。

① 顔キレイナビで撮影されたコマ(ファイル)を選びます。

② “MENU/OK”ボタンを押して、再生メニューを表示します。

③ “赤目補正”を選びます。

④ 赤目補正画面を表示します。

⑤ “MENU/OK”ボタンを押して実行します。

もっと使いこなそう(再生編)

次ページにつづく

注意

- 顔検出できないときは、赤目補正できないまたは十分に補正できない場合があります。また、横顔では赤目補正できません。
- シーンによっては赤目が補正できなかったり、補正した結果に差が生じる場合があります。
- 撮影人数が多い場合は、処理に時間がかかる場合があります。
- 本機以外のカメラで撮影した静止画“ ”は赤目補正できません。
- 赤目補正された画像は新規コマとして保存され、“ ”が画像に表示されます。
- “ ”が表示されている画像は、赤目補正済みです。あらためて赤目補正はできません。
- セットアップメニューの“RAW CCD-RAW”を“ON”に設定して撮影した画像は赤目補正できません。

チェック！

①赤目が検出されます。

②赤目が補正されて記録されます。赤目が検出できなかった場合は、「補正中」の画面は表示されずに終了します。

画像を回転する（画像回転）

画像を回転することができます。

注意

- プロテクトされたコマ（ファイル）は回転できません。プロテクトを解除してから回転させてください。（→103ページ）。
- セットアップメニューの“ 縦横自動回転再生”が“OFF”に設定されているときは画像を回転できません。

メモ

本機で再生した場合のみ回転表示されます。
また、本機以外のカメラで撮影した静止画は回転できない場合があります。

①画像を回転するコマ（ファイル）を選びます。

②“MENU/OK”ボタンを押して再生メニューを表示します。

③“画像回転”を選びます。

④画像回転画面を表示します。

⑤回転させます。
▼：時計回りに90°回転
▲：反時計回りに90°回転

⑥“MENU/OK”ボタンを押して決定します。
次の再生時には自動的に回転表示されます。
回転を取り消す場合は“DISP/BACK”ボタンを押します。

画像を保護する（プロテクト）

画像を誤って消去しないように、大切な画像にプロテクトを設定して保護できます。

設定／解除

選んだコマ（ファイル）をプロテクトしたり、プロテクトを解除したりします。

プロテクトされていない場合

プロテクトされている場合（“[鍵]”表示）

①設定/解除するコマ（ファイル）を選びます。

②“MENU/OK”ボタンを押すと設定/解除されます。
プロテクトされていない場合：
プロテクト設定
プロテクトされている場合：
解除

続けて設定するには①、②の操作を繰り返します。
終了する場合は“DISP/BACK”ボタンを押してください。

もっと使いこなそう（再生編）

次ページにつづく

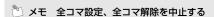
全コマ設定

全コマ設定 OK?
処理に時間がかかる
場合があります
OK 実行　BACK やめる

“MENU/OK”ボタンを押すと、すべてのコマ（ファイル）をプロテクトします。

全コマ解除

全コマ解除 OK?
処理に時間がかかる
場合があります
OK 実行　BACK やめる

“MENU/OK”ボタンを押すと、すべてのコマ（ファイル）のプロテクトを解除します。

撮影した画像が大量にあると、全コマ設定、全コマ解除に時間がかかる場合があります。
操作の途中で静止画や動画の撮影をしたい場合は“DISP/BACK”ボタンを押してください。

注意

フォーマット（→129ページ）をすると、プロテクトしてあるコマ（ファイル）も消去されてしまいます。

画像をコピーする（COPY画像コピー）

本機の内蔵メモリーに保存された画像をメモリーカードへコピーできます。
またメモリーカードに保存された画像をカメラの内蔵メモリーへコピーすることもできます。

■ コピーの方法を決める

①"INカメラ➡カード"か"カード➡INカメラ"を選びます。

②設定の変更に移ります。

他のメモリーカードにコピーする

画像コピー機能を使ってメモリーカードから、いったん、内蔵メモリーにコピーし、別のメモリーカードに入れ換えてコピーしてください。

1コマコピーする（1コマ）

①"1コマ"を選びます。

②"MENU/OK"ボタンを押して、確認画面を表示します。

③コピーするコマ（ファイル）を選びます。

④"MENU/OK"ボタンを押すと、表示中のコマ（ファイル）をコピーします。

 メモ

続けてコピーするには③、④の操作を繰り返します。
コピーを終えるには"DISP/BACK"ボタンを押します。

次ページにつづく

すべてのコマをコピーする（全コマ）

①“全コマ”を選びます。

②“MENU/OK”ボタンを押して、確認画面を表示します。

③“MENU/OK”ボタンを押すと、すべてのコマ（ファイル）をコピーします。

注意

- “空き容量がありません”、“IN空き容量がありません”と表示された場合、途中までしかコピーされません。
- プリント予約していた画像をコピーした場合、プリント予約の設定はコピーされません。

画像に音声を入れる（ボイスメモ）

撮影した画像に、最長30秒間の音声を入れることができます。
撮影時の状況などを録音すると思い出がより深いものとなるでしょう。

ボイスメモを付ける

①ボイスメモを付ける画像を選びます。

②“MENU/OK”ボタンを押して再生メニュー画面を表示します。

③“ボイスメモ”を選びます。

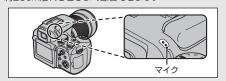
④録音画面を表示します。

⑤“MENU/OK”ボタンを押すと録音が開始されます。

録音中は画面に残り時間がカウントダウン（秒読み）表示されます。

メモ

マイクに向かって録音してください。

約20cm離れるとうまく録音できます。

⑥途中で“MENU/OK”ボタンを押すか、30秒経過すると録音が終了します。

記録する場合：“MENU/OK”ボタンを押します。
再録音する場合：“DISP/BACK”ボタンを押します。

メモ

- すでにボイスメモがあるときは

ボイスメモ付きの画像を選んだときは、再録音するかどうかの選択画面が表示されます。

- “プロテクトされています”が表示された場合はプロテクトを解除してください（→103ページ）。
- 動画にはボイスメモを付けられません。

もっと使いこなそう（再生編）

次ページにつづく

ボイスメモを再生する

① ボイスメモ付き画像ファイルを選びます（“🎙”が画面に表示されます）。

② 再生が開始されます。

画面に残り時間と進行状況を示すバーが表示されます。

注意

スピーカーをふさがないでください。
音が聞き取りにくくなります。

■ ボイスメモ再生操作方法

	操作	説明
再生	▼	再生を開始します。 再生が終わると自動的に停止します。
一時停止/解除	▼	再生中に操作すると一時停止します。 一時停止中に操作すると一時停止を解除します。
停止	▲	再生を停止します。 ※停止中に◀▶を押すと次のファイルに送られます。
早送り/巻戻し	◀▶	再生中に操作すると早送り/巻戻しします。 ※一時停止中は操作できません。

チェック！

- ボイスメモ録音形式
  WAVE（→171ページ）、PCM記録形式
- 音声ファイルサイズ
  約350KB（30秒録音時）

メモ　ボイスメモファイルの再生について

本機以外で記録したボイスメモファイルは再生できない場合があります。

再生音量を調節する

ボイスメモ再生中に音量調節ができます。

① ボイスメモ再生中に“MENU/OK”ボタンを押します。
ボイスメモ再生は自動的に一時停止します。

② 音量を調節します。

③“MENU/OK”ボタンを押して設定します。
自動的にボイスメモ再生に戻ります。

画像を切り抜く（トリミング）

撮影した画像の必要な部分を切り抜くことができます。

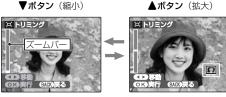
チェック！

のメニューを選択する前に、トリミングするコマ（ファイル）を選んでください。

▼ボタン（縮小）　▲ボタン（拡大）

① 拡大、縮小します。

もっと使いこなそう（再生編）

次ページにつづく

② 表示を切り換えます。

③ 切り抜きたい部分に移動します。

④ “MENU/OK”ボタンを押します。

⑤ トリミング後の記録画素数を確認して“MENU/OK”ボタンを押します。
トリミングした画像は別ファイルで最後のコマに追加されます。

メモ

- 途中で1コマ再生に戻るには、“DISP/BACK”ボタンを押します。
- 手順①でズーム時に拡大したサイズによって、記録画素数が変わります。最小の0.3Mになる場合は“OK 実行”の文字が黄色になります。
- 記録画素数と用途について

6M 3M	DSCW、2L、HV、A5サイズ程度でのプリント
2M	DSC、L、ハガキ、A6サイズ程度でのプリント
03M	電子メールへの画像添付やホームページでの使用

- “ピクセル”の設定が“3:2”で記録された画像は、通常のサイズ（4：3）でトリミングされます。
- プリントサイズについては88ページをご参照ください。

注意

- 本機以外のカメラで撮影した静止画はトリミングできない場合があります。
- セットアップメニューの“RAW CCD-RAW”を“ON”に設定して撮影した画像はトリミングできません。

“顔キレイナビ（顔検出機能）”

顔キレイナビ(→34ページ)で撮影した画像(画面に が表示されます)は、 顔キレイナビボタンを押すと、ピントを合わせた顔を拡大表示し、主被写体を簡単に切り抜くことができます。
ご希望の箇所を自由に切り抜きたいときは、通常のトリミングの手順で調整できます。

プリントする画像を指定する（プリント予約）

DPOF対応のお店やプリンターでプリントするときに、画像や枚数、日付の有無を指定することができます。

日付あり設定 ：プリントしたときに日付が印字されます。

日付なし設定 ：プリントしたときに日付が印字されません。

全コマ解除 ：プリント予約したすべてのコマ（ファイル）の設定を解除します。

次ページにつづく

日付あり設定、日付なし設定

プリント予約を設定します。
“日付あり設定🕒”のときは“🕒”が表示され、日付を印字できます。

① プリント予約するコマ（ファイル）を選びます。

② プリント枚数を設定します。
- 最大99枚まで設定できます。
- プリントしないコマは0枚に設定してください。

続けて設定する場合は、①、②の操作を繰り返してください。

③ 設定が完了したら、必ず“MENU/OK”ボタンを押してください。
“DISP/BACK”ボタンを押すとプリント予約されません。

④ 合計枚数が表示されますので、もう一度、“MENU/OK”ボタンを押します。

メモ　プリント予約を解除するには

① “MENU/OK”ボタンを押して、再生メニューを表示し、▲▼で“🖨プリント予約（DPOF）”を選びます。
② “▶”ボタンを押して、設定の変更に移ります。
③ ▲▼で“日付あり設定🕒”か“日付なし設定”を選び、“MENU/OK”ボタンを押して予約設定画面を表示します。
④ ◀▶でプリント予約を解除したいコマ（ファイル）を選択します。
⑤ ▼でプリント枚数を0枚に設定します。

続けて解除するには④、⑤の操作を繰り返します。
設定が終了したら必ず“MENU/OK”ボタンを押してください。
- 全コマ解除（→114ページ）

メモ

- 他の機種でプリント予約してあるとき

他の機種でプリント予約されたコマ（ファイル）がある場合は“ プリント予約リセット OK？”と表示されます。
“MENU/OK”ボタンを押すと、既にプリント予約された設定はすべて消去されます。そのため、新たにプリント予約をやり直す必要があります。
- 同一メモリーカード内で最大999コマの画像にプリント予約できます。
- 動画とCCD-RAWはプリント予約できません。

注意

- 設定中に“DISP/BACK”ボタンを押すと、新規設定がすべてキャンセルされます。既にプリント予約されていたときは修正のみキャンセルされます。
- プリンターの仕様によっては日付が入らないことがあります。
- 本機以外で撮影した画像はプリント予約できない場合があります。

“顔キレイナビ（顔検出機能）”

顔キレイナビ(→34ページ)で撮影した画像(画面に が表示されます)を設定する場合、 顔キレイナビボタンを押すと、検出した顔に枠が表示され、その数がプリント枚数に設定されます。本機で検出した人数分の枚数が簡単に用意できます。
続けて▲▼を押すと、枚数を調整できます。もう一度、 顔キレイナビボタンを押すと、顔の数に再設定されます。
設定が完了したら、必ず“MENU/OK”ボタンを押します。

次ページにつづく

全コマ解除

プリント予約をすべて解除できます。

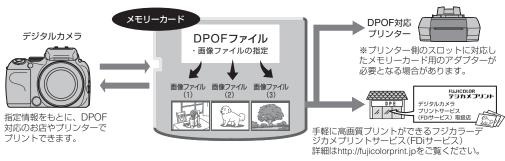
再生メニューで“全コマ解除”を選び（→111ページ）、設定画面を表示します。

“MENU/OK”ボタンを押すと、プリント予約がすべて解除されます。

メモ

プリント予約が設定してあるコマには、再生時に“”が表示され、確認できます。

■ プリント予約（DPOF）について

DPOF（ディーポフ）とはDigital Print Order Format（デジタルプリントオーダーフォーマット）のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたいコマやその枚数、日付の有無などの指定情報をメモリーカードなどに記録するときの形式です。

デジカメプリントのご注文について

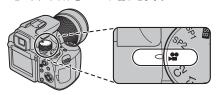
DPOF情報を記録したメモリーカードを、フジカラーデジカメプリントサービス（FDiサービス）取扱店にお持ちいただき、お店で「DPOF指定でプリント」とお伝えいただくだけで、指定情報どおりの高画質プリントサービスが受けられます。1回のDPOF指定でプリントできるサイズは1種類です。一部の店舗では、DPOF指定をお受けしていない場合がありますので、ご注文時にご確認ください。
また、DPOF指定をしなくてもフジカラーデジカメプリントサービスの取扱店でプリントしたいコマや、その枚数、日付の有無などの指定ができます（お店のプリント受付機をご利用いただくと画像を見ながら簡単にできます）。詳しくはお店にご確認ください。

※ 内蔵メモリーの画像にもプリント予約（DPOF）できます。ただし、PictBridge機能（→134ページ）を使用して、カメラとプリンターを直接つないでプリントするときにのみ利用できます。
※ 日付プリントをする場合には、撮影時にカメラの日時設定が正しく設定されている必要があります。撮影前にカメラの日時が正しく設定されていることをご確認ください。
※「DPC-M1GB」など、「M」が付いている **xD-ピクチャーカード** （Type M）からお店プリントする場合は、Type M対応のプリント受付機をご利用ください。詳しくはお店にご確認ください。

動画を撮影する

音声付きの動画を撮影できます。

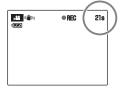
❶ 動画モードに設定する

モードダイヤルを"　"に合わせます。

画面に撮影可能時間が表示されます。

メモ

スタンバイ中に"　"ブレ防止ボタンを押すと、ズームの望遠側で撮影したいときなど、手ブレの少ない安定した画面で撮影ができます。

❷ 動画を撮影する

全押し

シャッターボタンを全押しすると、撮影が開始されます。
撮影中は画面に"●REC"と、残り時間のカウントダウン（秒読み）が表示されます。

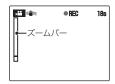
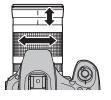
半押し

撮影中にシャッターボタンを半押しするか、残り時間がなくなると撮影を終了します。

メモ

撮影中にシャッターボタンを押し続ける必要はありません。

■ ズームについて

動画撮影中もズームリングでズームすることができます。ズームした後は、ピントを合わせ直します。

拡大、縮小します。

チェック！

- 光学ズーム焦点距離*
  約28mm〜400mm相当
  最大ズーム倍率　14.3倍
- ピントの合う範囲
  広角端：約50cm〜無限遠(∞)
  望遠端：約2.5m〜無限遠(∞)

*35mmフィルム換算

チェック！　撮影できる動画について

- 撮影形式：
  Motion JPEG形式（→171ページ）
  モノラル音声付き
- 動画サイズ：
  640（640×480ピクセル）
  320（320×240ピクセル）
- フレームレート（→171ページ）：
  30フレーム/秒（固定）

メモ

- 撮影前の画面表示と動画記録中の画面表示は明るさや色などが異なる場合があります。
- シャッターボタンを全押しして撮影を開始したあとも、露出、ホワイトバランスはシーンに応じて自動的に変化します。
- 撮影開始後すぐに終了しても約1秒間だけ メモリーカードまたは内蔵メモリーへ記録されます。

注意

- 動画はメモリーカード、または内蔵メモリーに記録しながら撮影するため、突然電源が切れる（バッテリー切れ、ACパワーアダプターの接続が外れる）と正常に保存処理できません。
- 本機で撮影した動画ファイルは、本機以外では再生できない場合があります。
- セットアップメニューの“fps EVF/LCD表示”のフレームレート設定は“30fps”に固定されます(フレームレート→171ページ)。
- 音声が同時に記録されるので、指などでマイク（→11ページ）をふさがないようご注意ください。
- 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。
- 動画ファイルは1ファイル2GBまでの記録となります。

動画サイズを変更する

動画モード時に“MENU/OK”ボタンを押して撮影メニューを表示します。

①設定の変更に移ります。

②設定を変更します。

③“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

■ 動画サイズの設定

640（640×480ピクセル）：画質重視
320（320×240ピクセル）：記録時間重視

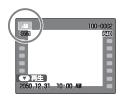
メモ

- ピクセルは、電源をOFFにしてもモードを切り換えても保持されます。
- 標準撮影時間については170ページをご参照ください。

注意

「DPC-M1GB」など、「M」が付いている **xD-ピクチャーカード** を使って撮影したとき、画像ファイルの記録と消去を繰り返すと動画記録時間がまれに短くなることがあります。
このような場合には全コマ消去またはフォーマットしてからお使いください。そのとき、消去したくない重要なコマ（ファイル）はパソコンなどにコピーしてください。

▶動画を再生する

▶再生モードにする
（→42ページ）

① 動画ファイルを選びます。
（“🎥” が表示されます。）

② 再生が開始されます。

画面に再生時間と進行状況を示すバーが表示されます。

■ 動画再生操作方法

	操作	説明
再生		再生を開始します。 再生が終わると自動的に停止します。
一時停止/解除		再生中に操作すると一時停止します。 一時停止中に操作すると一時停止を解除します。
停止		再生を停止します。 停止中に◀▶を押すと次のファイルに送られます。
早送り/巻戻し		再生中に操作すると早送り/巻戻しします。
コマ送り		一時停止中に◀または▶を押すたびに1コマずつ送られます。 押し続けると速く送られます。

次ページにつづく

メモ

高輝度の被写体を撮影した場合、再生時に白い縦スジや黒い横スジが入ることがありますが故障ではありません。

注意

・本機以外で撮影したファイルは再生できない場合があります。
・パソコンで再生する場合、メモリーカード、内蔵メモリー内の動画ファイルをパソコンのハードディスクに保存して、そのファイルを再生してください。
・スピーカーをふさがないでください。音が聞き取りにくくなります。

再生音量を調節する

動画再生中に音量調節ができます。

① 動画再生中に“MENU/OK”ボタンを押します。
動画は自動的に一時停止します。

② 音量を調節します。

③ “MENU/OK”ボタンを押して設定します。
自動的に動画再生に戻ります。

カメラの設定を変える—SETセットアップ

セットアップメニューの操作

❶セットアップメニューを表示する

①“MENU/OK”ボタンを押して、メニューを表示します。

②“SETセットアップ”を選びます。

③セットアップ画面を表示します。

❷ページを切り換える

①ページを選びます。

②項目の選択に移ります。

❸設定を変更する

①変更する項目を選びます。

②設定の変更に移ります。
一部の項目では専用の設定画面に切り換わります。

③設定を変更します。

④“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

セットアップメニュー一覧

	項目	設定（表示）	工場出荷時	内容	ページ
1	撮影画像表示	連続/3秒/1.5秒/画像拡大チェック	1.5秒	撮影後の画像確認画面（撮影結果）の表示方法を設定できます。撮影画像と実際の色味が異なる場合がありますので、再生してご確認ください。	124
	コマNO.	連番/新規	連番	コマNO.の付けかたを設定します。	125
	ブレ防止モード	1 常時/2 撮影時	1 常時	ブレ防止の種類を設定できます。	126
	補正前画像記録	ON/OFF	OFF	顔キレイナビ（補正ON時）を使用して撮影するときに、赤目補正される前の画像も記録します。	—
	AF補助光	ON/OFF	ON	AF補助光を使用するかどうか設定できます。	39
	CCD-RAW	ON/OFF	OFF	画質をCCD-RAWに設定します。カメラで画像処理を行わないため、パソコンで画像処理を行う必要があります。	127
2	EVF/LCD表示	30fps/60fps	60fps	画面表示をなめらかにします。	—
	AE-LOCK設定	AE-L 1/AE-L 2	AE-L 1	AEロックの方法を変更します。“AE-L 1”に設定すると、“AE-L”ボタンを押している間、露出が固定されます。“AE-L 2”に設定したときは、“AE-L”ボタンを押すと露出が固定され、もう一度“AE-L”ボタンを押すと解除されます。	—
	P in P	ON/OFF	ON	マニュアルフォーカスでフォーカスリングを回したときに画面中央部を拡大表示して、ピントを合わせやすくします。	127

	項目	設定（表示）	工場出荷時	内容	ページ
1	日時設定	―	―	日付、時刻を修正できます。	28
	操作音量	))/)/ /OFF	)	ボタンなどを操作したときの音量を設定できます。	―
	シャッター音量	))/)/ /OFF	)	シャッターを切るときの音量を設定できます。	―
	再生音量	―	7	動画再生、ボイスメモ再生時の音量設定ができます。	128
	縦横自動回転再生	ON/OFF	ON	縦位置で撮影した画像を、自動的に正しい向きで再生できます。	128
	モニター明るさ	―	0	画面の明るさを設定できます。	129
2	フォーマット	―	―	メモリーカード 、または内蔵メモリーを初期化します。すべてのファイルが消去されます。	129
	言語/LANG.	日本語/ENGLISH	日本語	画面に表示する言語を設定できます。	―
	自動電源OFF	5分/2分/OFF	2分	何も操作していないときに、自動的に電源が切れる時間を設定できます。	130
	世界時計	ホーム/現地	ホーム	時差の設定ができます。	130
	配色設定	―	―	メニューやカーソルの色を設定できます。	―
	撮影ガイド表示	ON/OFF	ON	機能の説明を表示するかどうか設定できます。	―
3	ビデオ出力	NTSC/PAL	NTSC	ビデオ出力をNTSCにするかPALにするかを選択します。日本国内で使用する場合はNTSCを選択してください。	―
	リセット	―	―	日時設定、世界時計、配色設定、ビデオ出力以外のすべての設定を工場出荷時設定にリセットします。“▶”を押すと確認画面が表示されるので、リセットするには“◀▶”で“実行”を選び、“MENU/OK”ボタンを押します。	―
	カスタムリセット	C1/C2	―	撮影モード“C1”もしくは“C2”に保存された撮影設定をリセットします。	―

撮影画像表示

自動的に記録されたあとに、撮影後の撮影結果の表示方法を設定できます。

連続：自動的に記録されたあとに、撮影結果が表示されます。
次の撮影をするには、“MENU/OK”ボタンを押します。

3秒、1.5秒：撮影結果が約3秒間、または約1.5秒間表示され、自動的に記録されます。

画像拡大チェック：自動的に記録されたあとに、撮影結果が拡大表示され、詳細を確認できます。

注意

- “3秒”、“1.5秒”のときに表示される画像は、実際に記録される画像と色味が若干異なる場合があります。
- “ エンドレス連写”（→83ページ）に設定しているときは、撮影画像表示は使用できません。

メモ

“連続”に設定して撮影結果が表示されているときに、“◪”ボタンを押すと、白トビ（→99ページ）を確認できます。

■ 拡大（画像を拡大してチェックする）

ナビゲーション画面（現在の表示位置）

① 大きさを変えます。

② 表示を切り換えます。

③ 見える範囲を移動できます。

④ 次の撮影をするには“MENU/OK”ボタンを押します。
画像は自動的に記録されます。

メモ

- ピクセル設定が“”のときは、拡大されません。
- “DISP/BACK”ボタンを押すとズームは解除されます。
- 連写設定している場合は、本機能は使用できません。

"顔キレイナビ（顔検出機能）"

顔キレイナビ(→34ページ)で撮影した画像は、顔キレイナビボタンを押すたびに表示される顔が切り換わり、確認できます。
▲か▼を押すと、大きさを変えられます。◀か▶を押すと、移動画面となり、▲▼◀▶で見える範囲を移動できます。

コマNO.

コマNO.の付けかたを設定します。

連番： 最後に使用したメモリーカード、または内蔵メモリーの最終ファイルNO.から続けて記録します。

新規： メモリーカードごとにファイルNO.は0001から記録が開始されます。
メモリーカード内の画像を消去したときは、最後に記録されたファイルNO.から続けて記録します。

次ページにつづく

チェック！

再生時、画面の右上の7ケタの数字のうち下4ケタがファイルNO.で上3ケタはフォルダNO.です。

メモ

- “連番”はパソコンなどに画像を取り込んだときにファイル名が重複しないので、ファイルの管理に便利です。
- “リセット”（→123ページ）を実行した場合、コマNO.の設定は“連番”になりますが、コマNO.自体は“0001”に戻りません。
- “連番”でメモリーカードを交換したとき、 最後に記憶したファイルNO.よりも大きいファイルNO.の画像があった場合、大きいファイルNO.に続けられます。
- 他のカメラで撮影した画像は、コマNO.表示が異なる場合があります。

ブレ防止モード

ブレ防止の種類を設定できます。

1 常時　：撮影モードの状態では常にブレ防止がONとなります。

2 撮影時：シャッターボタンを半押しするとブレ防止がONとなります。

CCD-RAW

RAW CCD-RAWを“ON”に設定すると、カメラでは信号処理(CCDから読み出されたデータを画像として再構成する作業)を行わないため、パソコンで画像を再構成する必要があります。
付属のFinePixViewerを使ってパソコンで処理してください。FinePixViewerのCCD-RAWファイル変換機能を使って変換することにより、簡単に画像ファイルを作ることができます。(変換できるファイル形式はご使用のOSにより異なります。くわしくは FinePixViewer のヘルプをご覧ください。)

注意

CCD-RAWを設定しているときは以下の機能を使用できません。
撮影時：赤目補正、デジタルズーム、ピクセル設定
再生時：再生ズームは最大2.5倍までになり、トリミング保存と赤目補正はできません。

チェック！

画像を再構成するには、パソコンにFinePixViewer（同梱のCD-ROM）がインストールされている必要があります。

P in P（フォーカス確認機能）

ピントを確認しにくいときに設定します。

P in Pを“ON”に設定して、フォーカスリングを回すと、画面中央部が拡大表示され、そのままピントを合わせることができます。撮影が完了もしくはシャッターボタンを半押しするか、しばらく操作を行わないと、通常表示に戻ります。

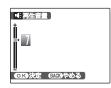
注意

- P in Pは、マニュアルフォーカス(➞70ページ)に設定しているときのみ、使用できます。
- P in Pを使用するときは、セットアップメニューの“fps EVF/LCD表示”（➞122ページ）を“30fps”に設定してください。
- P in Pは、“ クイックショット”（➞98ページ）が設定されているときは使用できません。

カメラの設定を変える

次ページにつづく

再生音量

動画再生、ボイスメモ再生時の音量を調節します。

① 音量を調節します。
数字が大きくなるほど音量が大きくなり、0のときは消音になります。

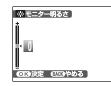
② “MENU/OK”ボタンを押して決定します。

縦横自動回転再生

このカメラは、撮影時に構図の縦位置・横位置を感知する縦横位置センサーを内蔵しています。“ON”に設定されている場合、画像再生時に、撮影時の縦横位置を反映し、画像を自動的に回転して液晶モニターに表示しますが、“OFF”に設定すると、すべての画像を横位置として表示します。

ON ：画像再生時に、撮影時の縦横自動検出を反映し、画像を自動的に回転して液晶モニターに表示します。
OFF：画像再生時に、すべての画像を横位置として表示します。

モニター明るさ

画面表示の明るさを調節します。

① 明るさを調節します。
＋側にすると明るくなり、－側にすると暗くなります。

② “MENU/OK”ボタンを押して決定します。

フォーマット

メモリーカード、内蔵メモリーをカメラ用に初期化（フォーマット）します。

- フォーマットする場所
  “フォーマット OK?”
  ：内蔵メモリー
  “フォーマット OK?”
  ：メモリーカード

① “実行”を選びます。

② “MENU/OK”ボタンを押すと、メモリーカード、または内蔵メモリーが初期化されます。

注意

- フォーマット時に、プロテクトされているものを含むすべてのコマ（ファイル）が消去されます。
  消去したくない重要なコマ（ファイル）は、パソコンなどにコピーしてください。
- フォーマット時は、バッテリーカバーやスロットカバーを開けないでください。カードまたは内蔵メモリーが破壊される可能性があります。

次ページにつづく

自動電源OFF（オートパワーオフ）

設定した時間（2分間または5分間）操作しないと自動的に電源が切れます。バッテリーを長持ちさせたいときに使用します。

注意

スライドショー（→101ページ）、プリンターやパソコンとの接続（→134、146ページ）時は自動電源OFFしません。

メモ　再び電源を入れるには

「電源を入れる／切る（→25ページ）」をご参照ください。

世界時計

旅行先で時差がある場合に、時差の設定ができます。撮影時間が設定した時間で記録されます。

❶時差設定を有効にする。

“ホーム”と“現地”を切り換えます。時差を設定するときは“現地”にします。
ホーム：お住まいの地域
現地：旅行先

❷時差設定に移る。

時差設定画面に移ります。

❸時差を設定する。

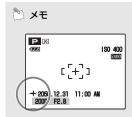
①変更する項目（+か−、時、分）を選びます。

②設定を変更します。

③設定が終了したら、“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

チェック！

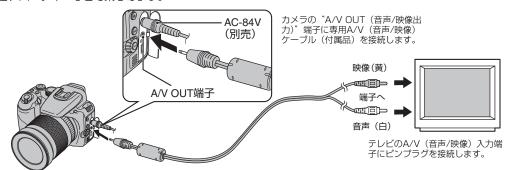
設定可能時間
–23:45〜+23:45（15分単位）

メモ

世界時計を設定すると、撮影モードにしたとき画面に、“✈”と日付が3秒間表示されます。そのとき日付表示は黄色に変わります。

チェック！

旅行先から戻ったら、世界時計の設定を必ず“⌂ホーム”に設定し直して、日時を再確認してください。

テレビに接続する

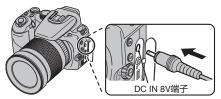
テレビに接続すると大画面で写真を見ることができます。「スライドショー（→101ページ）」を使用すると、パーティーなどで楽しめます。

注意

- 専用A/V（音声/映像）ケーブル、ACパワーアダプターは、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- ACパワーアダプターについてのご注意は別紙の「お取り扱いにご注意ください」をご参照ください。

メモ

- 専用A/V（音声/映像）ケーブルをテレビに接続するとカメラの画面表示が消えます。
- 動画を再生すると、静止画に比べて画質は低下します。
- テレビに接続すると、“再生音量”の設定をしても音量は変更されません。テレビの音声/映像入力については、テレビの説明書をご参照ください。
- 長時間、テレビに接続する場合はACパワーアダプター AC-84V（別売）のご使用をおすすめします。

ACパワーアダプター（別売）を使用する

弊社製「ACパワーアダプター AC-84V」（別売）をご使用になることをおすすめします。
パソコンへ撮影した画像を転送するなど、電源が切れては困るときに使用します。また、バッテリーの消耗を気にせず、撮影や再生をすることができます。

カメラの電源が切れていることを確認します。ACパワーアダプターの接続プラグをカメラの“DC IN 8V”端子に奥まで差し込み、次に電源コンセントに差し込みます。

注意

- ACパワーアダプターの接続および取り外しは、必ずカメラの電源が切れているときに行ってください。カメラの電源が入っているときに接続や取り外しを行うと、カメラの電源が一時的に切れるため、撮影中の画像や動画は保存されません。また、メモリーカードや内蔵メモリーの破損、およびパソコン接続時の誤動作の原因になります。
- 弊社専用以外のACパワーアダプターをご使用になった場合の不具合は保証いたしかねます。
- ACパワーアダプターを接続しても、バッテリーの充電はできません。バッテリーの充電には付属のバッテリーチャージャー BC-140をお使いください。

 メモ

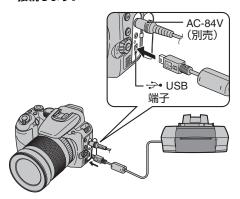
ACパワーアダプターについてのご注意は別紙の「お取り扱いにご注意ください」をご参照ください。

プリンターに接続してプリントする—PictBridge機能

PictBridge（ピクトブリッジ）対応のプリンターがあれば、パソコンを使わないでカメラとプリンターを直接つないでプリントできます。

プリンターに接続する

❶付属のUSBケーブルでカメラとプリンターを接続します。

メモ

プリンターに接続する場合はACパワーアダプター AC-84V（別売）のご使用をおすすめします。

❷接続したら、プリンターの電源を入れます。そのあと電源スイッチを“ON”に合わせてカメラの電源を入れて、“▶”（再生）ボタンを押して再生モードに切り換えます。

電源を入れると接続確認の画面が表示されます。

❸しばらくすると次の画面が表示されます。

コマを指定してプリントする
→135ページへ
プリント予約(DPOF)した画像をプリントする
→136ページへ

 メモ

プリンターによっては使えない機能があります。

コマを指定してプリントする（日付ありプリント、日付なしプリント）

①プリントするコマ（ファイル）を選びます。

②プリント枚数を設定します。
最大99枚まで設定できます。

続けて設定するには①、②の操作を繰り返します。

③“MENU/OK”ボタンを押して、確認画面を表示します。

④もう一度“MENU/OK”ボタンを押すとデータが転送され、指定された枚数がプリントされます。

メモ

合計（トータル）枚数が0枚のときに“MENU/OK”ボタンを押すと、表示画面を1枚プリントする確認画面が表示されます。もう一度、“MENU/OK”ボタンを押すと、プリントされます。

次ページにつづく

メモ　日付を入れてプリントする

① “DISP/BACK”ボタンを押して設定画面を表示します。
② “日付ありプリント”を選びます。
③ “MENU/OK”ボタンを押して決定します。

注意

日付プリントに対応していないプリンターに接続した場合は、“日付ありプリント”が選べません。

プリント予約(DPOF)設定でプリントする(予約プリント)

① “DISP/BACK”ボタンを押して、メニューを表示します。

② “予約プリント”を選びます。

③ “MENU/OK”ボタンを押して、確認画面を表示します。

予約プリントします
トータル：19枚
OK 開始　BACK やめる

④もう一度“MENU/OK”ボタンを押すとデータが転送され、プリント予約したコマが連続してプリントされます。

チェック！

“予約プリント”をする場合は、あらかじめ111ページを参照してプリント予約をしてください。

注意

プリント予約（→111ページ）で“日付あり設定”にしても、日付プリントに対応していないプリンターの場合、日付が印字されません。

 メモ

プリント中に“DISP/BACK”ボタンを押すとプリントを中止できます。プリンターによってはすぐにプリントを中止できない場合や、プリントの途中で停止する場合があります。
動作の途中で動かなくなった場合は、カメラの電源をいったん切って、もう一度入れ直してください。

 プリンターと接続を切るには

①カメラの画面に“プリント中”と表示されていないことを確認します。
②カメラの電源を切り、USBケーブルを取り外します。

次ページにつづく

メモ

内蔵メモリーの画像にもプリント予約（DPOF）できます。

注意

- PictBridge機能は、カメラで撮影した画像以外ではプリントできない場合があります。
- 本機では用紙サイズ設定や印字品質などプリンターの設定はできません。
- カメラにACパワーアダプター AC-84V（別売）を接続することをおすすめします。
- 内蔵メモリー、または本機でフォーマットしたメモリーカードをご使用ください。
- 動画とCCD-RAWはプリントできません。
- 本機以外で撮影した画像はプリントできない場合があります。

パソコンと接続する

パソコンと接続することで、画像データを保存したり、専用ソフト“FinePixViewer”を使って閲覧や管理など様々なことができます。

FinePixViewerの概要

FinePixViewerは、撮影画像の取り込み、ファイル、フォルダの管理、ネットプリント注文（Windowsでインターネット接続環境のみ）等を行うことができます。

パソコンと接続する前に

カメラをパソコンに初めて接続する際は、接続前に、必ず付属のCD-ROMを使ってすべてのソフトウェアをパソコンにインストールしてください。
インストール前にカメラをパソコンに接続すると、正常に接続できなくなる場合があります。

チェック

■ CD-ROMのバージョンについて

CD-ROMのバージョンはこの部分に記載されています。ソフトウェアのアップデート対象バージョン確認のために使用します。または問い合わせ時に必要な情報です。

注意

- 本機はMTP/PTP対応カメラです。
  MTP/PTP対応カメラとはパソコンやプリンターを自動認識し、簡単に接続できるカメラです。
- Mac OS Xでは、初回接続時に自動起動の設定が必要です。
- カメラとパソコンが通信中のときは、インジケーターランプが緑／橙に交互点滅します。
- USB接続時は自動電源OFFしません。
- メモリーカードの交換は、必ずカメラとパソコンの接続を切ったあとに行ってください。
- パソコンで“コピー中”の表示が消えても、カメラと通信中の場合があります。必ずカメラのインジケーターランプが消灯していることを確認してください。
- ボイスメモの付いた画像は必ずFinePixViewerを使ってパソコンに転送してください。
- インターネットに接続する際に発生する通話料金、プロバイダ接続料金などはお客様のご負担となります。
- FinePixViewerでネットワークサーバ上に画像ファイルを保存してご利用いただく場合、スタンドアローン（単独）のパソコンのようにご利用になれないことがあります。
- “RAW CCD-RAW”（→127ページ)を設定して撮影した画像は、必ずFinePixViewerを使ってパソコンに転送してください。

Windowsにインストールする

この章では、Windowsパソコンでのインストール方法・設定を説明しています。

❶インストール前にお確かめください

■ 動作環境と推奨環境

本ソフトウェアをお使いいただくには、以下の条件が揃っていることが必要です。
お使いのパソコン、ご使用環境が動作条件に合うか、インストールを始める前にお確かめください。

動作環境		推奨環境	
OS*[1]	Windows 98 SE Windows Millennium Edition（Windows Me） Windows 2000 Professional*[2]*[3] Windows XP Home Edition*[2] Windows XP Professional*[2] Windows Vista*[2]	Windows XP	Windows Vista
CPU	Pentium 200MHz以上 （Windows XP/Vistaの場合は、Pentium4/800MHz以上）	Pentium4/2GHz 相当以上	Pentium4/3GHz 相当以上
メモリ	128MB以上（Windows XP/Vistaの場合は512MB以上） （CCD-RAWファイル変換機能使用時 .... 768MB以上）	512MB以上	1GB以上
ハードディスク 空き容量	インストールに必要な容量 .... 450MB以上 動作に必要な容量 .... 600MB以上 （CCD-RAWファイル変換機能使用時...................................2GB以上） （OSの仮想メモリ・ページングファイルに設定必要）	2GB以上	15GB以上
ディスプレイ	800×600ドット以上、16ビットカラー以上	1024×768ドット以上　フルカラー	
外部接続端子	本体標準のUSBポート		

*[1] 上記のOSがプリインストールされたモデル。
*[2] インストールするときには、コンピュータの管理者アカウント（例えば、“Administrator”）でログインしてください。
*[3] CCD-RAWファイル変換機能を使用する場合、Service Pack4が必要です。

注意

- 増設USBインターフェースボードを使用した場合の動作保証はいたしません。
- Windows 95、Windows 98、Windows NTでは使用できません。
- 自作パソコンや、OSをアップデートしたパソコンは、動作保証外です。

❷ CD-ROMをパソコンにセットする

①パソコンの電源を入れて、Windowsを起動します。既に電源を入れて作業をしていた場合は、再起動してください。

注意

- ソフトウェアのインストールが完了するまで、カメラを接続しないでください。
- Windows 2000 ProfessionalまたはWindows XP/Vistaをお使いの場合は、コンピュータの管理者アカウント（例えば、“Administrator”）でログオンしてください。

②起動中のアプリケーションを終了させてください。

③同梱のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると、インストーラーが自動的に起動します。

Windows Vistaをお使いの方へ

同梱のCD-ROMをパソコンにセットしたときに、「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「SETUP.EXE」の実行をクリックしてください。また、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「許可」をクリックしてください。

メモ　インストーラーを手動で起動するには

①「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして開きます。
Windows XPをお使いの場合は、「スタート」メニュー→「マイコンピュータ」（Windows Vistaをお使いの場合は、「スタート」メニュー→「コンピュータ」）をクリックします。

②「マイコンピュータ」ウィンドウ（Windows Vistaをお使いの場合は、「コンピュータ」ウィンドウ）の「FINEPIX」のCD-ROMアイコン上で右クリックして「開く」を選択します。

③CD-ROMの中の「SETUP」または「SETUP.exe」をダブルクリックします。

次ページにつづく

❸ FinePixViewerをインストールする

① セットアップ画面が表示されます。
「FinePixViewerのインストール」をクリックしてください。

メモ

インストール内容について詳しく知りたいときは、「はじめにお読みください」をクリックします。

② 画面の案内にしたがって、インストールを実行してください。

③「再起動」ボタンが表示されたらボタンをクリックしてパソコンを再起動してください。

 メモ

Windows Media PlayerやDirectXが最新バージョンでない場合は、インストールされます。インストール後、再起動してください。

④ 再起動後、「FinePixViewerのインストールが完了しました」という画面が表示されます。
CD-ROMをパソコンから取り出してください。

⑤「今すぐ起動」ボタンをクリックしてFinePixViewerが起動されることを確認してください。

これでインストールはすべて終了しました。

続いて、146ページの「カメラとパソコンを接続する」に進んでください。
CD-ROMは再インストール時に必要となりますので、パソコンから取り出したあと、湿気がなく、光が当たらないところに大切に保管してください。

Mac OS Xにインストールする

この章では、Mac OS Xでのインストール方法・設定を説明しています。

❶インストール前にお確かめください

■ 動作環境

本ソフトウェアをお使いいただくには、以下の条件が揃っていることが必要です。
お使いのパソコン、ご使用環境が動作条件に合うか、インストールを始める前にお確かめください。

対応機種*[1]	Power Mac G3*[2]、PowerBook G3*[2]、 Power Mac G4、iMac、iBook、 Power Mac G4 Cube、PowerBook G4、 Power Mac G5 MacBook、MacBook Pro、Mac mini
OS	Mac OS X*[3]（バージョン10.3.9〜10.4.10対応　2007年11月現在*[4]）
メモリ	256MB以上
ハードディスク空き容量	インストールに必要な容量 .... 200MB以上 動作に必要な容量 .... 400MB以上 （CCD-RAWファイル変換機能使用時 ....2GB以上） （システムディスク上に必要）
ディスプレイ	800×600ドット以上、約32,000色以上
インターネット接続*[5]	●画像ネットサービス、メール添付機能使用時 　インターネットに接続し、メールの送受信ができる環境 ●通信速度 　56kbps以上推奨

*[1] Power PC、Intel Processor搭載機
*[2] USBポートが標準装備されている機種
*[3] インストールするときには、コンピュータの管理者アカウントでログインしてください。
*[4] 対応OSについては下記のホームページをご覧ください。
http://fujifilm.jp/personal/digitalcamera/
*[5] 画像ネットサービスの使用時に必要です。インターネット接続できない場合でも、ソフトウェアのインストールは可能です。

次ページにつづく

注意

- Macintoshとカメラは、USBケーブルで直接、接続してください。延長ケーブルを接続したり、USBハブを経由すると、正常に動作しない場合があります。
- USBコネクターは奥まで差し込んで、確実に接続してください。正しく接続されていない場合は正常に動作しません。
- 増設USBインターフェースボードを使用した場合の動作保証はいたしません。

❷ FinePixViewerをインストールする

① Macintoshの電源を入れて、Mac OS Xを起動します。他のアプリケーションは起動しないでください。

② 同梱のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると「FinePix」アイコンが表示されます。「FinePix」アイコンをダブルクリックすると、「FinePix」ボリュームが開きます。

③「Installer for MacOSX」をダブルクリックするとセットアップ画面が表示されます。

④「FinePixViewerのインストール」をクリックしてください。

メモ

インストール内容について詳しく知りたいときは、「はじめにお読みください」をクリックします。

⑤ 画面の案内にしたがって、インストールを実行してください。

⑥「FinePixViewerのインストールが完了しました。」という画面が表示されます。

注意

WebブラウザにSafariをご使用の場合、CD-ROMを取り出す際に、「ディスク“FinePix”は使用中のため取り出せませんでした。」のメッセージが表示されることがあります。
その場合は、Dock内にあるSafariのアイコンをクリックして起動し、「Safari」－「Safariを終了」メニューを選択して終了させてください。

メモ

カメラを接続したとき、FinePixViewerを自動起動させるには

①「アプリケーション」フォルダから「イメージキャプチャ (Image Capture)」を起動します。

②「イメージキャプチャ」メニューより「環境設定」を選択します。

③「カメラを接続したときに起動する項目」から「その他」を選択します。

④「アプリケーション」フォルダの「FinePixViewer」フォルダから「FPVBridge」を選択し、「開く」ボタンをクリックします。

⑤イメージキャプチャを終了します。

これでインストールはすべて終了しました。

続いて、146ページの「カメラとパソコンを接続する」に進んでください。
CD-ROMは再インストール時に必要となりますので、パソコンから取り出したあと、湿気がなく、光が当たらないところに大切に保管してください。

カメラとパソコンを接続する

初回接続時に行ってください
実際にカメラをパソコンと接続し、正常に動作することを確認します。

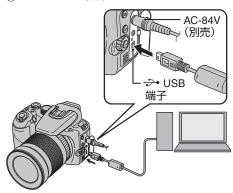
チェック！

Windowsパソコンをお使いの方は、WindowsのCD-ROMが必要となる場合がありますので、あらかじめご用意ください。パソコンにWindowsのCD-ROMが付属していない場合は、パソコンの使用説明書を見るか、パソコンのメーカーへお問い合わせください。

① 撮影済みのメモリーカードをカメラにセットします(→21ページ)。
本機では、**xD-ピクチャーカード**、SDメモリーカードをお使いになれます。本書では、これらを「メモリーカード」と表記します。

注意

- カメラ内のメモリーカードをパソコンでフォーマットしないでください。
  撮影できなくなることがあります。
- メモリーカードは弊社デジタルカメラで撮影したものをお使いください。

② USBケーブルで接続します。

接続に関する注意

- ACパワーアダプター AC-84V（別売）を使った接続をおすすめします。通信中に電源が切れると正常なデータの転送ができません。またメモリーカードまたは内蔵メモリー内のファイルを破壊する可能性があります。
- 通信中はUSBケーブルを取り外さないでください。通信中に接続が切れると、メモリーカードまたは内蔵メモリー内のファイルを破壊する可能性があります。
- USBケーブルは向きに気をつけて、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- パソコンとカメラは、USBケーブルで直接、接続してください。延長ケーブルを接続したり、USBハブを経由すると、正常に動作しない場合があります。
- パソコンにUSBポートが2つ以上ある場合は、どのポートに接続してもかまいません。

③ 電源スイッチを“ON”に合わせて電源を入れます。

メモ

Windowsパソコンをお使いの場合、インストールが完了していると、ドライバの設定が自動的に行われますので、そのままお待ちください。

データ転送中の注意

- カメラとパソコンを接続しているときは、以下の操作は行わないでください。
  メモリーカード、内蔵メモリーまたはメモリーカード、内蔵メモリー内のデータが破壊されることがあります。
  USBケーブルを抜く／カメラ（“POWER”（電源）スイッチ、操作ボタンなど）に触れる。

次ページにつづく

■ 以降の手順は、パソコンのOSによって違います。次にWindows XP/Vista、Mac OS Xの例を示します。

パソコンがカメラを自動認識するとFinePixViewerが自動的に起動し、次の画面が表示されます。
ここで画像を保存する場合は画面の指示に従って画像を保存します。保存しない場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。

注意

メモリーカード内に大量の画像がある場合は、パソコンに画面が表示されるまで時間がかかります。また、画像転送に時間がかかったり保存できない場合もあります。このような場合は、お手持ちのカードリーダーをご使用ください。

Windows XP/Vistaの場合

Mac OS Xの場合

メモ

- FinePixViewerでは保存した画像だけしか見ることができません。パソコンに画像を保存することをおすすめします。
- 「キャンセル」ボタンをクリックして保存を止めた場合は、“POWER”（電源）スイッチを押して電源を切ってからカメラを取り外してください。
- FinePixViewerとともにインストールされるExif Launcherの機能により、カメラ接続時にFinePixViewerが自動起動します。

注意 （Mac OS X）

FinePixViewerが自動起動しない場合は、ソフトウェアが正しくインストールされていません。カメラを取り外してからパソコンを再起動し、再インストールしたあと、145ページの「カメラを接続したとき、FinePixViewerを自動起動させるには」を参照して再設定してください。

カメラを取り外すときの注意（Mac OS X）

・必ずカメラ内のファイルをすべて閉じて、「カメラとパソコンが通信中でないこと」を確認してください。
・パソコンの“コピーしています”という表示が消えてすぐ、カメラを取り外したり、USBケーブルを抜いたりしないでください。大きなサイズのデータをコピーした場合、パソコンの表示が消えても、カメラのアクセスがしばらく行われている場合があります。

ソフトウェアを削除する

インストールしたソフトウェアが不要になったときのみ行ってください。

Windows

① カメラが接続中でないことを確認します。

② すべてのアプリケーションを終了します。

③ 削除の手順はOSによって違います。それぞれのOSの手順に従って、下記対象ソフトウェアを削除してください。

対象ソフトウェア
(*OSによってインストールされない場合があります。)
- FinePixViewer
- FinePix Resource
- FinePix Studio*
- RAW FILE CONVERTER LE*

④ 実行すると取り消すことはできないので、慎重に行ってください。

Mac OS X

FinePixViewerを終了したあと、インストールしたFinePixViewerのフォルダを「ゴミ箱」に入れ、「Finder」メニューの「ゴミ箱を空にする…」を選択してください。

トラブルシューティング

正常に動作せず、トラブルが発生したときにはまず、お使いのパソコンが動作環境にあてはまるか確認してください（→140、143ページ）。次に、ヘルプメニューより下記の内容をご参照ください。

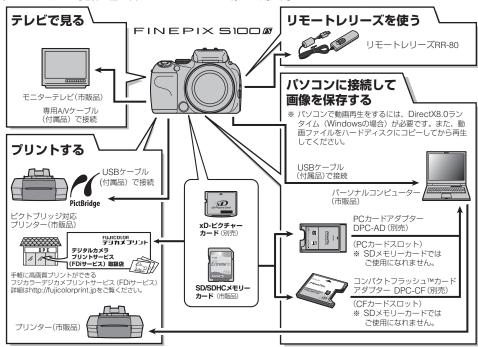
■ トラブルシューティング

分類	具体的な質問内容	対応OS Win 98	Win 2000	Win XP	Vista	Mac OS
接続・閲覧	自動起動の設定を変更したい。	●	●	●	●	
	初回接続時に“WINDOWS”のラベルの付いたディスクを要求された。	●	●	●	●	
	カメラをパソコンに接続したとき、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示された。	●	●	●	●	
	パソコンがカメラを認識しない（パソコンでカメラを利用できない）。	●	●	●	●	
	FinePixViewerが自動起動するまで時間が掛かる。	●	●	●	●	
	メディアのアクセスの際、パソコンがハングアップする。	●	●	●	●	
	USB接続したとき、Mac OSのディスクの初期化が表示された。					●
	FinePixViewerの自動起動を止めたい。					●
	パソコンが正常終了できない。	●	●	●	●	
	カメラが画像ファイルを再生できなくなった。	●	●	●	●	●
	Windows Media PlayerでAVIファイルを再生できない。	●	●	●	●	
	AVI形式の動画ファイルをパソコン上で再生する場合の注意。	●	●	●	●	●
インターネット	画像ネットサービスにログイン、ユーザー登録できない。	●	●	●	●	●

■ よくある質問

分類	質問内容	説明
ヘルプメニューの「FinePixViewerの使い方」をご覧ください	画像をパソコンに取り込む	「基本操作」→「画像の取り込み」をご参照ください。
	画像の保存方法	
	画像の印刷	「基本操作」→「ネットプリント注文」、「お店プリント予約（DPOF）」、「ホームプリント」をご参照ください。
	メール送信	「基本操作」→「電子メールで画像を送信」をご参照ください。

システムアップ機器（別売）　（平成20年2月現在）

別売のフジフイルム製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。

＊ デジタルカメラの画像は、従来の写真と同様にプリント取扱店でプリントできます。

＊ 本製品はPRINT Image Matching Ⅱ に対応しています。

別売アクセサリーの紹介 （平成20年2月現在）

使いかたについては、お使いになるアクセサリーの「使用説明書」をご覧ください。
※ 最新情報は富士フイルムホームページをご覧ください。
http://fujifilm.jp/personal/digitalcamera/

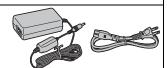
● イメージメモリーカード（ xD-ピクチャーカード ）

以下の種類がお使いいただけます。**xD-ピクチャーカード** には従来品と、「DPC-M1GB」など、「M」が付いているType Mがあります。
本機はType Mに対応していますが、使用する機器（カードリーダーなど）によって非対応の場合があります。

・ DPC-M256（256MB）·DPC-M512（512MB）
・ DPC-M1GB（1GB） ・DPC-M2GB（2GB）

※すべてオープン価格

● ACパワーアダプター AC-84V

長時間の撮影、再生時、パソコンとの接続時にお使いください。
（AC100V〜240V、50/60Hz対応）

● 充電式バッテリー NP-140（1150mAh）

リチウムイオンタイプの大容量充電式電池です。

● リモートレリーズ RR-80

リモートレリーズ RR-80は、三脚と併用してブレを軽減したい時などにお使いください。

● PCカードアダプター DPC-AD

xD-ピクチャーカード あるいはスマートメディアをPC Card Standard ATA（PCMCIA2.1）に準拠したPCカード（TYPE Ⅱ）として使えます。2種類のメディアのうちどちらか一方を使用できます。
※SDメモリーカードではご使用になれません。

※オープン価格

次ページにつづく

● コンパクトフラッシュ ™カードアダプター DPC-CF

xD-ピクチャーカード を挿入するとコンパクトフラッシュ ™カード（TYPE Ⅰ）として使用できます。
※SDメモリーカードではご使用になれません。

※オープン価格

警告表示

画面に表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示	警告内容	処　置
（赤点灯） （赤点滅）	バッテリーの残量が減っている、またはない。	新しいバッテリーまたは充電済みのバッテリーと交換してください。
	シャッタースピードが遅く、手ブレを発生しやすい状態。	フラッシュ撮影してください。ただし撮影シーンやモードによっては、三脚を使用してください。
[+] !AF （赤点灯） ※AFフレームの形は撮影メニューの設定によって異なります。	AF（オートフォーカス）がうまく働かない。	• 暗い場合は被写体から2m程度離れて撮影してください。 • AFロック撮影をしてください（→38ページ）。 • 近距離撮影する場合は、マクロを設定してください。
絞り、シャッタースピード表示（赤点灯）	明るすぎる、または暗すぎるために適正な明るさで撮影できない。	適正な明るさ（露出）ではありませんが、撮影できます。
フォーカスエラー **レンズ制御エラー**	カメラが誤作動または故障している。	• 電源を入れ直してください。 • 電源のON/OFFを繰り返してください。それでも復帰できないときは、修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
カードがありません	画像コピー時に メモリーカードが入っていない。	メモリーカードをセットしてください。
フォーマットされていません	• メモリーカード、内蔵メモリーがフォーマット（初期化）されていない。 • メモリーカードをパソコンでフォーマットした。 • メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れている。 • カメラが故障している。	• メモリーカード、内蔵メモリーをカメラでフォーマットしてください（→129ページ）。 • メモリーカードのフォーマットは、カメラで行ってください。 • メモリーカードの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります（→129ページ）。それでも警告表示が消えない場合は メモリーカードを交換してください。 • 修理サービスセンターに修理をご依頼ください。

次ページにつづく

警告表示	警告内容	処　置
カードエラー	• メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れている。 • メモリーカードのフォーマットが異常。 • カメラが故障している。 • メモリーカードが壊れている。 • 非対応のメモリーカードを挿入した。	• メモリーカードの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります（→129ページ)。それでも警告表示が消えない場合は メモリーカードを交換してください。 • 修理サービスセンターに修理をご依頼ください。 • 弊社動作確認済みのメモリーカードを挿入してください(→21ページ)。
空き容量がありません IN 空き容量がありません	内蔵メモリー、または メモリーカードに空き容量がなく、これ以上記録、またはコピーできない。	画像を消去する（→48ページ）か、空き容量のある メモリーカードを使用してください。
記録できませんでした	• メモリーカードと本体の接触異常または メモリーカードの異常のため記録できない。 • 撮影した画像が メモリーカードの空き容量を超えて記録できない。 • メモリーカード、内蔵メモリーがフォーマット（初期化）されていない。	• メモリーカードを入れ直すか電源のON/OFFを繰り返してください。それでも復帰できないときは、修理サービスセンターに修理をご依頼ください。 • 新しい メモリーカードを使用してください。 • メモリーカード、内蔵メモリーをカメラでフォーマットしてください（→129ページ)。
プロテクトされたカードです	SDメモリーカードの書込み禁止スイッチが“LOCK”側になっている。	SDメモリーカードの書込み禁止スイッチを元に戻し、誤記録防止のロックを外してください（→22ページ)。
メモリーがいっぱいです カードを入れてください	内蔵メモリーに空き容量がなく、これ以上記録、またはコピーできない。	内蔵メモリー内の画像を消去するか（→48ページ)、空き容量のあるメモリーカードを使用してください。
動画記録できません	パソコンでフォーマットした メモリーカードで撮影したため、記録が間に合わなくなった。	カメラでフォーマットした メモリーカードをお使いください。

警告表示	警告内容	処　置
コマNO.の上限です	コマNO.が999-9999に達している。	① フォーマットした メモリーカードをカメラにセットします。 ② セットアップメニューでコマNO.を「新規」にします（→125ページ）。 ③ 撮影します（コマNO.が「100-0001」より開始されます）。 ④ セットアップメニューでコマNO.を「連番」にします。
再生できません ? 再生できません	• 正常に記録されていないファイルを再生しようとした。 • メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れている。 • カメラが故障している。 • 本機以外で記録した静止画または動画を再生しようとした。	• 再生することはできません。 • メモリーカードの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります（→129ページ）。それでも警告表示が消えない場合は メモリーカードを交換してください。 • 修理サービスセンターに修理をご依頼ください。 • 再生することはできません。
枚数制限をこえています	5000枚以上の画像を日付再生しようとした。	5000枚以上の画像は日付再生できません。
プロテクトされています	• プロテクトされているファイルを消去しようとした。 • プロテクトされているファイルにボイスメモを付けようとした。 • プロテクトされているファイルを回転しようとした。	• プロテクトしたファイルは消去できません。プロテクトを解除してください（→103ページ）。 • プロテクトしたファイルにボイスメモは付けられません。プロテクトを解除してください（→103ページ）。 • プロテクトしたファイルは回転できません。プロテクトを解除してください（→103ページ）。
ボイス再生できません	• ボイスメモファイルが異常。 • カメラが故障している。	• ボイスメモを再生することはできません。 • 修理サービスセンターに修理をご依頼ください。

次ページにつづく

警告表示（つづき）

警告表示	警告内容	処　置
画像がありません	メモリーカード、または内蔵メモリーに画像がないときに、内蔵メモリーまたは メモリーカードへ画像をコピーしようとした。	コピーする画像がないため、画像をコピーすることはできません。
03M トリミングできません RAW トリミングできません	0.3Mの画像、CCD-RAW設定で撮影した画像をトリミングしようとした。	トリミングはできません。
トリミングできません	• 本機以外で撮影した画像をトリミングしようとした。 • 画像が壊れている。	トリミングはできません。
これ以上予約 できません	DPOFのコマ設定で1000コマ以上のプリント指定をした。	同一 メモリーカード内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。別の メモリーカードにプリント予約したい画像をコピーして、プリント予約してください。
設定できません RAW 設定できません。 設定できません	プリント予約できない画像または動画にプリント予約しようとした。	画像の形式上プリント予約できません。
回転できません 回転できません	本機以外で撮影した画像または動画を回転しようとした。	画像の形式上回転できません。
実行できません ? 実行できません 実行できません 実行できません	顔キレイナビが“OFF”で撮影された画像、動画、本機以外で記録した画像、または赤目補正ができない画像を赤目補正しようとした。	画像の形式上赤目補正できません。
RAW RAWファイルです	CCD-RAW設定で撮影した画像を赤目補正しようとした。	画像の形式上赤目補正できません。

警告表示	警告内容	処　　置
接続できませんでした	パソコンまたはプリンターとの通信ができなかった。	• USBケーブルの接続を確認してください。 • プリンターの電源が入っているか確認してください。
プリンターエラー	PictBridgeに関する表示。	• プリンターの用紙切れやインク切れがないか確認してください。 • プリンターの電源をいったん切ってから、再び入れてください。 • お使いのプリンターの使用説明書をお読みください。
プリンターエラー 再開しますか？	PictBridgeに関する表示。	プリンターの用紙切れやインク切れがないか確認してください。プリンターエラーを解消すると自動的にプリントが再開されます。確認後もエラーメッセージが消えない場合は“MENU/OK”ボタンを押して、プリントを再開してください。
プリントできません	PictBridgeに関する表示。	• お使いのプリンターの使用説明書をご覧になり、プリンターがJFIF-JPEG、Exif-JPEG形式の画像フォーマットに対応しているかご確認ください。対応していない場合はプリントできません。 • 本機で撮影したデータですか？ 本機で撮影したデータ以外はプリントできないことがあります。
プリントできない コマです	PictBridgeに関する表示。	• 動画とCCD-RAWはプリントできません。 • 本機で撮影したデータですか？ 本機で撮影したデータ以外はプリントできないことがあります。

困ったときは

故障とお考えになる前に、もう一度お調べください。処置を行っても改善されない場合は修理サービスセンターに修理をご依頼ください。

■ 準備中

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
バッテリー、電源について	電源スイッチを“ON”に合わせても電源が入りません。	バッテリーが消耗していませんか？	新しいバッテリーに交換するか、充電済みのバッテリーを使ってください。	17、19
		バッテリーを正しい向きで入れていますか？	バッテリーを正しい方向で入れ直してください。	19
		バッテリーカバー、またはスロットカバーはきちんと閉まっていますか？	バッテリーカバー、またはスロットカバーをしっかり閉めてください。	19、23
		ACパワーアダプターは正しく接続されていますか？	ACパワーアダプターの接続部分をよく確認して、正しく接続してください。	133
		バッテリーとACパワーアダプターを両方とも抜いて、長時間放置していませんか？	バッテリーを入れて数秒待つか、またはACパワーアダプターを接続して数秒待ってから電源を入れてください。	19、25、133
	バッテリーの減りが早いです。	非常に寒いところでカメラを使っていませんか？	バッテリーをポケットなどで温めておいて、撮影の直前に取り付けてください。	17、19
		バッテリーの端子が汚れていませんか？	バッテリーの端子部分を乾いたきれいな布でふいてください。	18
		同じバッテリーを長期間使っていませんか？	バッテリーの寿命の可能性があります。新品のバッテリーと交換してください。	17、19
	使用中に電源が切れてしまいました。	バッテリー残量が少なくなっていませんか？	新しいバッテリーに交換するか、充電済みのバッテリーと交換してください。	17、19
		ACパワーアダプターの接続が切れていませんか？	ACパワーアダプターをつなぎ直してください。	133

■ メニューなどの設定時

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	✔ ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
画面表示について	メニューが英語で表示されています。	セットアップメニューの“言語/LANG.”が“ENGLISH”になっていませんか？	設定を“日本語”にしてください。	121、123

■ 撮影時

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	✔ ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
基本撮影について	シャッターボタンを押しても撮影できません。	撮影可能枚数が0になっていませんか？	新しい メモリーカードを入れるか、不要なコマを消去してください。	21、48
		メモリーカード、内蔵メモリーはフォーマットされていますか？	カメラでフォーマットしてください。	121、129
		メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れていませんか？	メモリーカードの接触面を乾いた柔らかい布でふいてください。	21
		メモリーカードが壊れている可能性があります。	新しい メモリーカードを入れてください。	21
		バッテリー残量が少なくなっていませんか？	新しいバッテリーに交換するか、充電済みのバッテリーと交換してください。	17、19
		電源が切れていませんか？	電源を入れ直してください。	25
	撮影後、映像が消えて黒い画面になりました。	フラッシュ撮影しませんでしたか？	フラッシュを充電するために黒い画面になることがありますので、そのままお待ちください。	77
ピントについて	ピントが合いにくいです。	近距離のものを撮影しようとしていませんか？	マクロを設定してください。	74
		マクロのまま、遠くのものを撮影しようとしていませんか？	マクロを解除してください。	74
		オートフォーカスの苦手な被写体（→39ページ）を撮影しようとしていませんか？	AF/AEロック撮影または“MF”マニュアルフォーカス撮影をしてください。	38、70
顔キレイナビ（顔検出機能）について	顔キレイナビ（顔検出機能）が設定できません。	撮影モードが“▲、▲S、▲V、✲、🏃、☼”に設定されていませんか？	撮影モードを変更してください。	54
マクロ（近距離）について	マクロ（近距離）が設定できません。	撮影モードが“AUTO、FSB、✲、☺、P、S、A、M”以外に設定されていませんか？	撮影モードを変更してください。	54

取扱上の注意など

次ページにつづく

■ 撮影時

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
フラッシュについて	フラッシュが発光しません。	フラッシュ充電中に撮影しませんでしたか？	フラッシュの充電が完了してからシャッターボタンを押してください。	77
		フラッシュが閉じている。	フラッシュをポップアップしてください。	75
		撮影モードが“▲、▲S、▲V、✿、◎”になっていませんか？	撮影モードを変更してください。	54
		バッテリー残量が少なくなっていませんか？	新しいバッテリーに交換するか、充電済みのバッテリーと交換してください。	17、19
		連写を使用していませんか？	連写をOFFにしてください。	80
		“✿”スーパーマクロが設定されていませんか？	“✿”スーパーマクロを解除してください。	74
	使いたいフラッシュ設定を選べません。	撮影モードが“●、●S、◎、P”以外になっていませんか？	シーンに合わせた設定になるためフラッシュ設定が制限されます。フラッシュ設定を重視するときは撮影モードを変更してください。	54、76
	フラッシュが発光したのに撮影した画像が暗いです。	被写体から離れすぎていませんか？	フラッシュ撮影可能距離内で撮影してください。	74、77
		フラッシュを指などでふさいでいませんか？	カメラを正しく構えてください。	30
撮影した画像の異常について	画像がぼやけています。	レンズに汚れなどついていませんか？	レンズを清掃してください。	—
		撮影時にAFフレーム（赤点灯）、“!AF”が表示されていませんでしたか？	しっかりとピントを合わせてから撮影してください。	31、38、155
		撮影時に“!◎”が表示されていませんでしたか？	手ブレの可能性があります。しっかりとカメラを固定してください。	32、155
	画像に点状のノイズがあります。	気温の高いところでスローシャッター（長時間露光）撮影しませんでしたか？	CCDの特性によるもので、故障ではありません。	—
画像の記録について	撮影した画像や動画が記録されません。	カメラの電源が入っているときにACパワーアダプターの接続および取り外しをしませんでしたか？	ACパワーアダプターの接続および取り外しはカメラの電源が切れているときに行ってください。メモリーカードの破損、パソコン接続時誤作動の原因になります。	133
連写について	連写に設定したのに、1コマしか撮れません。	サイクル連写、エンドレス連写に設定して、セルフタイマー撮影しませんでしたか？	サイクル連写、エンドレス連写は、セルフタイマーと併用すると、1コマしか撮影されません。	80

■ 再生時

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	✔ ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
動画・ボイスメモ再生について	カメラから音が出ません。	カメラの再生音量の設定が小さくなっていませんか？	再生音量を調節してください。	109、120、123、128
		撮影/録音中にマイクを手などでふさいでいませんでしたか？	撮影/録音時はマイクをふさがないでください。	11、107、117
		再生中にスピーカーを手などでふさいでいませんか？	再生中はスピーカーをふさがないでください。	12、108、120
消去について	1コマ消去でコマが消せません。	プロテクトされていませんか？	プロテクトしたカメラでプロテクトを解除してください。	103
	全コマ消去したのに画像が残っています。			
コマNO.について	コマNO.の「連番」が機能しません。	バッテリーや メモリーカードを交換するときに電源を切らずにバッテリーカバーを開けませんでしたか？	バッテリーや メモリーカードを交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずにバッテリーカバーを開けると、コマNO.の連番が機能しないことがあります。	25

次ページにつづく

■ 接続時

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
テレビとの接続について	テレビに画像、音声が出ません。	カメラとテレビが正しく接続できていますか？	確認して正しく接続し直してください。	132
		動画再生中に専用A/Vケーブルを接続しませんでしたか？	動画再生をいったん停止させてから接続し直してください。	119、132
		テレビの入力が「テレビ」になっていませんか？	テレビの入力を「ビデオ」にしてください。	—
		セットアップメニューの“NTSC/PAL ビデオ出力”が“PAL”になっていませんか？	日本国内で使用する場合は“NTSC”にしてください。	121、123
		テレビの音量が小さくなっていませんか？	テレビの音量を調節してください。	—
	テレビの画像が黒白になってしまいました。	セットアップメニューの“NTSC/PAL ビデオ出力”が“PAL”になっていませんか？	日本国内で使用する場合は“NTSC”にしてください。	121、123
パソコンとの接続について	パソコンがカメラを認識しません。	USBケーブルが正しく接続されていますか？	確認して正しく接続し直してください。	146
プリンターとの接続について	接続したのにプリントできません。	• USB ケーブルが正しく接続されていますか？ • プリンターの電源は入っていますか？	• 確認して正しく接続し直してください。 • プリンターの電源を入れてください。	134

■ その他

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
カメラの動作などについて	カメラのボタンなどを操作しても動きません。	一時的に誤作動を起こしている可能性があります。	バッテリー、ACパワーアダプターをいったん取り外して、再び取り付け直してから操作してください。	19、133
		バッテリーの消耗が原因として考えられます。	新しいバッテリーに交換するか、充電済みのバッテリーと交換してください。	17、19
	カメラが正常に作動しなくなってしまいました。	一時的に誤作動を起こしている可能性があります。	バッテリー、ACパワーアダプターをいったん取り外して、再び取り付け直してから操作してください。それでも復帰できないときは、修理サービスセンターに修理をご依頼ください。	19、133、179

主な仕様

システム	
型番	FinePix S100FS
有効画素数	1110万画素
撮像素子	2/3型スーパー CCD ハニカム HR 原色フィルター採用
記録メディア	内蔵メモリー（約25MB）/ **xD-ピクチャーカード**（16MB～2GB）/ SD/SDHCメモリーカード（弊社推奨品→21ページ）
記録方式	静止画：DCF準拠 圧　縮：Exif Ver.2.2　JPEG準拠/DPOF対応 非圧縮：CCD-RAW（RAF独自フォーマット、付属のソフトウェアが必要） 動　画：DCF準拠（AVI形式 Motion JPEG） 音　声：WAVE形式、モノラル
記録画素数（ピクセル）	3840×2880/4032×2688/2816×2112/2048×1536/1600×1200/640×480 （11M/3:2/6M/3M/2M/03M）
ファイルサイズ	別表に記載（→170ページ）
レンズ	名　称：フジノン光学式14.3倍ズームレンズ 焦点距離：f=7.1mm～101.5mm（35mmフィルム換算：約28mm～約400mm相当） 開放F値：F2.8（広角）～F5.3（望遠）
デジタルズーム	約2倍（光学14.3倍ズームと併用　最大約28.6倍）
絞り	F2.8～F11（広角）/ F5.3～F11（望遠）　1/3EVステップ　手動/自動切り換え
撮影可能範囲 （レンズ先端面からの距離）	標　準：[広角] 約50cm～∞ (クイックショット時：約2.0m～∞) [望遠] 約2.5m～∞ (クイックショット時：約5.0m～∞) マクロ：[広角] 約10cm～約3.0m [望遠] 約90cm～約3.0m スーパーマクロ：約1cm～約1.0m　焦点距離：約28mm固定（35mmフィルム換算）
撮影感度	AUTO/AUTO(400)/AUTO(800)/AUTO(1600)、ISO 100/200/400/800/ 1600/3200/6400（最大記録画素数6M）/10000（最大記録画素数3M）（標準出力感度）
測光方式	TTL256分割測光 マルチ、スポット、アベレージ

次ページにつづく

システム	
露出制御	プログラムAE（“P”モード時：プログラムシフト可能）/シャッタースピード優先AE/絞り優先AE/マニュアル露出
シーンポジション	（ネイチャー）/ S（ネイチャーソフト）/ V（ネイチャービビッド）/（花の接写）/（ポートレート）/ S（ポートレートソフト）/（ベビー）/（美肌）/（夜景）/（夕焼け）/（スノー）/（ビーチ）/（スポーツ）/（花火）
手ブレ補正機構	光学式（レンズシフト方式）
顔キレイナビ （顔検出機能）	あり
露出補正	－2EV～+2EV　1/3EVステップ（FSB、P、S、A時）
シャッタースピード	AUTO、FSB、、S、V、、、S、、、、、、：1/4秒～1/4000秒* ：1/4秒～1/1000秒* ：4秒～1/2秒* P、S、A：4秒～1/4000秒*（フラッシュ発光禁止時は4秒～1/4000秒*） M：30秒～1/4000秒*　バルブ撮影可能（30秒まで）　*メカニカルシャッター併用
連写	連写：連写速度：約3コマ/秒　記録枚数：最大7コマ 高速連写3M：連写速度：約7コマ/秒　記録枚数：最大50コマ ダイナミックレンジブラケティング：記録枚数：100%、200%、400%で3コマ フィルムシミュレーションブラケティング：記録枚数：PROVIA、Velvia、ASTIAで3コマ AEブラケティング：記録枚数：設定した設定値で適正、オーバー、アンダーの3コマ サイクル連写：連写速度：約3コマ/秒　記録枚数：シャッターボタンを離した直前の7コマ エンドレス連写：連写速度：約1コマ/秒　記録枚数：内蔵メモリーまたはメモリーカードの空き容量分
オートブラケティング	±1/3EV、±2/3EV、±1EV
フォーカス	モード：シングルAF/コンティニュアスAF/マニュアルフォーカス AF方式：TTLコントラストAF、AF補助光付き AFフレーム選択：センター固定/オートエリア/エリア選択

システム	
ホワイトバランス	シーン自動認識オート/プリセット（晴天/日陰/昼光色蛍光灯/昼白色蛍光灯/白色蛍光灯/電球）/カスタム
セルフタイマー	約10秒/約2秒
フラッシュ	ポップアップ方式：CCD調光によるオートフラッシュ 撮影可能距離　（ISO：AUTO時）：[広角]約60cm〜約7.2m [望遠] 約2.5m〜約3.8m (マクロ時)：[広角]約30cm〜約80cm [望遠] 約90cm〜約1.3m
フラッシュ発光モード	赤目補正OFF時：AUTO/強制発光/禁止/スローシンクロ 赤目補正ON：赤目軽減AUTO/赤目軽減強制発光/禁止/赤目軽減スローシンクロ
ファインダー（EVF）	0.20型　約20万ドット（1ドットでRGB連続表示）　FLC型 視野率 約100%
液晶モニター	2.5型アモルファスシリコンTFTカラー液晶モニター　約23万ドット（視野率 約100%）
動画	640×480ピクセル/320×240ピクセル　30フレーム/秒、音声付き（モノラル）
撮影時機能	フィルムシミュレーション、ダイナミックレンジ、顔キレイナビ（顔検出機能）、赤目補正機能、クイックショット、フレーミングガイド（ベストフレーミング）、コマNO.メモリー、ヒストグラム表示
再生時機能	顔キレイナビ（顔検出機能）、赤目補正、マイクロサムネイル、トリミング、画像回転、スライドショー、マルチ再生、日付再生、ヒストグラム表示、高輝度警告表示、ボイスメモ
その他の機能	PictBridge対応、Exif Print対応、PRINT Image MatchingⅡ対応、 言語設定（日本語、英語）、世界時計（時差設定）

入出力端子	
ビデオ出力	NTSC/PAL方式（モノラル音声付き）
デジタル入出力	USB2.0 Hi-Speed、PTP/MTP接続
DC入力端子	専用ACパワーアダプター AC-84V（別売）

次ページにつづく

電源部、その他

<table>
<tr><td>電源</td><td>充電式バッテリー NP-140（付属）
専用ACパワーアダプター AC-84V（別売）</td></tr>
<tr><td>バッテリー作動枚数の目安（フル充電時）</td><td>
<table>
<tr><th>バッテリーの種類</th><th>液晶モニター使用時</th><th>液晶ファインダー使用時</th></tr>
<tr><td>NP-140(1150mAh)</td><td>約250枚</td><td>約250枚</td></tr>
</table>
CIPA（カメラ映像機器工業会：Camera & Imaging Products Association）規格によるバッテリー寿命測定方法（抜粋）：バッテリーは付属のものを使用。記録メディアは xD-ピクチャーカード を使用。液晶モニター ON、温度（+23℃）、30秒ごとに1回撮影。撮影ごとに光学ズームを広角側と望遠側で交互に繰り返して端点まで移動し、2回に1回フラッシュをフル発光、10回に1回電源OFF/ONして撮影。
・注意：バッテリーの充電容量により撮影可能枚数の変動があるため、ここに示すバッテリー作動可能枚数を保証するものではありません。低温時ではバッテリー作動可能枚数が少なくなります。</td></tr>
<tr><td>本体外形寸法</td><td>133.4mm×93.6mm×150.4mm（幅×高さ×奥行き）＊突起部含まず</td></tr>
<tr><td>本体質量</td><td>約918g（付属バッテリー、メモリーカード含まず）</td></tr>
<tr><td>撮影時質量</td><td>約968g（付属バッテリー、メモリーカード含む）</td></tr>
<tr><td>動作環境</td><td>温度0℃～+40℃　湿度80%以下（結露しないこと）</td></tr>
</table>

バッテリー NP-140

公称電圧	7.2V
公称容量	1150mAh
使用温度	0℃～＋40℃
本体外形寸法	35.5mm×56.0mm×13.3mm（幅×高さ×厚み）
質量	約47g

バッテリーチャージャー BC-140

電源	AC 100V～240V　50/60Hz
定格入力容量	14VA～20VA
出力電圧	DC8.4V　720mA
充電時間	NP-140　（1150mAh） 約130分（約2時間10分）
使用温度	0℃～＋40℃
外形寸法	68mm×84mm×28mm（幅×高さ×奥行き）
質量	約83g（バッテリー含まず）

次ページにつづく

■ xD-ピクチャーカード 、SDメモリーカード、内蔵メモリー標準撮影枚数/記録時間

標準撮影枚数及び撮影時間の枚数は目安です。実際の撮影枚数及び撮影時間は、撮影条件やメモリーカードの種類により変動します。また、液晶モニターに表示される記録枚数・時間は規則正しく減少しないことがあります。

ピクセル		11M F	11M N	3:2	6M	3M	2M	03M	RAW	動画 640	動画 320
記録画素数		3840×2880（約1100万）		4032×2688（約1084万）	2816×2112（約595万）	2048×1536（約315万）	1600×1200（約192万）	640×480（約31万）	—＊1	640×480	320×240
画像1枚のファイルサイズ		5.4MB	2.7MB	2.7MB	1490KB	800KB	650KB	150KB	23.2MB	—	—
内蔵メモリー（約25MB）		4	8	9	16	31	38	170	1	21秒	43秒
xDピクチャーカード	DPC-16（16MB）	2	5	5	10	19	23	98	0	13秒	27秒
	DPC-32（32MB）	5	11	11	21	38	48	198	1	27秒	54秒
	DPC-64（64MB）	11	23	23	42	77	96	398	2	55秒	1分50秒
	DPC-128（128MB）	23	46	47	85	156	194	798	5	1分51秒	3分41秒
	DPC-256/M256（256MB）	46	93	94	171	313	389	1597	11	3分44秒	7分23秒
	DPC-512/M512（512MB）	93	186	189	343	626	779	3194	22	7分28秒	14分46秒
	DPC-M1GB（1GB）	187	373	380	687	1253	1559	6396	44	14分58秒	29分35秒
	DPC-M2GB（2GB）	376	743	761	1360	2460	3046	12794	88	29分57秒	59分11秒
SDメモリーカード	512MB	90	180	183	332	606	754	3093	21	7分14秒	14分18秒
	1GB	181	362	368	666	1214	1511	6196	42	14分30秒	28分39秒
	2GB	364	720	737	1319	2384	2952	12401	85	29分02秒	57分22秒
SDHCメモリーカード	4GB	729	1442	1477	2640	4772	5909	24819	171	58分06秒＊2	114分49秒＊2
	8GB	1464	2895	2964	5298	9577	11858	49805	343	116分37秒＊2	230分26秒＊2

＊1 付属のソフトを使用してパソコンで展開されるときの画素数は5440×4080ピクセルです。
＊2 動画を連続して記録する場合、約2GBで自動的に撮影停止します。停止後に続けて撮影したい場合は、再度シャッターボタンを押してください。記録可能時間表示は約2GBで計算されます。

用語の解説

EV
: 露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムやCCDなどの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することによりCCDに与える光量を一定にしています。
CCDに与えられる光量が2倍になるとEV値は＋1、半分になるとEV値は－1変化します。

Exif（イグジフ）ファイル形式
: Exif（イグジフ）は、電子情報技術産業協会（JEITA）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。さらにフォルダ構造、フォルダ名についての規定を含めて、DCFがJEITA規格になっています。

JPEG（ジェイペグ）
: Joint Photographic Experts Groupの略で、もとは画像圧縮の標準化を推進している組織の名称。そこで標準化したカラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。

Motion JPEG（モーション ジェイペグ）
: 画像と音声の両方をひとつのファイルで扱うためのファイルフォーマット AVI（Audio Video Interleave）形式の1種類であり、ファイル内の画像はJPEG形式で記録されています。
パソコンでは下記のソフトで再生できます。
Windows　：Windows Media Player　＊DirectX8.0以降必要
Macintosh：QuickTime Player　＊QuickTime3.0以降

WAVE（ウェイブ）
: 音声を保存するためのWindowsにおける標準フォーマットで、拡張子は“.WAV”です。
記録形式には非圧縮記録と圧縮記録があります。本機では非圧縮記録を採用しています。
パソコンでは下記のソフトで再生できます。
Windows　：Windows Media Player
Macintosh：QuickTime Player　＊QuickTime3.0以降

スミア
: 撮影画面内に太陽やその反射光など非常に明るい輝点があるときに、画像に白いスジが写るCCD特有の現象。

デジタルズーム
: レンズを動かすことで、被写体を拡大して撮影する光学ズームとは異なり、カメラの内部処理で被写体を大きく見せて撮影する機能です。光学ズームと併用すると、より大きく撮影することができますが、撮影された画像の画質は劣化します。

フレームレート
: フレームレートとは1秒間に撮影または再生される画像の数（コマ数）を表す単位で、例えば1秒間に10コマを連続して撮影している場合は10フレーム/秒と記します。
参考　テレビは約30フレーム/秒です。

ホワイトバランス
: 人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整をホワイトバランスを合わせるといいます。

索引

カメラ編

【アイコン（抜粋）】詳細は本文をご参照ください。

➡AEブラケティング.......... 82, 92
➡ASTIA.......... 87
➡PORTRAIT.......... 87
➡PROVIA.......... 87
➡Velvia.......... 87
➡赤目軽減+スローシンクロ.......... 76
➡赤目軽減オート.......... 75
➡赤目軽減+強制発光.......... 76
➡エンドレス連写.......... 83
AUTO➡オートフラッシュ.......... 75
➡強制発光.......... 76
➡クイックショット.......... 98
➡高速連写3M.......... 81
➡サイクル連写.......... 83
➡再生モード.......... 42
A➡絞り優先オート.......... 61
S➡シャッタースピード優先オート.......... 59
➡消去.......... 48
➡スーパーマクロ.......... 74
➡スノー（シーンポジション）.......... 55, 57
➡スポーツ（シーンポジション）.......... 55, 57
➡スローシンクロ.......... 76
➡セルフタイマー.......... 78
➡ダイナミックレンジブラケティング.......... 82
➡手ブレ警告.......... 32, 155
➡動画撮影.......... 116
➡ネイチャー（シーンポジション）.......... 55, 56
➡ネイチャーソフト（シーンポジション）.......... 55, 56
➡ネイチャービビッド（シーンポジション）... 55, 56
➡花の接写（シーンポジション）.......... 55, 56
➡花火（シーンポジション）.......... 55, 57
➡ビーチ（シーンポジション）.......... 55, 57
➡美肌（シーンポジション）.......... 55, 56
➡フィルムシミュレーションブラケティング.......... 82
➡フラッシュ.......... 32, 75
➡プリント予約.......... 114
➡プレゼント.......... 42
➡ブレ防止.......... 36
P➡プログラムオート.......... 58
➡ベビー（シーンポジション）.......... 55, 56
➡ポートレート（シーンポジション）.......... 55, 56
➡ポートレートソフト（シーンポジション）... 55, 56
➡マクロ撮影.......... 74
M➡マニュアル.......... 62
➡夜景（シーンポジション）.......... 55, 57
➡夕焼け（シーンポジション）.......... 55, 57
➡連写.......... 81
➡露出補正.......... 65
.... 32, 75

【A～L】

ACパワーアダプター.......... 133
AEブラケティング.......... 82, 92
AF.......... 31, 37
AF/AEロック.......... 38
AF警告.......... 34, 155
AF補助光.......... 39, 121, 122
AFモード.......... 96
ASTIA.......... 87

C1/C2➡カスタムモード............ 64
C-AF➡コンティニュアスAF............ 69
CCD-RAW............ 121, 127
DPOF➡プリント予約............ 111
EVF/LCD表示............ 121, 122
EVF（液晶ビューファインダー）............ 30
FSB➡フィルムシミュレーションブラケティング............ 54
iフラッシュ............ 75
LCD（液晶モニター）............ 30

【M〜X】
NTSC/PAL............ 121, 123
P in P（フォーカス確認機能）............ 121, 127
PictBridge機能............ 134
PORTRAIT............ 87
PROVIA............ 87
SDHCメモリーカード............ 21, 22
SDメモリーカード............ 21
SP➡シーンポジション............ 55
USB接続............ 134, 146
Velvia............ 87
xD-ピクチャーカード............ 21

【あ】
赤目軽減............ 75
赤目軽減+スローシンクロ............ 76
赤目補正............ 34, 101
明るさ（画面）............ 121, 129
明るさ（露出補正）............ 65
アフターサービス（修理）............ 179
インジケーターランプ............ 34
液晶ビューファインダー ➡EVF............ 30
液晶モニター ➡LCD............ 30
エリア選択（AFモード）............ 96, 97
エンドレス連写............ 83
オートエリア（AFモード）............ 96
オート撮影（AUTO）............ 29, 54
オートパワーオフ➡自動電源OFF............ 121, 130
オートフォーカス（AF）............ 31, 37
オートフラッシュ............ 75
音量（シャッター音量、操作音量）............ 121, 123
音量（動画）............ 120, 121, 128
音量（ボイスメモ）............ 109, 121, 128

【か】
海外へお持ちになる方へ............ 130
外部フラッシュ............ 94
顔キレイナビ（顔検出機能）............ 34
拡大➡“ズーム”をご覧ください............ 40, 44, 117
カスタムホワイトバランス............ 91
カスタムモード............ 64
カスタムモード保存............ 98
画像回転............ 102
画像コピー............ 105
画素数➡“ピクセル”をご覧ください............ 88, 118
画面（明るさの調節）............ 121, 129
画面（表示の切り換え）............ 41, 43
カラー............ 89
強制発光............ 76
切り抜き➡トリミング............ 109
記録画素数➡“ピクセル”をご覧ください............ 88, 118
クイックショット............ 98
言語選択............ 25, 121, 123
光学ズーム（静止画撮影時）............ 40
高速連写3M............ 81

コマNO.（コマナンバー）................................ 121, 125

【さ】

サイクル連写.. 80, 83
再生インフォメーション... 99
再生音量.................................. 109, 120, 121, 128
再生ズーム 44
再生モード 42
削除➡消去 48
撮影画像表示... 121, 124
撮影可能距離➡ピントの合う範囲..................... 29, 117
撮影可能距離（フラッシュ）... 77
撮影可能距離➡ピントの合う範囲（マクロ)................ 74
撮影可能枚数（バッテリー）..................................... 168
撮影可能枚数（メディア）.. 170
撮影モード 54
サポート➡裏表紙に記載 188
シーン選択 55
シーンポジション 55
自動電源OFF 121, 130
視度調節.. 6, 30
絞り優先オート.. 61
シャープネス... 90
シャッター音量.. 121, 123
シャッタースピード優先オート................................... 59
充電 17
修理 179
消去 48
焦点距離.. 40, 117
初期化（カメラ）➡リセット 121, 123
初期化（メモリーカード、内蔵メモリー）
➡フォーマット.. 121, 129
シンクロターミナル 5, 95
スーパーマクロ 74
ズーム（再生時）➡再生ズーム................................... 44
ズーム（静止画撮影）... 40
ズーム（動画撮影）.. 117
ストラップ 2, 15
ストロボ➡フラッシュ 32, 75
スノー（シーンポジション）................................ 55, 57
スポーツ（シーンポジション）............................. 55, 57
スライドショー 101
スローシンクロ 76
静止画撮影 29
世界時計 121, 130
セットアップ... 121
セルフタイマー 78
センター固定（AFモード）.. 96
操作音量.. 121, 123

【た〜な】

ダイナミックレンジ 87
ダイナミックレンジブラケティング.............................. 82
デジカメプリント.. 115
デジタルズーム 40
手ブレ警告 32, 155
テレビ接続 132
電源 25
電池➡バッテリー 17, 19
動画再生... 119
動画撮影... 116
トーン 89
トリミング 109
内蔵メモリー.. 24

日時の再設定 28, 121, 123
日時の設定 25
ネイチャー（シーンポジション） 55, 56
ネイチャーソフト（シーンポジション） 55, 56
ネイチャービビッド（シーンポジション） 55, 56

【は】

配色設定 121, 123
パソコン接続 139
バッテリー 17, 19
バッテリー残量警告 18
花の接写（シーンポジション） 55, 56
花火（シーンポジション） 55, 57, 58
バルブ撮影 63
半押し 31, 38
ビーチ（シーンポジション） 55, 57
ビープ音量➡操作音量 121, 123
ピクセル（静止画） 88
ピクセル（動画） 118
ピクトブリッジ➡PictBridge機能 134
ヒストグラム 99
日付あり設定（プリント予約） 112
日付ありプリント（PictBridge） 135
日付再生 46
ビデオ出力 121, 123
ピントを合わせる 31, 37
フィルター 32
フィルムシミュレーション 87
フィルムシミュレーションブラケティング 82
フォーカスモード（切り換え） 4
フォーマット 121, 129
付属品 2
ブラケティング 82, 92
フラッシュ 32, 75
フラッシュ（光量補正） 93
フラッシュ発光禁止 76
プリントできる大きさ 88
プリント予約 111
フレーミングガイド表示 41
プレゼント 42
ブレ防止 36
プログラムオート 58
プログラムシフト 58
プロテクト 103
ベストフレーミング➡フレーミングガイド表示 41
ベビー（シーンポジション） 55, 56
ボイスメモ 106
ポートレート（シーンポジション） 55, 56
ポートレートソフト（シーンポジション） 55, 56
ホワイトバランス（WB） 90

【ま〜や】

マイクロサムネイル 45
マクロ撮影 74
マニュアル 62
マルチ再生 45
メモリーカード➡SDメモリーカード 21
メモリーカード➡ **xD-ピクチャーカード** 21
モードダイヤル 52
モニター明るさ 121, 129
夜景（シーンポジション） 55, 57
夕焼け（シーンポジション） 55, 57

【ら～わ】

リセット.. 121, 123
リモートレリーズ 33
連写.. 81
レンズキャップ.. 15
レンズフード.. 16
録音➡ボイスメモ 106
露出補正.. 65
ワンプッシュ AF.. 70

ソフトウェア編

【A～Z】

CD-ROMのバージョン 139
Exif Launcher.. 148
Image Capture 145

【あ～ん】

アンインストール.. 150
ご質問用紙 178
自動起動設定 145
動作環境（Mac OS X） 143
動作環境（Windows）.. 140
パソコンと接続する.. 146
ヘルプ 151

ソフトウェアのお問い合わせについて

1 お問い合わせの前にお確かめください。
ソフトウェアのインストール、FinePixViewerの使い方は使用説明書（本書）やFinePixViewerのヘルプから調べることができます。

2 富士フイルム製品Q&A・お問い合わせ
（http://fujifilm.jp/support/digitalcamera/index.html）、またはインターネットメニューの「サポート登録変更」から、ホームページで調べてください。

＊「サポート」をご利用いただくには画像ネットサービスへのユーザー登録が必要です。

3 裏表紙のお問い合わせ先にFAX、電話でお問い合わせください。
より早く正確な回答のために、178ページのご質問用紙にご記入の上、下記の情報もご用意ください。

・ カメラの機種名
・ FinePixViewerのバージョンまたはCD-ROMのタイトル
・ エラーメッセージ
・ どのようなときにトラブルが発生しますか？ /トラブルが発生する直前の操作は？ /カメラの状態は？ /トラブルが発生する頻度は？

ご質問によっては回答するまでに時間を要する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

※あらかじめ「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

次ページにつづく

■ ご質問用紙

FAXでのお問い合わせは、この「ご質問用紙」をA4サイズにコピーして、質問事項および使用環境を詳しくお書きください。ボールペン、サインペンで楷書にてお書きください。

<table>
<tr><td>フ リ ガ ナ</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>お 名 前</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>ご 住 所</td><td colspan="3">〒 －</td></tr>
<tr><td>電 話 番 号</td><td>（ ） －</td><td>ファクス番号</td><td>（ ） －</td></tr>
<tr><td>E-mail</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>ご 記 入 日</td><td colspan="3">年 月 日</td></tr>
<tr><td>カメラの機種名</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>FinePixViewerのバージョン
またはCD-ROMのタイトル</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>コンピュータ機種名</td><td></td><td>OSバージョン</td><td></td></tr>
<tr><td>メ モ リ 容 量</td><td>MB</td><td>ハードディスク容量</td><td>GB</td></tr>
<tr><td>接 続 機 器 名</td><td></td><td>そ の 他</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">エラーメッセージなど</td></tr>
<tr><td colspan="4">ご質問内容</td></tr>
</table>

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店に所定事項を記入していただき、大切に保存してください。
- 保証期間中は、保証書の記載内容に基づいて無償修理をさせていただきます。保証規定に基づく修理をご依頼になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店または修理サービスセンターにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。

修理

■ 調子が悪い時はまずチェックを

本書の「困ったときは」をご覧ください。
使い方の問題か、故障か迷うときは、FinePixサポートセンターへお問い合わせください。電話番号が裏表紙に記載されています。

■ 故障と思われるときは

富士フイルム修理サービスセンターまたは当社サービスステーションに修理をご依頼ください。富士フイルム修理サービスセンター、サービスステーションのご案内が裏表紙にあります。依頼方法は、次のページの中からお客様のご都合によりお選びください。

■ 修理ご依頼に際してのご注意

- 本書巻末にある「修理依頼票」をコピーしていただき、必要事項をご記入の上、製品に添付してください。「修理依頼票」は、故障箇所を正確に把握し、迅速な修理を行うための貴重な資料になります。
- 修理料金の見積をご希望の場合には、「修理依頼票」の「見積」欄にご記入ください。ご指定のないときは、修理を進めさせていただきます。なお、見積は有料となります。
- 落下･衝撃､砂･泥かぶり､冠水･浸水などにより、修理をしても機能の維持が困難な場合には、修理をお断りする場合もあります。
- 内蔵メモリー内の画像は、カメラ本体の故障などによりデータが壊れたり、消失することがあります。大切なファイルは別のメディア（ハードディスク、CD-R、CD-RW、DVD-Rなど）にコピーして、バックアップしてください。修理に出すときには、内蔵メモリー内のデータは消してください。内部の基板交換等した場合、内蔵メモリー内のデータは保証できません。カメラ修理の際、内蔵メモリー内のデータを確認させていただく場合があります。

■ 修理部品について

- 本製品の補修用部品は、製造打ち切り後８年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。ただしこの期間中であっても、部品都合等により、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 本製品の修理の際には、環境に配慮し再生部品や再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。交換部品が必要な場合には、修理をご依頼されるときにその旨をお伝えください。

個人情報の取扱について

当社は、お客様の住所・氏名・電話番号等の個人情報を大切に保護するため、個人情報保護に関する法令を遵守するとともに、電話問い合わせ時あるいは修理依頼時にご提供いただいたお客様の個人情報を次のように取扱います。

1. お客様の個人情報は、お客様のお問い合わせに対する当社からの回答、修理サービスの提供およびその後のユーザーサポートの目的にのみ利用いたします。
2. 弊社指定の宅配業者、修理業務担当会社、その他の協力会社に当社が作業を委託する場合、委託作業実施のために必要な範囲内でお客様の個人情報を開示することがございます。開示にあたりましては、盗難・漏洩等の事故を防止し、また当社より委託した作業以外の目的に使用しないよう、適切な監督を行います。
3. ご提供いただいたお客様の個人情報に関するお問い合わせ等は、FinePixサポートセンター等のお問合せ先、富士フイルム修理サービスセンターあるいは修理依頼先サービスステーション宛にお願いいたします。

次ページにつづく

修理の依頼方法は、下記の中からお客様のご都合に合わせてお選びください。

●FinePixクイックリペアサービス

「お預かり」・「梱包」・「修理」・「お届け」をワンパックにした、お預かりからお届けまでが最短3日の宅配修理サービスです。

- 申し込みは、以下から選択してください。
  【クイックリペアサービス申し込み先】
  インターネット ：
  http://repairlt.fujifilm.co.jp/quick/index.php
  ナビダイヤル：0570-00-9555
  ※ 受付時間：月～土 9:00～17:00（日・祝日・年末年始を除く）
  ※ PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、「0228-35-3586」に電話してください。
  ファクス：0570-06-0070
  申し込みに際し、179ページの「個人情報の取扱について」をご確認下さい。
- 当社指定の宅配業者が、ご指定の日時にお預かりに伺い、修理完了品をご自宅までお届けします。
- 保証期間内外を問わず、全国一律のサービス料金が必要です。また有償修理の場合には、別途修理料金が必要です。
- 修理料金は、修理完了品お届け時に宅配業者に直接お支払いください。

●FinePix特急30分修理（持込修理）

サービスステーションに直接お越しいただいたお客様を対象とした、30分を目安にその場で修理を行う持込修理サービスです。

- 下記サービスステーションにてFinePix特急30分修理を実施しております。

東京 大阪 名古屋 札幌 福岡	当社ホームページ http://fujifilm.jp/support/repairservice/servicestation/index.html をご覧ください。 ※ 仙台サービスステーションではFinePix特急30分修理は実施しておりません。

- その場で修理を行うことができます。後日引き取りもできます。
- 特急修理のために特別なサービス料金は不要です。ただし有償修理の場合には、別途修理料金が必要です。
- 修理料金は、お引取り時にサービスステーション窓口でお支払い下さい。

●富士フイルム修理サービスセンターへの送付修理

- ご依頼の際「修理依頼票」を記載の上修理依頼品に添付してください。
- 修理料金は、修理完了品お届け時に宅配業者に直接お支払いください。

●お買上げ店への持込修理

- 修理料金及びその支払方法については、お持ちいただいたお店にご確認下さい。

■ 修理に関する情報は

- 修理サービスQ&A
  http://repairIt.fujifilm.co.jp/faq/after/index.html
  修理依頼方法、紛失した付属品の購入方法など修理に関するよくある質問と回答をまとめて掲載しています。
- 修理納期検索サービス
  http://repairIt.fujifilm.co.jp/repair/certificate.jsp
  東京もしくは大阪のサービスステーションおよび富士フイルム修理サービスセンターへ修理依頼品を送付、あるいは持ち込みされた場合、修理完了予定日を検索することができます。
- FinePix修理概算見積サービス
  http://repairIt.fujifilm.co.jp/estimate/index.php
  当社サービスステーションに直接修理依頼された場合の目安の修理料金を算出できます。

富士フイルム株式会社

●本製品に関するお問い合わせは…

※予め「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

富士フイルムFinePixサポートセンター

ナビダイヤル 0570-00-1060 / 携帯電話・PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は 0228-35-1088

市内通話料金でご利用いただけます
⇒呼び出し音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。

月曜日～金曜日　午前9:00～午後5:40　土曜日　午前10:00～午後5:00　日・祝日・年末年始を除く

FAX　0570-06-7555　受付時間：24時間（返信対応は電話の受付時間と同一です）

●本製品の関連情報は、下記のホームページをご覧ください。

http://fujifilm.jp/　※弊社ホームページの自己解決に役立つ「Ｑ＆Ａ検索」もご利用ください。

●修理の受付は…　※詳細は本文中の「アフターサービスについて」をご覧ください。また、予め「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

■修理のご相談受付窓口　富士フイルム修理サービスセンター

ナビダイヤル 0570-00-0081 / PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は 0228-35-3586

⇒呼び出し音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。

月曜日～金曜日　午前9:00～午後5:40　土曜日　午前10:00～午後5:00　日・祝日・年末年始を除く

FAX　0570-06-0070　受付時間：24時間（返信対応は電話の受付時間と同一です）

■修理品ご送付受付窓口　富士フイルム修理サービスセンター
〒989-5501 宮城県栗原市若柳字川北中文字95-1　/ TEL：0228-35-3586

▶ お急ぎの場合は、全国どこからでも

【FinePix クイックリペアサービス】：お預かりからお届け迄が最短3日の宅配修理サービス
インターネット：http://repairlt.fujifilm.co.jp/quick/index.php　/ ナビダイヤル：0570-00-9555

■修理品お持込窓口　全国６箇所のサービスステーション（東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・福岡）でも修理をお受けします。
サービスステーションにつきましては、当社ホームページhttp://fujifilm.jp/をご確認ください。

▶ お近くにサービスステーションがあれば

【FinePix 特急修理30分】：30分を目安にその場で修理を行う持込修理サービス

●本製品以外の富士フイルム製品のお問い合わせは…

お客様コミュニケーションセンター（月曜日～金曜日　午前9:30～午後5:00）TEL　03-5786-1712

Printed in China

お取り扱いにご注意ください

ご注意：CD-ROM のパッケージ開封前に必ずお読みください。

富士フイルム株式会社がお客様に提供する CD-ROM のパッケージ開封前に必ず本ソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。お客様は、本ソフトウェア使用許諾契約書に同意された場合にのみ、CD-ROM に記録されたソフトウェアを使用できます。お客様が CD-ROM のパッケージを開封された場合、お客様は本ソフトウェア使用許諾契約書に同意されたものとみなします。

ソフトウェア使用許諾契約書

お客様と富士フイルム株式会社（以下富士フイルムといいます）は、富士フイルムがお客様に提供する CD-ROM に記録されたソフトウェアの使用につき、以下のとおり契約します。富士フイルム以外の事業者のソフトウェアで、本契約とは別の使用許諾契約が付されたソフトウェアの使用については、当該使用許諾契約の規定が本契約に優先するものとします。

1. 定義
（1）本 CD-ROM とは、富士フイルムがお客様に提供する CD-ROM「Software for FinePix」を指します。
（2）本ソフトとは、富士フイルムがお客様に提供する、本 CD-ROM に記録されたソフトウェアを指します。
（3）関連資料等とは、富士フイルムがお客様に提供する本ソフトの使用説明書その他本ソフトに関する資料を総称して指します。
（4）本製品とは、富士フイルムが提供する本 CD-ROM と関連資料等を総称して指します。

2. 使用権の許諾
富士フイルムはお客様に対し、本ソフトに関する以下の非独占的、譲渡不能の権利を許諾します。
① 機械読み取り可能な形式で、1 台のコンピュータに本ソフトをインストールし、使用する権利
② バックアップ目的にて本ソフトを 1 部に限り複製する権利

3. 禁止事項
（1）お客様は富士フイルムの事前の書面による承諾なく、本ソフト、本 CD-ROM および関連資料等の第三者への譲渡、貸与またはその他の処分をし、また富士フイルムより許諾された権利を第三者に再許諾等してはいけません。
（2）お客様は、本契約にて明示的に認められた場合を除き、本ソフトおよび関連資料等を複製してはいけません。
（3）お客様は、本ソフトおよび関連資料等を改変・変更・翻案し、また本ソフトおよび関連資料等に付された著作権表示その他財産権の表示を削除してはいけません。
（4）お客様は、本ソフトのリバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルをしてはいけません。また第三者をしてこれらの行為をさせてはいけません。

4. 著作権その他の知的財産権
本ソフトおよび関連資料等に関する著作権その他の知的財産権は、富士フイルムまたは本ソフトおよび関連資料等に記載された権利者に帰属します。本契約によりお客様に許諾された場合を除き、明示または黙示を問わずいかなる権利もお客様に譲渡されまたは許諾されません。

5. 保証および免責
（1）お客様が本製品をお買上げ後 90 日以内に本 CD-ROM に読み取り不能等の物理的欠陥が見つかった場合、富士フイルムは無償にて良品と交換します。
（2）本製品による第三者の著作権その他知的財産権の侵害の有無に関し、富士フイルムは何ら保証を行わないものとし、本製品の使用による第三者の著作権その他知的財産権の侵害およびそれによって生じるすべての損害につき、富士フイルムは一切責任を負いません。
（3）本製品は提供時の状態のままお客様に提供されるものです。富士フイルムは、第（1）項に定めるほか、商品性の保証、特定目的への適合性その他本製品につき、一切保証しません。

6. 責任の制限
富士フイルムは、「5．保証および免責」に明記されている場合を除き、いかなる場合においても、本製品の使用や使用不能から生じる損害（逸失利益、付随的、特別あるいは結果的な損害を含みますがこれに限りません）について一切責任を負いません。

7. 輸出関連法の遵守
お客様は、本ソフトを日本国の「外国為替及び外国貿易法」その他の輸出規制関連法に違反して日本国外に持ち出す等の行為を行ってはなりません。

8. 解除
お客様が本契約に違反した場合は、富士フイルムは何らの通知・催告をすることなく直ちに本契約を解除することができます。

9. 契約期間
本契約は、お客様が本ソフトの使用を開始した日に発効し、「8．解除」に基づき本契約が解除され、またはお客様が本ソフトの使用を終了するときまで有効とします。

10. 契約終了後の義務
本契約が終了した場合、お客様はお客様の責任にて本ソフト（複製物を含む）、本 CD-ROM および関連資料等をすべて消去・廃棄するものとします。

ソフトウェアに関するご注意

⚠ 本製品に同梱されている CD-ROM を音楽用 CD プレーヤーにかけないでください。耳に障害を負う恐れや、スピーカー、イヤホンなどを破損する恐れがあります。

■使用説明書について
使用説明書はパーソナルコンピュータ（以下パソコンといいます）と Windows、Macintosh の使用方法に関する基本的な知識をお持ちになっていることを前提として書かれています。パソコンと Windows、Macintosh の使用方法については、それぞれに付属のマニュアルをご覧ください。表示される画面やメニューが使用説明書と異なる場合がありますがご了承ください。

カメラをお使いになる前のご注意

ご使用になる前に必ず裏面をお読みください。

■撮影の前には試し撮りをしましょう
大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをし、画像を再生して撮影されていることを確認してください。
※本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■著作権についてのご注意
あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やファイルの記録されたメモリーカードの転送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■製品の取り扱いについて
画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像ファイルが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■液晶について
液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分にご注意ください。万一のときは、応急処置を行ってください。
- 皮膚に付着した場合：付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
- 目に入った場合：きれいな水でよく洗い流し、最低 15 分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■商標について
- xD、xD-Picture Card™、xD- ピクチャーカード ™ は富士フイルム（株）の商標です。
- Macintosh、iMac、iBook、Mac OS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Windows の正式名称は、Microsoft® Windows®Operating System です。
- IrSimple™ は Infrared Data Association® の商標です。
- IrSS™ または IrSimpleShot™ は、Infrared DataAssociation® の商標です。
- SDHC ロゴは商標です。
- その他の社名、商品名などは、日本および海外における各社の商標または登録商標です。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意
- 本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品を飛行機や病院の中で使用しないでください。使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因になることがあります。

カメラの使用上のご注意

■避けて欲しい保存場所
次のような場所での本機の使用・保管は避けてください。
- 雨天下、湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ
- 極端に寒いところ
- 振動の激しいところ
- 油煙や湯気の当たるところ
- 強い電磁場の発生するところ（放送塔、送電線、レーダー、モーター、トランス、磁石のそばなど）
- 防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■冠水、浸水、砂かぶりにご注意
水や砂は本機の大敵です。海辺、水辺などでは、水や砂がかからないようにしてください。また、水でぬれた場所の上に、本機を置かないでください。水や砂が本機の内部に入りますと、故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

■結露（つゆつき）にご注意
本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内外部やレンズなどに水滴がつくこと（結露）があります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、メモリーカードに水滴がつくことがあります。このようなときはメモリーカードを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは
本機を長時間お使いにならないときは、バッテリーまたは電池、メモリーカードを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ
- レンズ、液晶モニター表面などの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- レンズ、液晶モニター表面などは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質、変形したり、塗料がはげるなどの原因になります。

■海外で使うとき
- このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障、不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと国内の弊社サービスステーションにご相談ください。
- 海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因になることがあります。

メモリーカード / 内蔵メモリについてのご注意

詳細は、使用説明書をお読みください。

■メモリーカード取扱上のご注意
- メモリーカードは、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
- メモリーカードをカメラに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
- メモリーカードの記録中、消去（フォーマット）中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。メモリーカードが破壊されることがあります。
- 指定以外のメモリーカードはお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因になります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
- 静電気を帯びたメモリーカードをカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
- ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
- 長時間お使いになったあと、取り出したメモリーカードが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- メモリーカードにはラベル類は一切はらないでください。メモリーカードの出し入れの際、故障の原因になります。

■内蔵メモリーについて
- 内蔵メモリー内の画像は、カメラ本体の故障などによりデータが壊れたり、消失することがあります。大切なファイルは別のメディア（ハードディスク、CD-R、CD-RW、DVD-R など）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。
- 修理にお出しになった場合、内蔵メモリー内のデータについては保証できません。
- カメラ修理の際、内蔵メモリー内のデータを確認させていただく場合があります。

■メモリーカード、または内蔵メモリーをパソコンで使用する場合のご注意
- パソコンで使用したあとのメモリーカード、または内蔵メモリーを使って撮影する場合は、カメラでフォーマットしなおしてください。
- カメラでフォーマットして撮影、記録すると、自動的にフォルダが作成されます。画像ファイルは、このフォルダ内に記録されます。
- パソコンでメモリーカード、または内蔵メモリーのフォルダ名、ファイル名の変更、消去などの操作を行わないでください。メモリーカード、または内蔵メモリーがカメラで使用できなくなることがあります。
- 画像ファイルの消去はカメラで行ってください。
- 画像ファイルを編集する場合は、画像ファイルをハードディスクなどにコピーまたは移動し、コピーまたは移動した画像ファイルを編集してください。

FUJIFILM
富士フイルム株式会社
〒107-0052　東京都港区赤坂9-7-3

BL00646-100　1AG6P1P3772--

安全上のご注意

このたびは弊社製品をお買上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前に「安全上のご注意」と「使用説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは大切に保管してください。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や障害の程度を次の表示で説明しています。	
⚠ 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で説明しています。	
⚠	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
🛇	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

電源プラグを抜く	**異常が起きたら電源を切り、電池・バッテリーや AC パワーアダプターを外す。** 煙が出ている、異臭がするなど異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。 ・お買上げ店にご相談ください。
水ぬれ禁止	**内部に水や異物を落とさない。** 水・異物が内部に入ったら、電源を切り、電池・バッテリーや AC パワーアダプターを外す。そのまま使用すると、ショートして火災・感電の原因になります。 ・お買上げ店にご相談ください。
風呂、シャワー室での使用禁止	**風呂、シャワー室では使用しない。** 火災・感電の原因になります。
分解禁止	**分解や改造は絶対にしない（ケースは絶対に開けない）。落としたり、ケースが破損したときは使用しない。** 火災・感電の原因になります。 ・お買上げ店にご相談ください。
🛇	**接続コードの上に重い物をのせたり、加工したり、無理に引き曲げたり、加熱したりしない。** コードに傷がついて、火災・感電の原因になります。 ・コードに傷がついた場合は、お買い上げ店にご相談ください。
🛇	**不安定な場所に置かない。** バランスがくずれて倒れたり落下したりして、けがの原因になります。
🛇	**移動中の使用はしない。** 歩行中や自動車などの乗り物を運転しながらの撮影、再生などの操作はしないでください。転倒、交通事故などの原因になります。
🛇	**雷が鳴りだしたら金属部分に触れない。** 落雷すると誘電雷により感電の原因になります。
🛇	**指定外の方法で電池・バッテリーを使用しない。** 電池は極性（⊕⊖）表示どおりに入れてください。
🛇	**電池・バッテリーを分解、加工、加熱しない。** **電池・バッテリーを落としたり、衝撃を加えない。** **リチウム電池やアルカリ電池は充電しない。** **電池・バッテリーをショートさせない。** **電池・バッテリーを金属製品と一緒に保管しない。** **バッテリーを指定以外の充電器で充電しない。** 電池・バッテリーの破裂・液漏れにより、火災・けがの原因になります。

⚠ 警告

🛇	**指定外の電池・バッテリーや AC パワーアダプターを使用しない。** **表示された電源電圧以外の電圧で使用しない。** 火災の原因になります。
🛇	**電池の液が漏れて、目に入ったり、皮膚や衣服に付着したときは、失明やけがのおそれがあるので、ただちにきれいな水で洗い流し、すぐに医師の治療を受ける。**
🛇	**充電器で指定外の電池を充電しない。** ニッケル水素電池用充電器は、ニッケル水素電池 HR-AA 専用です。乾電池や他の充電式電池を充電すると、液もれ、発熱、破裂の原因になります。
❗	**電池を廃棄する場合や保存する場合には、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープをはる。** ・他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
❗	**メモリーカードは、乳幼児に触れさせないこと。** メモリーカードは、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠ 注意

🛇	**油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多い場所に置かない。** 火災・感電の原因になることがあります。
🛇	**異常な高温になる場所に置かない。** 窓を閉めきった自動車の中や、直射日光が当たる場所に置かないでください。 火災の原因になることがあります。
🛇	**小さいお子様の手の届くところに置かない。** けがの原因になることがあります。
🛇	**本機の上に重いものを置かない。** バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。
🛇	**AC パワーアダプターを接続したまま移動しない。AC パワーアダプターを抜くときは、接続コードを引っ張らない。** 電源コードやケーブルが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。
🛇	**電源プラグが痛んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。** 火災・感電の原因になることがあります。
🛇	**本機や AC パワーアダプターや充電器を布や布団でおおったりしない。** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。
❗	**お手入れの際や長時間使用しないときは、電池・バッテリーやACパワーアダプターを外し、電源プラグを抜く。** 火災・感電の原因になることがあります。
電源プラグを抜く	**充電終了後は充電器をコンセントから抜く。** コンセントにつけたままにしておくと火災の原因となることがあります。
🛇	**フラッシュを人の目に近づけて発光させない。** 一時的に視力に影響することがあります。 特に乳幼児を撮影するときは気をつけてください。
❗	**メモリーカードを取り出す場合、カードが飛び出す場合がありますので、指で受け止めた後にカードを引き抜くこと。** 飛び出したカードが当たり、けがの原因になることがあります。
⚠	**定期的な内部点検・清掃を依頼する。** 本機の内部にほこりがたまり、火災や故障の原因になることがあります。 ・2年に1度くらいは、内部清掃をお買上げ店にご依頼ください。

電源についてのご注意

※ご使用になるカメラの電池の種類をお確かめの上お読みください。

電池・バッテリーを上手に永くお使いいただくため、下記をお読みください。使い方を誤ると、電池・バッテリーの寿命が短くなるばかりか、液もれ、発熱・発火の恐れがあります。

❶充電式リチウムイオンバッテリー使用機種

※バッテリーは出荷時にはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。
※バッテリーを持ち運ぶときは、カメラに取り付けるか、ソフトケースに入れてください。

■バッテリーの特性
- バッテリーは使わなくても、少しずつ放電しています。撮影の直前(1～2日前)に充電したバッテリーを用意してください。
- バッテリーを長く持たせるには、できるだけこまめに電源を切ることをおすすめします。
- 寒冷地や低温時では撮影できる枚数が少なくなります。充電済みの予備バッテリーをご用意ください。また、使用時間を長くするために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付けてください。カイロをお使いになる場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意ください。低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しない場合があります。

■充電について
- 付属の充電器を使用して充電できます。
  - 充電は周囲の温度が 0℃～＋ 40℃の範囲で可能です。充電時間については、カメラ本体の使用説明書をご参照ください。
  - 充電は＋ 10℃～＋ 35℃の温度範囲で行ってください。＋ 10℃～＋ 35℃の温度範囲外で充電する場合、バッテリーの性能を劣化させないために充電時間が長くなることがあります。
  - 0℃以下の温度では充電できません。
- 充電式リチウムイオンバッテリーは充電の前に放電したり、使い切ったりする必要はありません。
- 充電が終わったあとや使用直後に、バッテリーが熱を持つことがありますが、異常ではありません。
- 充電が完了したバッテリーを再充電しないでください。

■バッテリーの寿命について
常温で使用した場合、約 300 回繰り返して使えます。使用できる時間が著しく短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

■保存上のご注意
- 充電された状態で長期間保存すると、特性が劣化することがあります。しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラや、バッテリーチャージャーから取り外してください。
- 涼しいところで保存してください。
  - 周囲の温度が＋ 15℃～＋ 25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。
  - 暑いところや極端に寒いところは避けてください。

❗ 危険ですので、次のことにご注意ください
- ⚠ バッテリーの金属部分に、他の金属が触れないようにしてください。
- ⚠ 火気に近づけたり、火の中に投げ込んだりしないでください。
- ⚠ 分解したり、改造したりしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。
- 水にぬらさないようご注意ください。
- 端子は常にきれいにしておいてください。
- 長時間高温の場所に置かないでください。また、長時間、バッテリーで使用していると、カメラ本体やバッテリーが熱を帯びますが、故障ではありません。長時間の撮影、再生には AC パワーアダプターをお使いください。

❷単 3 形アルカリ乾電池、単 3 形ニッケル水素電池使用機種

■使用できる電池
- 単 3 形アルカリ乾電池や単 3 形ニッケル水素電池を使用してください。
  単 3 形マンガン乾電池、単 3 形ニカド電池、単 3 形リチウム乾電池は、使用できません。
- アルカリ乾電池は銘柄により電池寿命（使用時間）の差があり、付属のアルカリ乾電池に比べ、電池寿命がかなり短い場合があります。

■取扱い上のご注意
- 火中に投入したり、加熱したりしないでください。
- プラス極とマイナス極を針金などの金属で接続したり、ネックレスやヘアピンなどの金属類と一緒に持ち運んだり保管しないでください。
- 水や海水につけたり、端子部分をぬらさないでください。
- 変形させたり、分解、改造をしないでください。
- 外装チューブをはがしたり、傷をつけないでください。
- 落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えないでください。
- 液もれしている、変形、変色、その他異常に気づいたときは使用しないでください。
- 高温、多湿の場所に保管しないでください。
- 幼児やお子様の手の届く範囲に放置しないでください。
- カメラに電池を入れるときは、極性（⊕ と ⊖）に注意して表示どおりに入れてください。
- 新しい電池と使用した電池（充電式電池の場合：充電済みの電池と、放電した電池)、あるいは種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間使用しないときは、電池を取り出しておいてください（電池を取り外して放置した場合、各種設定がクリアされます)。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 電池を交換するときは、すべてを新しい電池にお取り換えください。新しい電池とは、アルカリ乾電池では「最近購入した未使用のもの」、単 3 形ニッケル水素電池では「最近同時にフル充電した電池」のことです。
- 寒冷地（＋ 10℃以下）では電池の性能が低下し、使用可能時間が極端に短くなります。特にアルカリ乾電池はこの傾向がありますので、電池をポケットの中などで温めてからお使いください。また、カイロをお使いの場合は直接電池に触れないようにご注意ください。
- 電池の電極に皮脂などの汚れがあると撮影枚数が極端に少なくなることがあります。電池をセットする前に電極を乾いた柔らかい布で丁寧に清掃してください。

⚠ 万一、液もれが起こったときは、電池挿入部についた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

⚠ 電池の液が手や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。また、液が目に入った場合には失明の恐れがあります。こすらずに、きれいな水で洗ったあと、医師の診療を受けてください。

■単 3 形ニッケル水素電池を正しくお使いいただくための注意
- お買上げ時や長い間使用しなかったニッケル水素電池は「不活性」状態になっている可能性があります。また、まだ十分に使用できる状態で充電を繰り返すと「メモリー効果」が生じる可能性があります。
  「不活性」状態や「メモリー効果」が発生したニッケル水素電池では、充電後の使用可能時間が短くなる症状が出てきます。この症状を防ぐにはカメラに内蔵している充電池放電機能をお試しください。
  「不活性」や「メモリー効果」はニッケル水素電池固有のもので、故障ではありません。
  詳しくは、使用説明書本文をご覧ください。

❗注意 アルカリ乾電池使用時は「充電池放電」機能を使用しないでください。

- ニッケル水素電池の充電は、専用の急速充電器（別売）を使用し、急速充電器の「使用説明書」の指示に従って正しく行ってください。
- 急速充電器（別売）では、指定外の電池を充電しないでください。
- 充電直後の電池は高温になっていることがありますので、ご注意ください。
- カメラの機構上、電源を切っても微小電流が流れています。ニッケル水素電池を長期間カメラに入れたままにすると過放電状態になり、充電しても使えなくなることがありますので特にご注意ください。
- ニッケル水素電池は使わなくても自然放電しており、使用可能時間が少なくなることがあります。
- ニッケル水素電池は、放電し過ぎると急速に劣化します。(懐中電灯などでの放電)。放電はカメラの「充電池放電」機能をご使用ください。
- ニッケル水素電池にも寿命があります。放電と充電を繰り返しても使用可能時間が短い場合は、寿命の可能性があります。

■電池の廃棄について
- 電池を捨てるときは、地域の条例に従って処分してください。

❸両機種（❶、❷）共通のご注意

■小形充電式電池のリサイクルについて

小形充電式電池（リチウムイオンバッテリーまたはニッケル水素電池など）はリサイクル可能な貴重な資源です。ご使用済みの電池は、端子を絶縁するためにセロハンテープなどをはるか、個別にポリ袋に入れて最寄りのリサイクル協力店にある充電式電池回収 BOX に入れてください。
詳細は、「有限責任中間法人 JBRC」のホームページをご参照ください。http://www.jbrc.net/hp/

■AC パワーアダプターについてのご注意

必ず専用の AC パワーアダプター（別売、JEITA 規格、極性統一形プラグ付き）をお使いください。弊社専用品以外の AC パワーアダプターをお使いになるとカメラが故障する原因となることがあります。
AC パワーアダプターに関しての詳細は、使用説明書本文をご参照ください。
- 室内専用です。
- DC 入力端子へ、接続コードのプラグをしっかり差し込んでください。
- DC 入力端子から接続コードを抜くときは、カメラの電源を切って、プラグを持って抜いてください（コードを引っ張らないでください)。
- AC パワーアダプターは、指定の機器以外には使用しないでください。
- 使用中、AC パワーアダプターが熱くなるときがありますが故障ではありません。
- 分解したりしないでください。危険です。
- 高温多湿のところでは使用しないでください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- 内部で発信音がすることがありますが、異常ではありません。
- ラジオの近くで使用すると、雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。